

ヨリ貴國政府へ進達アランコトヲ希望ス。

清國公使 閣下ノ御意見至極御尤モニ候、本使モ未ダ本國政府ヨリ詳カナル報告ヲ得ザレドモ東學黨ハ朝鮮ノ官兵ニ敗ラレ全州ヲ退去シタルヤニ聞ケリ。頭初ノ勢ヒニ比スレバ殆ンド鎮定シタルノ様子ニ相見エタリ。然ルニ貴我兩國ノ軍隊力ヲ戮セテ此内亂ヲ鎮壓スベシトノ御協議アルハ、貴國政府ニ於テ我國ノ兵力ノミニテハ克ク彼ヲ討伐スルニ足ラズトノ御懸念ナルヤ、我國ノ軍隊牙山ニ陣シテ未ダ行動セザルハ、全ク内亂ノ根據ヲ探定シ、然ル後攻撃セントノ策ナリト聞キ及ビ居レリ、決シテ兵勢ノ不足ナル故ニアラズト信ズ。

外務大臣 決シテ貴國ノ兵勢ノ不足ヲ疑フニアラズ、貴國ノ軍隊ニテ此草賊ヲ討伐スルハ固ヨリ十分ナルベケレドモ、彼邦ノ現状ヨリ察スレバ、其内亂ノ平定一日遅ルレバ一日ノ害アルハ前述ノ如クナレバ、寧ロ一列ニ之ヲ平定スルコソ最上ノ良策ナルベシト思ハル、殊ニ其内亂ノ區域甚ダ廣キヤニ承リ居レバ、一方ヨリ貴國ノ軍隊ヲ進マシメ、他ノ一方ヨリ我軍隊ヲ以テ攻撃スル時ハ成功甚ダ容易ナルベシ。

清國公使 成程兩國軍隊ヲ以テ内亂ヲ討伐スルハ、一國ノ軍隊ヲ以テスルヨリモ其功速迅ナルベケレドモ、已ニ此レマデ接シタル通知ニ依レバ、其鎮定モ近キニアランカトノ際ニ至リ、兩國ノ軍隊ヲ同發スルハ實ニ無用ノ觀アリ、又我が政府ハ初メヨリ朝鮮ノ依頼ヲ受ケ出兵シタルニ、更ニ貴國ノ軍隊ヲ加ヘテ草賊ヲ平定セントスルハ、如何ニモ鶏ヲ割クニ牛刀ヲ用ユルニ均シ、殊ニ我が政府ハ曾テ貴國ニ知照シタル如ク、朝鮮ノ依頼ニヨリ已ムヲ得ズ兵ヲ出シ、其内亂ヲ平定セントスルモノナレドモ、貴國ハ始メヨリ公使館及ビ臣民ヲ保護スルノ目的ヲ以テ出兵セラレタルモノナレバ、其出兵ノ主意自ラ相異ナレリト思考ス。

外務大臣 天津條約ニ原ヅキ出兵ノ事ハ相互ニ知照スベキコト勿論ナレドモ、此知照タルヤ貴我兩國孰レモ、朝鮮國ニ出兵スルコトヲ通知スルニ止マリ、互ニ其出兵ノ目的如何ハ固ヨリ問フノ必要ナシ。然ルニ今回ノ如キ内亂曠日彌久ナル時ハ、意外ノ變態ヲ生ジ來ルヤモ計ラレザル掛念アレバ、我兵モ亦タ速カニ變亂ヲ鎮壓スルコトヲ勉メザルベカラズト信ズ。

清國公使 何レ御申聞ケノ趣ハ李中堂ニ電報ヲ致スベケレドモ、貴大臣唯今マデノ御話ハ特ニ此一條、即チ貴政府ノ御決議ヲ我が政府ニ御通知相成度トノ義ナルヤ、又ハ我が政府ニ御協議相成ル義ナルヤ、單ニ御通知ニ止マルコトナレバ我國駐在貴國公使ヲ經テ我が政府ニ御知照相成テハ如何。



外務大臣 此一條ノ行否ハ時機ニ依リ我が政府ガ自ラ斷行スベキモノナレドモ、突然此ノ如キ行動ヲ爲スヨリハ、初メヨリ貴國ト協議戮力シテ貴我ノ軍隊ヲ以テ内亂平定ノ功ヲ奏スルコトヲ得バ頗ル妥穩ナル方法ナリト信ジ、御打合せニ及ビタル次第ナレバ、殊更ニ貴政府ノ許可ヲ乞フ爲ニアラズ、併シ乍ラ斯ク申居ル内ニモ朝鮮國ニ於テ若シ我が國民ノ利害ニ關スルコト發シ、我が軍隊ハ既ニ東學黨ト交戦セザルヲ得ザル場合ニ立至リ居ルヤモ料リ難シ、殊ニ我が行商朝鮮内地ニ入り居ルモノモ少ナカラズ、若シ亂民ガ彼等ニ害ヲ加フル等ノ事アレバ、必ラズ之ヲ救フベキハ當然ト存候。茲ニ今一條御協議申度事ハ、朝鮮ノ如ク度々不時ノ内亂相起リ、其度毎ニ貴我兩國共ニ種々ノ煩累ヲ受クルコトハ實ニ迷惑ナルハ論ヲ俟タズ、亦今回ノ如ク貴我兩國ニ於テ出兵セザル場合アレバ、貴我兩國トモ其煩ニ堪ヘザル次第ナル故ニ、假リニ今回ノ騷亂鎮定シ、兩國ノ軍隊撤去シタリトセンカ、後日ニ至リ再ビ騷亂相起ランモ保シ難シ、朝鮮國今日ノ現状ヨリ察スレバ、兎ニ角鎮定ノ後ト雖モ我が政府ニ於テハ安心シ難キ事情多々有之、就テハ朝鮮政府ノ事ニ就テハ篤ト貴我兩國政府ニ於テ協議ヲ遂ゲ、特ニ今回ノ内亂ヲ平定スルコトニ勉ムルノミナラズ、將來永ク彼國ノ爲メ善後ノ策ヲ講ジ置クコト最モ必要ト思考ス。依テ茲ニ御相談申度キハ、朝鮮國ノ内亂治平ノ後ハ、兩國政府ヨリ譬ヘバ各三名ヅ、ノ常設

委員ヲ撰ミ同國ニ派遣シ、親シク政府ノ内政ヲ調査セシメ、第一同國ノ財政ヲ整理スルノ辦法ヲ按ジ、第二同國官吏ノ淘汰ヲ行ハシメ、第三彼國ニ相當セル丈ケノ兵備ヲ設ケシメ、今回ノ如キ内亂アルモ他國ノ兵力ヲ藉ラズシテ彼レ自ラ鎮撫シ得ル丈ケノ軍兵ヲ養成セシムル等ナリ。尤モ双方ノ委員ニ於テ調査ヲ完リタル結果トシテ、或ハ生産興業ヲ盛ニスルノ道モアルベク、或ハ財政整理ヲ爲スベキ見込ミモ相立ツベシ。貴國政府ニモ深ク將來ノ安危ヲ慮ラレ此提案ニ御同意アラシコトヲ望ム。

清國公使 同國ノ善後策ニ付テハ曾テ伊藤伯ヨリ承リ居レリ。同伯ハ先ヅ李中堂ノ意見ヲ聞クベキカ、又ハ同伯ヨリ提案スベキカ、何レトモ後日ノ事ニ致スベシトノ御話ナリシガ、即チ貴大臣ノ常設委員ノ議ハ伊藤伯ノ約サレタル提案ナラン。何レ我が政府ニ於テモ朝鮮内亂平定ノ上、善後ノ策ヲ講ズルニハ、貴國ト協議セザルヲ得ザル義ト思考ス。併シ此ハ全ク同國內亂鎮定シ、兩國共ニ撤兵シタル後緩々講ズベキ義ト思考ス。何レ貴政府ノ御意見ハ李中堂ニ委細通報可致候。

外務大臣 此提案ハ可成速カニ貴政府ニ御通知スル様致度、實ハ朝鮮今回ノ内亂平定シタルニモセヨ、何時如何ナル形勢ヲ變出スルヤモ料リ難キニ付テハ、我が政府ニ於テ朝鮮政府ガ自ラ平和ヲ回復シタリトノ一片ノ證言ノミヲ以テ何分心ヲ安ジテ撤兵致シ難シ、依テ



先づ貴政府ト協議ノ上委員ヲ派遣スルカ、或ハ別ニ貴政府ヨリ何か提出セラルベキ案ニ賛同スルカ、何レニシテモ到底後日ノ患ヒナシト十分安心ヲ得ル場合ニ至ラザレバ、容易ニ護衛ノ軍隊ヲ撤回スルニ至リ難キヤモ計ラレズ、同國ノ現状右ノ如クナレバ、假令今日兩國ノ兵ヲ撤スルモ、明日亦タ出兵ヲ出ササルヲ得ザル様ナル出來事生ズルヤモ料リ難シ、是レ今日ノ緊急事務トシテ此提案御協議ニ及ブ次第ナリ。

清國公使 御協議ノ提案ハ頗ル重大ノ件ニシテ、詳シク説明ヲ要スルモノナレバ、明後日ノ便船ヲ以テ書信ニテ李中堂へ稟報スベシ。但シ此一條タル、兩國政府ニ於テ各其意見ヲ吐露シテ商協ノ上ニテ決定スベキ事柄ナラント思フ。然ルニ此一條ノ協議纏ラザル間ハ、貴國政府ニ於テハ撤兵スルヲ肯ゼザル様ニ解セラレタリ。委員說ノ協議ニハ少ナクモ二三ヶ月ヲ要スベクト思考スルニ、其以前若シ朝鮮ノ内亂鎮定シタラバ、兩國互ニ一先づ軍隊ヲ引揚ゲ、其後徐ロニ此件ヲ協議セラル、モ敢テ遲シトセズ。殊ニ兩國協同シテ朝鮮政府ニ向テ善後ノ策ヲ申入レナバ、敢テ兵威ヲ藉ラザルモ同政府ニ於テ肯服セザル理ハアルベカラズ。然ルニ貴政府ニ於テハ此善後策ニ就キ我が政府ヨリ何等ノ通知アル迄ハ撤兵サレザルノ御積リナルヤ。

外務大臣 今日御協議ニ及ブ提案、即チ朝鮮ノ善後策ハ、因ヨリ撤兵ノ事ト混合シテ論ズベキ

モノニアラズ。然レドモ我が政府ハ十分安心シテ撤兵シ得ベキ時機ニ至ラザレバ未ダ俄カニ撤兵セザル積リナレドモ、此善後策ガ貴國政府ノ賛同ヲ得ルニ至レバ、是レ亦我が政府ニ安心ヲ與フルノ一助、否ナ大ナル一助ナラン。兎ニ角此件ハ頗ル緊急ヲ要スルコトユエ、可成ハ書信ヨリモ電信ヲ以テ貴政府へ御通知アリタシ。併シ是レハ全ク閣下ノ御意見ニ一任スルノ外ナシ。

清國公使 過刻ヨリノ御話中ニ自ラ撤兵ノ事ヲ提起セザルヲ得ザル場合アリシ故、談遂ニ該件ニ涉リタル次第ナリ。委員說ハ曾テ伊藤伯ノ言ハレタル善後策ノ事ナルベケレバ、早速李中堂ニ報告スベク、又兩國軍隊戮力シテ平亂ノ一條ハ至急ヲ要スルコトナレバ、電報ヲ以テ申シ遣ハスベシ。



## 牙山口ノ第一衝突

七月二十六日午後三時三十三分 天津發ノ清國側公電ナリトシテ傳フル所ニ依レバ、二十三日日本軍艦牙山口ニ於テ清國軍艦ニ遭遇シ日本側先キニ發砲シテ遂ニ接戦スルニ至ル。同日清國兵ノ陸路平壤ニ赴キタルモノハ甫メテ韓境ニ入りタリ。英、露兩國ハ佛、獨、米ノ諸國ト力ヲ合セテ日本ヲシテ兵ヲ退カシムル爲メ折衝シツツアルモ、其結果ハ如何ナルベキヤ、未ダ詳ナラズ。

七月二十八日東京發總理衙門宛ノ電報ナリトシテ支那側ノ傳フル所ニ依レバ、在日本商人保護ニ關シ、汪公使ハ米國公使ニ面託シ、其政府ノ允諾ヲ受ケ、並ニ日本外務省ニ赴キテ談妥セント欲シ、先ヅ米政府ノ覆准ヲ俟チ居リタルニ、已ニ旬日ヲ經ルモ杳トシテ回音ナシ、米公使ハ本國ニ電報ヲ發シ催促シタリト云フモ、尙ホ返答ナケレバ、更ニ總理衙門ヨリ在米楊公使ニ問合ハセラレタシ、如シ變卦ノコトモアラバ、更ニ英國ニ保護ヲ依託シテハ如何トノ報アリ。

清國兵ヲ搭ジテ牙山ニ赴キタル清國船ハ日本人ノ爲ニ擊沈セラレ「操江」ハ奪ハレ、廣乙ハ牙山ニ逃レタリト、又日本ハ十艘ノ軍艦ヲ派シ、其軍艦ハ各一艘ノ水雷艇ヲ帶ビ、釜山、元山、牙山ニ向ツテ赴キタリト。二十八日露公使ハ屬員ヲ清國公使館ニ派シテ謂ク、英國ハ率先シテ調處シタルモ、日本ハ清國ニ於テ允諾シタル上ニテ再ビ議スベシト答ヘタル由、今後如何ニ調處スベキヤ、又支那ニ於テ承諾スルヤ否ヤヲ問合スベキ旨ヲ託セラレタリト、事此ニ至リテハ調停ヲ以テ了ルベキニ非ラザルガ如シ。



## 朝鮮事件ト露國

露國ノ朝鮮事件ニ對スル舉動ヲ見ルニ、七月末「ウスリ」地方ヨリ若干ノ歩、騎、砲兵ヲ其國境ニ繰出シ、又「ウラヂオストック」ヨリ別ニ三艘ノ軍艦ヲ朝鮮海ニ派遣セシニ止マリ居ル様子ナリ。右兵隊繰出ノ趣意ハ、露國ニ於テハ目下日清衝突ガ如何ナル結果ヲ招來スベキニ關セズ、朝鮮國ニハ從來獨立ノ形成ヲ保タシムルノ所望タルモ、若シ美國ニ於テ巨文島ヲ扼スルカ、或ハ日本ニ於テ其土地ヲ分占スルノ形跡ヲ見ハシ、此地方ノ局面一變スルノ場合ニ至テハ、露國ニ於テモ進ンデ自己ノ利益ヲ保護スル準備ノ第一着手タリト爲スガ如シ。然ルニ其所謂自己ノ利益トハ元來當國ノ希望シ居ル元山占領ニ外ナラザルベキモ、之レニハ日本及ビ英國ノ抗スベキコトモ自ラ知り、又其兵力トテモ此用ニ供スベキモノハ目下東「シベリヤ」中ニ分屯ノ歩、騎、砲兵合セテ二萬ニ過ギズ。且ツ皆之ヲ動カスノ難キコト勿論ナレバ、容易ニ其目的ヲ進ムル事ニ決スベシトモ思ハレズ。然シ朝鮮ニ於ケル權力ノ日本ニ偏依スルコトモ其好マザル

所ナレバ、目下暫ク日清交戦ノ結果ヲ傍觀シ、外ニ對シテハ朝鮮國ノ成形ヲ維持スベシト主張シ、實際ニ於テハ將來ノ變ト英國ノ舉動如何トニ應ジ、成ル丈ケ外交手段ヲ以テ其所望ヲ達スルノ底意ナルガ如シ。

八月一日發布ノ宣戦ノ布告ハ直ニ露國政府ヘ通告シ置ケリ。爾來露國外務省ニ於テハ稍ヤ落着キシ様子ナルモ、未ダ局外中立ノ布告モ無ケレバ、八月十一日「アジャ」局長ニ對シ其理由ヲ訊ネタルニ、露國ニ於テハ猶ホ調停ニ力ヲ盡ス所存ナリトノミニテ之ヲ避ケシハ、全ク其所謂自己ノ利益保護上、未ダ決着スル所ナキニ由ルモノト思惟セラル。

日清兩國ノ開戦ニ付テハ、此地社會一般ノ感情ハ日本側ニ最氣勝チト見ユレド、朝鮮維持ノ論ニ付テハ諸新聞紙ヲ始メ多クハ自己ノ利益ヲ説テ露國政府ノ意見ヲ賛成スル方ナルモ、此點ニ於テハ自ラ彼我利益ノ反スル所ナルヲ以テ致方ナカルベシ。

明治二十七年八月十二日

露都ニ於テ 西 德 一 郎

上海評説ニ傳ヘラレタル露國軍艦八艘云々ハ「ウラヂオストック」發ノ三艘ノ訛傳ナルベク、



又去ル二十七日ニ「クロンシタット」ヨリ義勇艦隊ノ運送船「ペートルブルグ」號鐵道用ノ器具並ニ掛員等ヲ滿載シテ、「ウラヂオストーク」へ出發シタル訛傳ナルベシ。尤モ目下他ニ巡洋艦二艘出港ノ支度シツ、アルモノ有リ、多分朝鮮海へ向ケルモノナラントノ事ナリ。

清國ハ先般來、英、獨、米ノ諸國へ大ニ軍用器具ヲ注文セル由新聞紙上ニ見エタリ。(西德次郎)

## 朝鮮事件ト露國ノ意向

「ヒトロオ」公使ガ公然撤兵ノ勸告ヲ爲シタル由傳聞セシ以來、余ハ政府ヲシテ猶ホ深ク之ニ立入ラシメザルヲ以テ目的トシ、露國外務次官「アジャ」局長等ト談話スル際ニモ此論ノ起リシ原因ニ洩リ、我ガ平和ナル目的ノ達スベキ保證充分立ツマデハ、彼地ニ兵ヲ駐メ置クノ必要ヲ陳ベ、且ツ是ハ全ク日清間ノ事ナレバ、他國ノ之ニ干渉スルニ至テハ我邦ノ感覺ノ毀傷ハ免レズ、隨テ其國ト衝突ノ懼レナキヲ得ザルニヨリ、篤ト勘考ヲ煩ハス旨ヲ反復陳述セル而已ナラズ、少シク勢力アル知己ノ役人輩ヘモ、同様ノ趣意ヲ以テ常ニ論辯シ、又露國新聞紙中ニモ外國新紙ノ報道ニ依リ、我邦ノ舉動甚ダ過激ナル評說ヲ傳フル者モ有リ、露國一般ノ感情ヲ傷フノ懼レモ有レバ、此方面ニモ秘カニ手ヲ廻ハシ、成ル可ク傍觀ニ止マルヤウ盡力シツツアリ。露國ノ新聞紙類ハ我邦ニ對シ訓誨スル者モアレバ、稱揚スル者モアリ、其評說ノ一般ハ別紙拔萃ノ如シ。社會ノ意向モ之ニ類シテ區々タリ。然レドモ近日我邦最良ノ說モ稍ヤ増長ノ由傳聞



ス。政府ニ至テハ今日マデハ傍觀ノ態度ナレドモ、其内實ハ依然清國最良ノ方ナルガ如ク、其意日本ノ朝鮮國內治改革ノ所望ハ口實ニ過ギズ、其實ハ露國ノ「シベリヤ」鐵道完成セザルニ乘ジ、自由ニ之ヲ左右シ、時宜ニ依リテハ其一部ヲ扼スルノ企圖ニ出ヅルモノニシテ、自ラ其意ナキヲ主張シ、平和ヲ好ムトハ云ヒナガラ、其舉動全ク之ニ反スルハ事變ヲ促スニ外ナラザルガ如シ、果シテ然ルヤ否ヤ、暫ク其ノ爲ス所ヲ見ルニ如カズトシテ、事局ノ推移ヲ待ツモノノ如シ。而シテ之ニ對スル余ノ辯駁ハ更ニ寸効ヲモ見ザル様子ナリ。サレバ結局露國ニ於テハ我邦ヲシテ自由ニ朝鮮ヲ左右セシメザル底意ノ如ク推察セラルレバ、向後時機ヲ見テ何事カ申立ツル場合モ有ルナラン。

明治二十七年七月二十二日

露都ニ於テ 西 德 一 郎

## 朝鮮問題ト露國ノ輿論

露國ニ於ケル新聞紙ノ勢力ハ頗ル微弱ナルヲ以テ、其政府及ビ社會ニ及ボス影響モ亦西歐諸邦ニ於ケル如ク大ナラズト雖モ、其所載ノ論評ニ據リ、露國人意向ノ一斑ヲ窺知スルニ足ルモノアリ、今般朝鮮事件發生以來、露都新聞紙中重立チタルモノノ論說ヲ指譯列叙シテ參考ニ供セン。

「ノーウエ、ウレミヤ」新聞ハ七月十四日ノ紙上ニ於テ朝鮮問題ヲ論ジテ曰ク、今ヤ英政府ハ銳意朝鮮問題ニ關涉シ日清兩國ノ爲メ調停ヲ試ミ、日本ハ既ニ同政府ノ提議ヲ承諾シタリ。清國ハ諾否未ダ詳カナラズト雖モ、必ズヤ之ヲ拒絶スルナルベシ。如何トナレバ朝鮮ハ素ト清國ノ藩屬ニシテ、其主權ハ全ク清國ニ在ルガ故ニ、此ノ如キ仲裁ヲ好マザルヤ明ケシ。近來日本政府ノ舉動ヲ觀ルニ、日本ハ急ニ其軍兵ヲ撤回スルノ念慮ナク、現ニ其代表者ハ朝鮮國王ヲ擒ニシ、内政ノ改革ヲ強請シ、國王ノ生命ハ全ク日本人ノ掌中ニ在リ。國王ハ勢ヒ已ムヲ得ザル



ヨリ、遂ニ日本ノ命令ヲ遵奉セザルヲ得ザルノ悲境ニ陥レリ。若シ日本ニシテ一旦朝鮮ノ改革ニ着手スルコトアラバ、其軍兵ハ久シク同國ニ駐留スベキノミナラズ、恐ラクハ永久此ヨリ退カザルベシ。要スルニ日本人ハ兵力ヲ以テ退去セシメラル、ニアラザレバ、到底朝鮮ヲ棄テザルベシ。然ルニ支那人ハ因循ニシテ其ノ兵力ノ進行ハ極メテ緩漫ナリ。英國ノ諸新聞ハ唱道スラク歐式ニ由リ改良セラレタル、日本兵ハ必ラズ清國兵ニ對シ勝利ヲ博スベシト、此時ニ際シ露國ハ宜シク絶東ニ於ケル一切ノ出來事ニ對シ充分ノ準備ヲ爲シ置クコト今日ノ最急務ナリ云ト。

又七月十五日ノ紙上ニ於テ又之レヲ論ジテ、英國ニ於テ有力ナル政治社會ノ機關ト稱セラルル「ウエストミンスター、ガゼット」サヘ、「朝鮮ニ於ケル現時ノ事實ハ絶東ニ於ケル全般ノ情態ト權衡ヲ變換シタルヨリ、曩ニ英國ガ巨文島ヲ放棄シ、再ビ之ヲ占領セザルベク、從テ露國モ亦朝鮮事件ニ關涉セザルベシトノ約束ヲシテ無効ニ歸セシメタリ」ト認定セリト冒頭ニ掲グ、且ツ曰ク、實ニ露國ハ日本ノ朝鮮ニ對スル專横ナル舉動ヲ袖手傍觀スル能ハザルモノナリ。日本ガ朝鮮ヲ占領シタルハ其ノ活潑ナル外交政策ノ第一着手段ニシテ、若シ今回志ヲ得ルニ至ラバ、將來ニ於テモ亦更ニ進ンデ此ノ如キ政略ヲ取ルベキモノト認定セザルヲ得ズ。是レ最モ露國ノ憂慮スル所ナリ。朝鮮事件ニ關シ直接痛痒ヲ感ズルノ邦國ハ露國ニ如クモノナシ、東方ニ於

ケル我が敵手ナル英人スラ、尙ホ且ツ之ヲ認ム、況ンヤ重大ナル關係ヲ有スル露國ニシテ豈之ヲ輕々觀過スルノ理アラシヤ。露國ハ須ク非常ニ憤怒シ易キ隣島人(日本人ヲサス)ノ熱情ヲ冷却セシムル充分ナル手段ヲ取り、併セテ直接ノ利益ヲ有セザル諸國殊ニ英國ノ關涉ヲ排除スベシ云々ト論ジ、時ニ露國政府ヲ教唆シテ一層活潑ナル手段ヲ取ルノ必要ヲ主張セリ。

「ルースカヤ、ジージニ」新聞ハ七月十六日ノ紙上ニ於テ前項「イウオエ、ウレミヤ」ノ論說ヲ非難シテ曰ク、近來英國黨ノ新聞紙ニハ一種奇怪ナル現象ヲ呈出シ、恰モ英國ノ政治家ハ露國ガ日本ニ對シ敵意ヲ表シ、朝鮮事件ニ直接ノ關涉ヲ爲スヲ好ムモノ、如ク唱道セリ。然ルニ露國ノ有名ナル一新聞ハ忽チ該新聞ノ好餌ニ懸リ、頻リニ軍事上ノ投機ヲ勸告シ、其ノ說ク所ノ要點ハ、露國ヲシテ輕躁ニモ日本ト開戦セシメントスルニ在リ。然ルニ日本ハ今日マデ會テ露國ニ對シ敵意ヲ表シタルコトナキノミナラズ、同國ハ近來驚クベキ長足ノ進歩ヲ爲シ、最モ有望少壯ナル邦國トシテ同情ヲ表スルニ足リ、之ト隣好ヲ通ジ交誼ヲ厚フスルハ彼ノ因循退却シツ、アル清國ニ比シ勝ルコト萬々ナリ。彼ノ記者ハ「日本ハ軍事上ノ名譽心ニ沈醉セリ」、「憤怒シ易キ隣島人」、「其ノ熱情ヲ冷却スルニ足ルノ手段」杯ト記述スレドモ、日本ハ今日マデ會テ之ヲ證明スルノ事實ヲ有セザルナリ。好シ日本ハ清國又ハ自己ノ藩屬ニ對シ、名譽心ヲ表彰スルモ、露國ハ何故ニ清國ヲ扶助シ隣島人ヲ敵視スルノ理アラシヤ。露國ニ於テ果シテ朝



鮮若クハ其一部分ヲ略取スルノ必要アリトセバ、寧ロ此際日本ト提携協議シ、干戈ニ血ヲズシテ爭論中ナル境土ヲ分取スルニ如カズ。英國ノ最モ患フル所ハ露國ガ此最後手段ニ出デザルカヲ恐ル、ニ在リ。故ニ成ルベク露國ヲシテ日本ニ對シテ敵意ヲ表セシメントニ盡力スルニ過ギザル而已云々ト論結セリ。

「ノーオスチ」新聞ハ七月十四日ノ紙上ニ於テ七月十日横濱發「ルートル」電報「日清兩國間ノ戰爭ハ避クベカラズ、日本政府ハ既ニ一萬人ヲ朝鮮ニ上陸セシメ、汽船十六隻ヲ雇入レタリ」トアリシヲ轉載シ、開戦ノ危機且夕ニ迫リタリトテ、朝鮮騷亂ノ顛末ヲ略叙シタル末、本問題ハ獨リ日清兩國ノ利害得失ニ止マラズ、實ニ露、英兩國ニ取り容易ナラザル關係ヲ有スル一大事件ナリ。然レドモ日清兩國間ノ戰爭ニ對シ、今日ニ在テハ一地方ニ限ルノ事件トシテ、露ト云ヒ英ト云ヒ共ニ之ニ關涉スルヲ得ズ、假令ヘ露國ハ朝鮮ニ於テ一港灣ヲ占有セント欲ストモ、英モ米モ亦之ヲ認許セザルガ故、目下ハ唯ダ條約ノ成文ニ依頼シ、飽クマデ朝鮮ノ獨立ヲ支持セザルベカラズ。向キニ露國ガ日清兩國ニ對シ各自ノ軍兵ヲ撤去スルコトヲ勸告シタルハ最モ其當ヲ得タルモノト謂ハザルヲ得ザルナリ。然レドモ將來只ダ本事件ニ關スル英ノ處置如何ニ依リテハ、或ハ列國ノ衝突ヲ惹キ起スニ至ルヤモ未ダ容易ニ測知スベカラズ云々ト論ゼリ。

「スウェット」新聞ハ七月十日ノ紙上ニ於テ朝鮮ノ不羈獨立ハ露國ニ取り最モ必要ナル條件ナリ、如何トナレバ朝鮮ハ日本海口ニ突出シテ支那ヲ遮斷シ、露領邊陲ノ安寧ト「シベリヤ」沿海貿易ニ重大ナル支持ヲ與フルモノナリ。故ニ露國ハ最初ヨリ朝鮮ニ對シ最モ和親ノ關係ヲ保持シ、曾テ其國事ニ關涉ヲ試ミタルコトナキハ、現ニ朝鮮ガ千八百八十四年ニ於テ「モルレンドルフ」氏ヲ經、千八百八十五年ニ於テ國王ガ沿海州ヘ派遣シタル使節ヲ經、露國ノ保護ヲ得シコトヲ申込ミタリシモ、前後兩度トモ之ヲ拒絕シタルノ事實ヲ以テ充分ニ之ヲ證明スルヲ得ベシ。「ジャンハイ、メルキュリー」新聞ニ據レバ、清國ハ「バミール」ニ對スル一切ノ要求ヲ放棄シタルニ由リ、露國ハ朝鮮ニ對シ決シテ他意ナシトノ保證ヲ與ヘタリト傳フ。實際上露國ハ日本海ニ瀕スル領土マデ充分満足スベシ。且ツ其地方ニ於ケル事業モ亦タ繁多ナレバ、朝鮮ニ意アルノ理決シテ之アルコトナシ。唯ダ露國ノ要スル所ハ朝鮮ノ獨立ニ在リ、清國ハ琉球ヲ以テ朝鮮ノ如ク自國ニ藩屬スル猷貢國ト思料シタリシヲ以テ、向キニ日本ノ之ヲ占領スルニ當リ大ニ抗爭ヲ試ミタリシモ、遂ニ日本ノ爲メ併吞セラレタリ。故伯爵曾紀澤曾テ「アヂク、レウキー」ニ公言シテ曰ク、醒起シツ、アル清國ノ爲メ將來必ラズ日本ヨリ琉球、露國ヨリ烏蘇里洲ヲ恢復スルノ時代到來スベシ、又李鴻章近頃誓言スラク「吾ガ生前必ラズ日本ヨリ琉球ヲ奪却スベシ」ト云ヒシ事等ヲ列舉シテ、露國ノ彼地方ノ事ニ警戒セザルベカラザルヲ説ケリ。

「グラヂダニン」新聞ハ七月二十一日ノ紙上ニ説キ起シテ曰ク、朝鮮事件ニ關スル歐洲諸新聞



紙ノ記事ハ概ネ歐洲國際上ノ視點ヨリ觀察ヲ下ダシ、實際ノ事情ニ迂遠ナルヲ免レズ、如何トナレバ日、清、韓三國間ノ關係ハ多年錯雜變遷シ來リタルモノニシテ、各自其相互條約ニ基キ交渉事件ヲ處理スルモノナルガ故、其詳細事情ヲ知悉スルニ非ザレバ容易ク判斷ヲ下ス能ハザルモノアリ。近頃本社ハ最モ確實ナル通信ヲ日本ヨリ接收シタルニ由リ、本事件ノ實歴ヲ左ニ叙述セン。

朝鮮ノ騷亂ニ關スル電信ガ最初東京ニ到達シタルハ六月二十三、四日(露曆)頃ニシテ、賊兵ハ京城ニ向テ進行シ、危機旦夕ニ迫ルヲ聞キ、日本政府ハ防禦ノ爲メ出兵スルコトニ決意シ、相互ノ現條約ニ基キ、豫メ其旨ヲ清、韓兩國ニ通牒セリ。清國モ亦之ト均シク軍兵ヲ派遣シ、纔カニ兩國兵ノ救援ヲ得テ國內各所全ク鎮定ニ歸セザルモ、騷亂ハ一時壓服セラレタルモノ、如シ。元來朝鮮ニ於ケル騷亂ハ決シテ今日ニ始マリタルニ非ラズ。現ニ千八百八十二年及ビ千八百八十四年ノ事件ハ最モ著シキモノニシテ、其他ノ小暴動ニ至リテハ枚舉ニ遑アラズ。之レガ爲メ同國ニ在留スル日本商店ハ其度毎ニ非常ノ損耗ヲ蒙リ、今日ニ至ルマデ兩國間ニ交渉事件ノ絶エタルコト殆ンド皆無、是等ノ事實ハ自然兩國ノ隣交上ニ容易ナラザル惡影響ヲ及ボスニ至レリ。日本政府ノ信ズル所ニ據レバ、前述ノ騷亂ハ全ク國內行政ノ紊亂ニ胚胎スルモノナルヲ以テ、其原因ヲ芟除センニハ先ヅ内政ヲ改良セシムルニ如カズ。故ニ日本政府ハ清國ト協同

商議シテ朝鮮政府ヲ扶助シ、前述ノ改革ヲ爲サシムルノ必要ヲ認め、兩國ヨリ交渉委員ヲ組織スルノ提議ヲ爲セシモ、清國ハ朝鮮ニ對スル自己ノ主權ヲ頑守シ、此和親的ノ申出ヲ嚴拒シ、單ニ日本ニ向テ其撤回ノミヲ請求シ、自國ハ却テ其援軍派遣ノ準備ニ吸々タリ。然ルニ日本ハ朝鮮ノ獨立國ニシテ清國ノ付庸タラザルヲ認ムルガ故、清國ハ此ノ如キ回答ヲ與フベシト夢ニダモ豫期セザリシ所ナリキ。依テ日本ニ於テハ或ハ清國ノ請求ヲ全諾シ、憐ムベキ朝鮮ヲシテ從前ノ如ク其運命ノ放肆ニ委ネ、強滿ナル清國ノ名譽心ヲ充タシムルカ否ラザレバ飽クマデ將來變亂ノ禍源ヲ芟除スル事ヲ勉ムルカノ二途ニ出ヅルノ外ナキニ至レリ。是ニ於テカ日本ハ更ニ動搖セズ、斷然最後ノ手段ヲ取ルコトニ決意シ、清國ニ向ツテ朝鮮國內ニ安寧鞏固ノ保證立タザル以上ハ、撤兵スル能ハザル旨ヲ宣言シ、且ツ清國ト均シク更ニ援兵派遣ノ準備ヲ爲セリ。右ノ次第ニテ日本ハ頻リニ平和ノ結局ヲ熱望スト雖モ、到底偏頗ナル要求、即チ日本ヲシテ其志望ヲ満足セシメズシテ單ニ撤兵セシムルカ、若クハ清國ヲシテ朝鮮ニ對スル主權ヲ全然放棄セシムルガ如キ要求ハ、到底事局ヲ平和的ニ完結スルノ望ミアルコトナシ云々ト論ゼリ。



## 朝鮮國內戰後警察ニ關スル上申

警視總監 園田安賢

今ヤ我ダ叡聖文武ナル

皇帝陛下ハ朝鮮ノ事ニ關シ、帝國ノ權利利益ヲ保護シ、東洋全局ノ平和ヲ永久ニ擔保センガ爲ニ、清國ニ對シテ交戦ノ大勅ヲ宣セラレタリ。而シテ帝國ノ面目ヲ保チ、東洋ノ平和ヲ全クスルノ道ハ、一方ニ在リテハ朝鮮ヲシテ我ニ依リテ其獨立國タルノ實ヲ宣揚セシメ、一方ニ在リテハ清國ヲ制壓シ、彼ガ從來朝鮮ニ對シテ包藏セル欲望野心ヲ斷滅セシムルニ在ルナリ。乃チ知ル清國ニ對シテハ交戦ニ從事スルモ、朝鮮國ニ對シテハ我ノ恩威能ク之ヲ化導シ、以テ列國ノ伍伴ニ就カシメタル我ガ帝國ノ盛意ヲ始終セシムルニ在ルヲ。今ヤ清國トノ交戦ニ於ケル、我ノ期スル所一戦ヲ次ギ、一地ヲ略シ、一城ヲ拔キ、遂ニ彼ヲシテ北京城下ノ盟ヲ締セシメ、以テ平和ヲ條約ニ永久ニ克復スルニ存スト雖モ、他ノ一面ニ於テハ我ガ帝國ノ好意ヲ全了セ

ザルノ朝鮮士民ヲ啓發スルノ責任ヲ有シ、一面ニ於テハ朝鮮在陣ノ清兵ヲ攘斥撃退セザルベカラズ。而シテ南牙山ニ於ケル、北義州、平壤ニ於ケル、戦亂後ノ朝鮮士民ヲ鎮撫シ、以テ其堵ニ安ゼシムルハ固ヨリ之ヲ紛亂セル現時ノ朝鮮政府ニ委ス可カラズンバ、乃チ亦我ノ責任トナサザル可カラズ。而カモ寧ロ我ノ始終セル盛意ヲ彼等士民ニ直接ニ貫徹セシムルノ好機ナルヲ以テ、此際ニ處スル我ノ方策、蓋シ深ク考慮ヲ要サルベカラザルナリ。彼ノ半清半韓ノ意志ヲ有スル無智ノ士民ヲ鎮壓シ、以テ其暴舉ヲ戒メ、且ツ我ガ戦鬪者ヲシテ後顧ノ憂ヒナカラシメ、又之ヲ懷柔シテ以テ文化ノ惠澤ヲ知ラシメザル可カラズ。而シテ此至大ノ重務ヲ全フシ、其良策ヲ收メントスルニ於テ、戦勝ノ餘威猛々タルノ勇壯威武ナル將帥ニノミ之ヲ放致スルハ、蓋シ或ハ撫馭ノ道ヲ得タルモノニアラザルナキヤラ恐ル、ノミナラズ、他ニ至大至重ノ目的ヲ有スル我ガ戦鬪者ヲシテ、其力ヲ此等方面ニ分割セシムルハ亦是レ策ノ良シキモノニアラザルヲ信ズルナリ。

然リ而シテ我ガ嚴正ナル警察制規ノ下ニ在リテハ、多年其職務ニ從事シ、士民ニ接シテ之ヲ慰撫スルノ道ニ於テ經驗アリ、暴徒ニ對シテ之ヲ鎮壓スルノ術ニ於テ素養アル我ガ警察官吏ヲシテ此亂後ノ警防ニ從事セシメバ、乃チ住ムニ舍ナク、食フニ粟ナキ亂後ノ亡民ヲ愛撫シテ以テ其堵ニ安ゼシメ、一朝暴徒亂民ノ非舉アルモ、多年訓練ノ功アリ、一劍能ク之ヲ勦盡スル亦



敢テ難事ニアラザルベキナリ。蓋シ朝鮮ニ對スル我が化導ノ盛意ヲ貫達セシメ、清國ニ對スル我が戰鬥力ヲ減殺スルコトナキヲ得ル一舉兩得ノ策ナルベキヲ信ズルナリ。

明治二十七年八月

## 代理公使兪箕煥氏離任歸國ノ件

東京駐在朝鮮臨時代理公使兪箕煥氏ハ過般權東壽、權在壽ノ二人ヲ逮捕ノ後、一日陸奧外務大臣ニ向ヒ、

似此情形、殊乖禮待使館之常、有失和平交際之道、本署大臣自願有辜職守、此後何能與貴大臣商辨兩國交渉事宜、推有即日東裝歸國、稟候我政府察核辦理。

云々ノ語ヲ臚列シタル公文ヲ送り、館務代理者ヲモ置カズ、突然離任歸國シ、其行爲甚ダ事體ヲ成サバル所アルヲ以テ、陸奧外務大臣ハ直チニ大鳥特命全權公使ニ訓令シ、朝鮮政府ニ向テ兪箕煥ノ不都合ヲ告ゲ、適當ナル當任者ノ派遣ヲ促ガシ且ツ同人ヲ同國政府ノ交際官トシテ再ビ本邦ニ赴任セシムルコトハ、日本政府ノ欲セザル所タルノミナラズ、適當ナル當任者着任ノ上ハ同人ノ行爲ニ對シ相當ノ處分ヲ要求スベキ旨ヲ通告セシニ、同國督辦交渉通商事務趙秉稷ヨリ大鳥公使ニ向テ、



推該署使臨行、雖已知照、并未及接任爲誰、殊未妥穩、且該照內所稱非本政府命令、本督辦爲之惋惜。

云々ノ回答ヲ爲シ、今般又近頃歸任セル辦理公使金思轍ヨリ、

敝署書記官兪箕煥緣有未穩、回國減下（職務上ノ不都合ニヨリ革職スルノ意ナリ）臨時知照、非我政府命令、抛還爲妥。

云々ト申來レリ、是ニ至リ兪箕煥ノ書面ハ朝鮮政府ノ意思ヲ代表シタルモノニ非ズシテ、全ク同人一人ノ擅斷ニ出デタルモノタルコト分明シ、且ツ同人ニ對シテハ朝鮮政府ニ於テ已ニ責罰ヲ加ヘタル由ナレバ、同辦理公使請求ノ如ク、右兪氏ヨリノ公文ハ之ヲ返戻シ、該事件ハ茲ニ全ク結了セリ。

明治二十七年五月二十三日

### 三浦梧樓訊問調書

問 其方ハ是レマデ特命全權公使ノ官ヲ以テ朝鮮國京城ニ在留セシナル乎。

答 然リ、自分ハ今ニテモ免官ノ辭令ヲ受ケズ。

問 其他ニ官職ヲ帶ビザルヤ。

答 陸軍豫備中將、其外ニ全權公使ト爲ル以前、宮中顧問官タリシガ、公使ト爲リシ時顧問官ハ免ズルト云フコトモナク、外務省ノ方ニテモ分ラント云フコトニテ決定シタル儘、爾來何ノ通知モナク、亦辭令モ受ケズ。

問 公使ト爲リシ時顧問官ヨリ轉任シタル譯ニ非ラズヤ。

答 辭令書ニ顧問官ノ肩書ナカリシ故轉任トハ思ハズ。内實ハ顧問官ハ其儘ニシテモ宜イカト云フ話モアツタノデス。

問 昨日即チ第一回ノ訊問ノ際、大院君ヨリ面會ヲ求メタルコト有之ヤウ陳述アルガ、何時



ノコトナリヤ。

答 九月二十日過ギト存ズ、夫レヨリ前、大院君ハ自分ガ訪問スルナラント存ジ居タル様子ニテ、自分ニ於テモ同君ハ國父ノコトニモ有之、義和宮殿下ト共ニ外國使臣ノ禮トシテ訪問セネバナナルマイト存ジタレドモ、當時大院君ハ禁錮同様ノ有様ニテ、之ヲ訪問スルハ如何アランカト存ジタル故、宮内大臣ニ面會ノ際、自分ハ大院君ヲ訪問セント思フガ、併シ目下ノ狀況ニテ何か差支アルコトナランカ、一度意見ヲ聞カレタシト申シタルニ、確タル返事ヲ呉レズ。故ニ自分モ訪問ヲ見合セ居タルナリ。然ルニ大院君ハ自分ガ宮中ニテ訪問スルト云ヒシコトヲ已ニ聞キ居ラレタルモノト見エ、相待居ラレタル様子ナリシモ、自分ガ訪問セザル故、終ニ斯ノ如ク先方ヨリ面會シタキ旨申シ來リタルモノト見ユ。

問 夫レハ書面ニテ申シ來リタルカ。

答 使者ノ口上ニテアリキ。

問 自カラ訪問セザリシトスルモ他ノ者ヲ以テ面會ノ要旨ヲ聞キタルコトアリヤ。

答 別ニ人ハ遣ラズ、又前ノ口上モ態々ノ使者ニハ無之、日本人ガ往キシ時ノ傳言ニテアリキ。

問 其ノ日本人ト云フハ領事官補ノ堀口ナラズヤ。

答 然リ、同人ハ日本人ノ鮎貝ト申スモノ日本語學ヲ教ユル爲メ大院君ノ邸ニ到ルニ付テハ一度大院君ニ面會シテ蘭ヲ畫キ貰ハント思ヒ、彼レニ同道ヲ頼ミ面會シタル際、自分ヘ傳言アリシト申シ來リタリ。

問 岡本柳之助ニ何事カ大院君ヘ談ズルコトヲ托セシニアラズヤ。

答 其ノ事モアリマス。

問 夫レハ如何ナルコトナリシヤ。

答 其ノ事ヲ申立ツル前、先ヅ以テ堀口ガ承リ歸リシ大院君ノ傳言ヲ述ベンニ、堀口ノ申シ歸リタルハ、唯ダ自分ニ逢ヒタイトノ一言ノミニハ無之、大院君ハ是レマデ支那觀念ナリシガ、支那ハ日本トノ戰爭ニ負ケテ頼ムニ足ラザルヲ知り、又是レマデ日本ハ我が朝鮮ヲ取ル心アルナラント疑ヒ居リタレドモ、今ハ其ノ疑念モ晴レタリ、然ルニ我が朝鮮ニハ君側ニ小人アリテ私ヲ行ヒ、李氏ノ社稷モ甚ダ危イ場合ニテ、坐視スルニ忍ビザレバ、再ビ出テ之ヲ救ハント思フモ、目下縲紲ノ身分同様ナルヲ以テ、今自分ガ出ヅルモ是レマデノ日本公使ノ如キ遣リ方ニテハ之レヲ妨ゲ、先年支那ニ捕ヘラレタル如ク日本ニ送ラル、ト云フ様ナコトアリテ功ヲ奏スルコトモ出來ザルガ、朝鮮人ガ朝鮮ノコトヲ



爲スナレバ、別ニ日本ガ妨グルコトアルマイカ、且ツ今後朝鮮ノ政治ニ就テハ意見ヲ聞キ度キニ依リ、來リ吳レラレ間敷ヤ、ソレガ六ヶ敷ケレバ私ガ往カント云フ様ナ傳言ニ有之、依テ自分ハ委細承知シタ、御目ニ掛カル時機アラバ當方ヨリ報知セント申シ置ケト云ヒ聞ケマシタ。其時自分ハ兼テ大院君ノコトハ平素氣ニ掛ケ居リシ義ニ付キ、堀口ニ同人ニ面會セシ時ノ模様、言語、容貌等ニ到ルマデ精シク聞キ知リ置キタリ。其後堀口へ直接カ又ハ鮎貝マデナリシカハ知ラザレドモ、幾度モ右ノ事柄ハ三浦公使へ通ジ吳レタカト云フ尋ネアリシ旨聞シコトアリ。夫レニ依テ自分ハ大院君ノ當時ノ境遇、意思等ハ推定致シ、且ツ其頃朝鮮王宮ノ遣リ方ハ日々非ニシテ、追々ニ切迫スルヲ認メタル故、之レハ必ラズ遠カラザル中、地方ノ民亂起ルカ、或ハ京城ニ於テ訓練隊蜂起スルカ、大院君ガ出ヅルカ、必ラズ變亂ヲ生ズルニ違ヒナイト考ヘタルナリ。故ニ此想像ノ中、孰レノ分ガ先ヅ發スルナランカト泰然トシテ其様子ヲ見テ居リシニ、同方ヨリハ度々人ヲ以テ返事ヲ促スト聞キタレドモ、大院君ノ詭詐權謀ニ長ジ居ルハ兼テ聞キ居ルノミナラズ、堀口モ仲々ノ老人ダト申シタルコトモアレバ、幾回申シ來リテモ助ケルトモ助ケントモ云ハズ捨テ置キタリ。尤モ日本ニ護送セラル、ナラン杯ト思フハ間違ニテ、支那ハ元屬國ト信ジ居タル故速カニ歸リシナランガ、今日ニテハ列國モ見テ居ルコトナレバ、

決シテ斯ノ如キコトハアリ得可キコトニアラズ、安心アレヨト云フコト丈ケハ、堀口ニ云ツテ置ケト申シマシタ。大院君ノ人ト爲リハ略ボ承知致スガ、隨分慘酷ニテ、立テバ如何ナルコトヲ爲スヤモ知レント思ヒ居リシ故、斯ノ如ク返事ヲ爲サバリシニ付、終ニデレ込ミタルモノト存ジタリ。然ルニ十月三日ト存ズ、岡本ガ來リシ故右ノ事情ヲ語リシニ、同人ハ夫レハ變デア、仲々彼ノ老人ハ左様ナ事柄ヲ容易ニ人ニ告グル性質ニアラズ、何カ通辯ノ間違ナラント申ス故、堀口カ鮎貝ニ聞キ吳レヨト申シタルニ、岡本ハ兩人ニ問ヒシニ間違モナサ相ナリ、斯ノ如キコトヲ云ヒ出ス様ナレバ、大院君ノ方モ餘程切迫シ居ルモノト見ユルト申シマシタ。就テハ自分ハ岡本ニ一度逢テ事情ヲ糺シ來リ吳レヨ、自分ノ是レマデ聞ク處ニテハ、大院君ハ所謂鷹ヲ養フ如キモノニテ、卽チ飽ケバ揚ガルト云フノ風アリ、窮スレバ助ケヲ求ムルモ、自分ガ其ノ位地ニ至レバ直ニ反抗スルト云フ如キ風アルガ故、容易ニ信ズルコトハ出來ザルモ、是レマデ申シ來タルコトハ違ヒナキ事實ナルカ確メタシ、然レドモ口頭ノミニテハ不安心ニ付、是レマデ日本ニ於テ定メタル通り、政治ニハ關セザルコト、宮中府中ノ區別ヲ明カニスルコト、李、竣、鎔、ヲ、三、ヶ、年、日、本、ニ、留、學、セ、シ、ム、ル、コ、ト、等、ノ、事、柄、ヲ、書、面、ニ、記、シ、テ、之、レ、ガ、得、心、ナ、レ、バ、親、子、三、人、調、印、セ、ヨ、ト、云、フ、コ、ト、ニ、取、リ、計、ヒ、吳、レ、ヨ、ト、頼、ミ、マ、シ、タ。依テ岡本ガ往ツテ談ジタルニ、大



院君ハ素ヨリ、是レマデ日本ノ爲ニ答ヘタルコトハ決シテ異存ナク、又政治ノ事ニハ關係セザル可シ。李竣鎔ハ井上ノ時公使トスルトアリシモ、是レ亦留學セシムル事トシ差支ナク、要スルニ總テ異存ナイトノコトニテ、尤モ朝鮮ニハ連印ヲ爲スト云フ習慣ナキニ依リ、子孫ガ立會タルコトヲ記シ置クトテ其ノ書面ヲ投ゲ吳レタリトノコトデアリマス。

其ノ書類ハ悉皆自分ノ荷物中ニ有之。

問 然ラバ大院君ガ其數ケ條ヲ承諾セバ、君側ヲ清メルノ舉ニ賛成スルトカ、之レヲ助クルトカ云フ約ナリシカ。

答 左様ニアラズ、斯ノ如キ決心ナル上ハ大院君ガ出デ、王宮内ノ事ヲ改革スルモ別ニ是レマデ日本ニ遣リ來リシコトニ妨ゲナキ故、同君ガ遣ル儘ニ放任シ、別段妨ゲハセヌト云フコト丈ケニテ、決シテ其ノ舉ヲ助クルト云フニハ無之、故ニ書面ヲ渡シタルニテ、自分ノ方ハ一段落着キシナリ。尤モ彼ヨリハ已ニ書面ヲ出シタルガ、如何シ吳レルカト其後尋ネ來タルコトハ有之。

問 三日ノ事ニハ違ヒナキヤ。

答 慥カニ覺エザレドモ其頃ト思ヒマス。

問 其ノ事柄ヲ岡本ト協議セシ時他二人ガ居リシ乎。

答 書記官ノ杉村ガ居リマシタ。

問 岡本ガ書面ヲ持チ來リ答ヘタルハ何日ナリヤ。

答 其ノ翌日ノ夕方ナリシト存ズ。

問 同人ハ二三日ノ頃公使館ニ於テ其ノ談示ヲ受ケ、五日ニ孔德里ノ邸ニ行キ面會シタリ。然ルニ大院君ハモウ老年ノコトナリ、此儘死スルモ時デアルトテ辭退セシトノコトナルガ、如何。

答 左様ナコトハ承ハラズ、尤モ大院君ハ一面ハ今ニ逢ヒタイト云ヒ、一面ハ左様ナコトハナイ杯ト云フコトハ常ニアリト聞キマス。

問 併シ岡本ハ三浦、杉村ノ談示ニ依リ、或ル時機來ラバ立タシムルコトヲ勸メタルニ、今ノ如ク斷リタリ。然ルニ傍ニ李載冕、李竣鎔居リテ、同意スルコトヲ勸メ、終ニ承諾スルニ至レリト云フ。故ニ前以テ大院君ガ申シ來リタリト云フ事實ハ之レナキナラント思ハル。

答 自分ノ方ヘハ前以テ堀口ガ申シ來リタルニ違ヒ無之、全く大院君ガ權謀ニテ、岡本ノ往キシ時左様ナ體ヲ示シタルナラン。



問 岡本ハ其際已ニ歸國ノ事ニ定メ居リシト云フ如何。

答 同人ハ久敷キ前ヨリ歸國スルト申シ居タル由ニテ、前ノ公使井上ガ行止メ又ハ歸ヘルコトヲ許シタトカ云フ様子ニ承リ、自分着任ノ際已ニ井上ト共ニ出立スル様申シタルコトモアレドモ、他ヨリ承ハルニテハ往キ掛リ上、左様ニ云ヒタルモ、眞意ニハアラズトノコトニ付、自分ヨリ尙ホ止リテハ如何、軍部ノ方往キ掛リアリテ其方ハ罷ムルトスルモ他ノ顧問トナルコトモ出來ルナラント行止メタルノデアリマス。

問 併シ同人ハ五日ノ後、右大院君ノ書面ヲ相扱ヒ置キ、之レハ今度歸朝スル御土産デアルト云ヒ、翌六日朝直チニ出立シタリト云フ如何。

答 夫レハ全く計略デアリマス。同人ガ大院君ノ邸ニ往クハ人ノ疑ヒヲ惹起スル故、前方ヨリ今度歸國スルト云フコトヲ云ヒ觸ラシ、送別會マデモ爲シ、其ノ暇乞トシテ大院君ノ邸ニ往キタノデアリマス。而シテ其ノバツガ惡イ故、六日ニ仁川マデ下リシ譯ナリ。

問 同人仁川ニ下ルト翌七日ニ杉村ガ再三電報ヲ以テ呼ビ戻シタリトノコト承知スルカ。

答 承知ス。

問 何故ナリシカ。

答 夫レハ七日ニ至リ時機切迫シタル故、若シ大院君立ツナラバ速カナルガ宜シカラント存

ジタレドモ、同方へ行ク者ハ岡本ノ外無之故、自分杉村ニ申付ケ電報ニテ呼ビ返サシメタルナリ。

問 時機切迫セシト云フハ如何。

答 夫レハ昨日モ已ニ陳述シタル如ク、王宮ニ於テハ訓練隊ヲ解放セン爲メ、同隊ノ兵ガ巡查ト喧嘩ヲスルト云フ事ヲ構ヘテ口實トシ、公使館ヘモ安駟壽來テ其事ヲ申込ミ、安ハ自分ガ強ク叱リタル故、何日解放スルト云ハザリシモ、二階ヨリ下リ、杉村ニ談話ノ時ハ、今晚兵器ヲ取り揚ゲルト云フコトアリシ由、兼テ王宮黨ノ計畫ニテハ、日本黨ノ重臣ヲ殺害スルト云フ隱謀モアリテ、跡ハ露西亞ニ傍ルト云フコトヲ聞キタルコトアリ。故ニ訓練隊ヲ解散シテハ内閣ノ爲ニハ兵力ナキ故、隨テ右ノ隱謀モ起ルナラント思ヒタルヲ以テ、時機愈々切迫セリト思考シタリ。之レハ直接ノ原因ナレドモ、其他昨日モ申シタル通り、色々ノ事情遭合シ、自分ハ大院君ノ立ツコト必要ナリト考ヘタリ。然ラバ初メ大院君ヨリ書面ヲ取り付ケアル時ハ、同人ノ立テバ立ツ儘ニ爲シ置ク積リナリシモ、茲ニ至リ是非立タシメネバナラント思考シタリシヤ。

答 大院君ニ於テ是非立ツ可キモノナレバ、今ガヨカラント其時機ヲ教ヘ遣リシマデナリ。

問 岡本ガ仁川ヨリ歸ヘル途中、堀口ガ龍山マデ出迎ヘ居タリトノコト承知ナルヤ。



答 ソウデス。

問 何故出迎へタルモノナリヤ。

答 岡本ガ仁川ニ行キシ時ハ、未ダ斯様ナ時機ノ來ルトハ思ハザリシモ、俄カニ斯ノ如キ場合ニ至リシ故、呼ビ戻シテ大院君ノ宅ニ到ラシムルコトトシ、其事ヲ傳言セシムル爲メ堀口ヲ遣シタリ。

問 堀口ガ龍山ニ出テ居リシ時ハ、吾ガ萩原ガ巡查ヲ率レ行キ居リ、其他澤山ノ者居リシ由承知ナルカ。

答 自分ハ大體ノ事ヲ考ヘ居リシ而已ナレバ、細カナル事ニ關係セシコトナシ。故ニ堀口ハ龍山ニ遣セシコトアレドモ、其他ノ事ハ誰ガ行キシカ存ゼズ。

問 併シ大院君ヲ立タシムルト云ヘバ、多少助力モセネバナルマイト考ヘラル、如何。

答 左様ナコトナシ。自分ノ方ヨリ助力セズトモ、大院君ノ邸ニハ澤山出入セル人モ居リシ事故、自分ニ於テ左様ナ心配マデスル必要ナシト思ヒタリ。

問 大院君ガ立ツベク夫レニ就テハ、斯様ナ準備ヲ爲サレバナラスト云フ協議ハ致シタルナリヤ。

答 左様ナ事モ無シ、朝鮮ノ事ハ當方ニテ考フル様ニモ無シ、諸事極メテ簡單ナルノミナラ

ズ、斯様ナコトハ朝鮮人ガ是レマデ度々遣リ來リ居リシコトナレバ、造作ナキコトト思ヒ、公然申シ來ラバ出デ行キテ相談相手ニ爲リ遣ラント存ジ居リシマデナリ。

問 八日ノ變亂ノ時、日本ノ守備兵モ出逢ヒタルヤウ聞ユルガ、夫レモ承知ナリヤ。

答 守備隊ハ守備ノ任務ヲ帯ビテ出デタノデアリマス。

問 夫レハ公使館ヨリ命ジタルナリヤ。

答 公使館ヨリモ騷擾ニ付守備ノ事申シ遣シタレドモ、當時ハ已ニ出兵致シ居タル跡ナリ。

問 然ラバ守備隊ハ何ノ爲メ其前ニ出デシ由ナル乎。

答 訓練隊ガ脱營シタリトノ事ヲ聞キ、守備隊ノ一部ハ夫レヲ追フテ龍山ノ方ヘ行キシ由ナレドモ、道ガ違ヒ遭遇セザリシトノコトヲ聞キマシタ。

問 其ノ朝、大院君ガ立ツニ就テ其ノ舉ヲ助ケル爲メ兵ヲ出シタリトノ聞エアリ、如何。

答 決シテ左様ナコト無シ。大院君ノ舉ハ決シテ防ギヲ爲サズ、又助ケモセズト云フ主義ナレバ兵ヲ出シタルコト無シ。

問 ○○ト○ガ大院君ノ邸ト軍隊トノ間ニ往復シテ交渉シタリトノコト、如何。

答 決シテ左様ナコトハ無シト存ズ。少ナクトモ自分ハ知ラザルコトナリ。

問 大院君ヲ立タシムルト云フコトニ付協議ニ與カリシ者ハ誰々ナリヤ。



答 全ク自分壹人ノ考ヘニテ、自分ヨリ命ジタルハ杉村、岡本等ナリキ。別ニ協議セシ者ハ無シ。岡本ハ大院君専門ニテ、大院君ノ事ニハ岡本ガ居ラズバ出來ズ。夫レハ皆人ノ知ル處ナリ。

依テ自分ヨリモ同人ニ命ジタルナリ。

問 柴四郎、田中賢道等ニ何か協議セシコトナキ乎。

答 同人等ニ何事モ談ジタルコト無シ、元來自分ハ軍人ニテ、平素餘リ用ナキ人ニ物ヲ談ズル様ナ事ナク、故ニ公使館員、顧問官等ニテモ何故相談シ吳レザリシカト不足ヲ云フタル位ノコトナリ。

問 楠瀬中佐ニハ何か協議セシコトアリヤ。

答 同人ニハ略ボ話シタルコト有之、訓練隊ガ發現スルカ、大院君ガ立ツカ、孰レ早晚變亂アラント云フタルマデナリ。尤モ大院君ヨリハ斯様ナ書面ヲ取り置キタリト云フ話ハシマシタ。

問 夫レハ何日ノコトナリヤ。

答 十月五、六日ノコトナリ。

問 楠瀬ハ七日仁川ニ下リタル様ナリ、何ノ爲メナリヤ。

答 之レモ岡本同様デアリキ、自分勸メテ出立セシメタルナリ。

問 其ノ理由ハ。

答 朝鮮人ガ近日ノ中、何事カ起スナラント申シタルモノ有之由、夫レヲ取糺シテ楠瀬ヨリ聞イタト云ヒシ由ニ付、同人ヲ公使館ニ呼び何カ云ハズヤト問ヒタレドモ、決シテ人ニ左様ナ話ヲシタルコトナシト答ヘタリ。然レドモ氣味ノ惡シキコトニ付、此處ニ居テハ不可、歸國スルト云ヒ、先ヅ仁川マデ下レヨト申聞ケマシタ。

問 同人ハ七日朝出立セシ由違ヒナキヤ。

答 然リ、未ダ時機切迫トハ認メザル前ニ出立シマシタ。

問 同人ニモ電報ヲ遣シタリヤ。

答 然リ、同人ハ何事カアレバ直ニ知ラセ答ヘヨト申居タル故、杉村ニ命ジテ電報ヲ發セサシマシタ。併シ電報ハ未ダ同人ガ仁川ニ着カザル前ニ發シタルニテ、何度モ發シタルナリ。

問 電報ニ依リテ同人ハ歸京シタリヤ。

答 直チニ歸リ來リ公使館ニ來レル由ナレドモ、自分寢テ居リテ面會致サズ。

問 折角呼び戻シ面會セザリシトハ如何。



答 別段同人ニ至急ノ用事アリシ譯ニハ無之、跡ノ軍部ノ事等取扱ヒサセネバナラヌ故呼ビ戻シ置キタルマデナリ。

問 電報文ハ如何。

答 夫レハ杉村ガ發シタルモノニテ自分ハ知ラザレドモ、素ヨリ楠瀬モ前陳述ノ通り何カ起ルナラント知り居リシニ付、杉村モ唯ダ歸レ位ノ電報ヲ遣リシナラント存ズ。右讀ミ聞セタル處相違ナキ旨供述セリ。

被告人 三 浦 梧 樓

本人實印不處持ニ付拇印セシム。

明治二十八年十月二十七日

於廣島地方裁判所

豫審判事 吉 岡 美 秀

裁判所書記 田 村 義 治

### 三浦梧樓訊問調書(續)

問 前日拘引ノ際所持品ヲ調査シ、書類在中ノ折革靴一箇ハ被告封印ノ儘取敢ス預リ置キシガ、此ノ品ニ違ヒナキ乎、封印ヲ調査スベシ。

答 相違ナシ、封印モ異狀無之。

於茲開封ノ上調査シタル處、別紙目錄ノ書類在中シ、孰レモ本案ノ證據ト爲ルベキモノト思考シタルヲ以テ、革靴ノ儘悉皆押收シ、其旨告ゲタリ。

問 押收ノ書類ニ付テ一々辯解セヨ。

答 一、三浦子爵臺啓ト標記ノ袋ニ入レル書面ハ即チ前回申立シ自分ヨリ岡本ニ托シ大院君ニ贈リ承諾ノ書面ヲ添へ、更ニ岡本ガ取り歸リタルモノ。  
一、帝ニ贈リタル朝鮮云々ノ袋ニ入レ居ル二通ハ、朝鮮國王ヨリ露西亞帝ニ贈リシ親翰



ノ寫ニテ、宮内官吏ニ寫シ貫ヒタルモノ、之レハ已ニ新聞ニモ記載アリタリト存ズ。  
一、三浦公使閣下ト記シタル袋ニ入り居ル書面ハ、大院君へ内勅ノ寫シト其他一件ヲ彼ノ國人ヨリ杉村ガ寫シ貫ヒタルモノト存ジ、自分今般出發仁川ニ着シタル後、杉村ヨリ送り來リタルモノ。

一、敬覆者昨接ト冒頭アル書面ハ、十月八日ノ事變ニ日本人關係セリト風評アルヲ以テ、其旨調べ方ヲ彼ノ外務大臣金允植ニ公使館ヨリ照會シタルニ對シ、更ニ日本人ノ關係シタル事跡ナシトノ趣旨ヲ回答シ來リタル書面ノ寫シナリ。本書ハ公使館ニ備ヘ在リマス。

一、對韓政策ノ訓令ヲ待ツト題スル書面ハ、自分公使タル内命ヲ受ケシ時、陸奥、西園寺兩大臣ニ差出シタル草案ナリ。尤モ此ノ書面ニ對シテハ政府ヨリ訓令ハナカリシナリ。

一、星亨氏意見書ト記シタル袋ニ在ルハ、星ガ顧問官中ノ遣リ方ヲ聞キタルニ對シテ差越シタルモノ、尤モ之レハ同人而已ナラズ他ノ顧問官ヘモ同一ノ意見ヲ聞キシコトアルナリ。

一、拜啓今度ノ事變ニ關シ云々ト記シタル書面ハ、自分伊藤總理ニ送りタル書面ノ草案

ニテ、趣旨ハ一讀セバ明瞭シマス。

一、本官謁見顛末云々ノ書面ト、井上前公使内申書ヲ參考ノ爲メ寫シ置キタルモノ。

一、歳出總豫算額ト記シタル分、並ニ目下未定額ト記シアルハ朝鮮歳入出ノ豫算ヲ顧問官ニ取調サセタルモノ。

一、雜書類一括ハ前述ノ大院君ヨリ受取シ書面ノ寫シ、其他公使館ニ於テ取扱タル文書ヲ寫シ置キタルニテ夫々書面ニ依リ明瞭ナリ。

一、大院君入闕始末外二通ハ岡本ヨリ送り吳レタレドモ、未ダ一讀セシコトモ無之書面ナリ。

一、總テ今回ノ事變ハト冒頭ニアル書面ハ、岡本ガ今度ノ處分ハ斯様ナモノナランカト自分ニ見セタルナレドモ、之レハ日本人ノ書イタノカ朝鮮人ノ書イタノカモ分ラン様ナモノナリト申シ、別段返事ヲ爲サマリシナレバ取極メタルモノニモアラズト存ズ。

一、曩ニ宮内府布達第一號云々トノ冒頭アル書面ハ、内閣ノ顧問石塚ガ意見書ニテ、井上ガ在任中ヨリ朝鮮ノ遣リ方ヲ一々取調べ斯様ヲ始末デハ迎モ何ウモナラント云フ趣意ナリ。



一、電報二通ハ杉村ガ發シタルモノニテ、記載ノ事柄ハ一讀セバ明カナリ。  
一、外二通ハ機密金ノ下調書、自分ノ從者渡韓許可證ニテ辯解ヲ要セザルモノト思フ。  
日記モ荷物中ニ在リシモノナルカ、如何。

此時日記ヲ示ス、直ニ押收ノ旨告ゲタリ。

答 之レハ從者ガ取扱フタルモノナル可ク、自分ノ知ラザルモノナリ。

問 此ノ大院君ニ送リタル四ヶ條ノ要項書ハ何人ノ起草ニシテ且ツ何人ガ筆記セシナル乎。

答 杉村、岡本ノ兩人起草致シタリ。誰ガ書シタカ知ラザルモ杉村ノ筆跡ナランカト思フ。

問 此書面ニハ前回申立ノ外、金宏集、魚允中、金允植ヲ舉用スルコト、李載冕ヲ宮内大臣ニ、金宗漢ヲ協辯ニ爲スト云フコトアリ、如何。

答 昨日申立ノ際ハ失念シタレドモ、其通り違ヒ無之、昨年七月日本ガ改革セシメタル時ハモハト同一人デアリマス、故ニ申サバ一年ノ昔ニ復舊スルコトナリ。

問 斯ノ如ク條項ヲ定メ、先ヅ大院君ニ示シタルヲ以テ見ルト、此方ヨリ改革ヲ勸メタル様ナリ、如何。

答 勸メタルニハ無之、大院君ガ十分動カントスルハ氣アルヲ見タルニ付テハ、斯様ナ方法ニナクテハ日本ハ承諾セント云フ意ヲ示シタルマデナリ。

問 大院君ノ書面二通アルハ如何。

答 是應頓子答孫諸坐トアル分ガ本書ニテ、李是應杯トアル分ハ特ニ自分へ送リタルモノナリ。彼ノ考ニテハ一通ハ公使館ニ送リタルナル可シ。

問 被告ニ送リタリト云フ分ハ如何ナル趣旨ナルカ。

答 自分へノ手紙ニテ逢フト思ヒ居リシガ終ニ逢ズシテ斯様ナ契約ヲスルト云フ様ナ趣旨ナリト存ズ。

問 堀口ハ大院君ト談話ノ出來ル者ナリヤ。

答 筆談ハ出來ルナランガ、言語ハ通ゼズト思フ。

問 然ラバ堀口ガ大院君ヨリ傳言ヲ聞キタルハ筆談ニテノコトナリヤ。

答 鮎貝ガ通辯セシナリト聞キ居レリ。

問 大院君ニ於テ如何ニ窮シタリトスルモ、一面識ナキ堀口ニテ斯様ナ大事ヲ打明カス筈ナキナラズヤ。

答 自分モ左様思フニ依リ、堀口ハ夫レマデ度々出入シ居ルニハナキカト存ジタリ。併シ夫レ等ノコトハ聞クノ要アラザレバ本人ニハ尋ネタルコト無之、迎モ一面識ノ際卒然斯様ナ談話ヲ爲スコトハアリマスマイ。岡本モ夫レデ疑ハシト云フタルナリ。



問 堀口ヨリ其事ヲ聞カンコトハ愈ヨ違ヒナキ乎。

答 決シテ違ヒ無之。

問 岡本ハ前回モ聞キタル通り公使館ニ到リ三浦ニ面會ノ時、三浦ハ朝鮮トイフハ何ウシタモノデアラウ、底拔ケ袋ニ物ヲ入レタ様ナ者ダ、嘆息デアルト云ヒ、其事ハ幾ラ世話ヲシテモ甲斐ナシトノ趣旨ニテ、何ウシタラ宜シカラウ、大院君ハ何ウシテアルカトノコトナリシト云フ、然ラバ堀口云々ノ嘯ハナキコトナラズヤ。

答 左様ナ話ヲ致シタルコトハ有之ニ違ヒナシ、併シ之レハ自分赴任ノ當分ニテ、餘程前ノコトナリ。堀口ヨリ聞キシハ其後ノコトナリ。

問 岡本ハ事變ト格別遠クハ無之、只ダ事變ヨリ少シ前ノコトナリト云フ、如何。

答 堀口ノ話ヲ聞キシヨリ前ノ事ニ違ヒ無之。

問 事變當日話ガ他ノ者ヲ以テ大院君ヘ報知セシコトアリヤ。

答 岡本ガ往キタルヨリ外ニハ自分覺エ之レナシ。

問 岡本ハ大院君ガ知リ居リシヤウ云フ、如何。

答 如何アリシカ夫レ等ノ細カキコトニ到ツテハ存ゼズ。自分ハ大體ノ事而已ヲ承知スルマデナリ。若シ果シテ大院君ガ知リ居リシナラバ、堀口デモ報告セシヤ知レズ、自分ハ何

人ヘモ告ゲタルコト無之。

問 楠瀬中佐ヘハ大院君ガ訓練隊ヲ率キ宮闕ニ入ルノ企アリト聞ク、巧ニ之レヲ利用セバ都合宜シカラント云フ如キ談話アリシトハコト、如何。

答 大體ニ付テハ同人ヘモ話シタルニ違ヒ無之。

問 同人ハ杉村ノ電報ニ依リ八日午前一時頃ニ京城ニ着シ、直ニ公使館ニ往キタリ。其時杉村ノ話ニ今朝安駟壽來リ訓練隊解散ノ事、閔泳駿入閣ノ事ニ付公使ニ相談セシナリト云フ、如何。

答 夫レハ談話シタルカモ知レズ、安駟壽ガ來リテ訓練隊解散ノコトヲ聞キシハ前回申置キタル通りニテ其際同人ハ閔泳駿ノ内大臣タルコトニ付テモ自分ニ尋ネタリ。元來閔泳駿ハ朝鮮ノ困リ者ニテ、京城ニ置クハ宜シカラザル故、井上ノ時ヨリ日本ニ遊ブヤウ屢々他ノ者ニ談ジタルコトモアリシ由、若シ日本ニ行クニハ上海ヨリ直航スルガ宜シ、カリニ仁川ニ歸リテハ迎モ行ケマイト自分モ申シタルコトアリ。然ルニ同人ハ日本ニ行カズ京城ニモ歸ラズ、親ノ宅ヘ歸リタリトノコトニ付、自分ハ安駟壽ニ閔ガ日本ニ行カズバ何カノコトヲ話シテ見タイ、一度呼ビ吳レヨト申シ置キタル故、自分ニ於テハ同人ノ宮内廳ニ入ルコトヲ拒マザルナラント密カニ王宮ヘ入りシモノナラン、夫レニ就テ俄カニ



斯ノ如ク自分へ相談ニ來リタルモノト存ジタリ。

其ノ事ニ付テハ如何ナル返事ヲ爲シ置キタリヤ。

問 安銅壽ハ自分ガ此頃ノ王宮内ノ遣リ方ハ實ニ惡イト怒リタル辭ニ就テ、以前ハ閔泳駿ガ

總括ヲ爲シ居リシ故、物事亂雜ニアラザリシモ、今ハ互ニ同様ナモノ而已ナレバ、勝手

次第ナ事ヲ爲スノデアル。就テハ今度又閔ヲ宮内大臣ニ致シテハ如何アランカト相談セ

シ故、之レハ屹ト王宮ノ内命ニテ斯様ナ事ヲ申シ來リシニ違ヒナイ、シテ見ルト此頃ノ

コトハ閔泳駿ガ已ニ黒幕ニ立居リテ遣ルコトナルベシト自分モ推考シタル故、即答ハ爲

サザリシガ、熟考ノ上其日ノ夕方宮内大臣ト爲シテ宜シカラントノ旨ヲ書面ニテ返事シ

遣シタルコト有之。

問 此閔ガ宮内大臣タルコト至當ト思フト、ノ返事ハ、其實王宮内へ安心セシムル爲メ申遣シ

タル如ク思ハル如何。

答 然リ、自分ハ閔泳駿ノ宮内大臣タルコト大反對ナレドモ、時機切迫ノコトニ付同意ノコ

トヲ申遣セバ安心スルナラント故ラニ返事ヲ致シタルナリ。

問 安心セシムルト云ヘバ、即チ大院君ノ立ツコトニ付大ニ便宜ヲ得ルナラントノ意ヲ含ミ

居ルコトナリヤ。

答 全ク左様ナリ。其日安ガ來リテ訓練隊ヲ解クト云フコトニ付、已ニ時機ノ切迫ヲ知リシ

故、早速探偵セシメタルニ、閔泳駿ヲ宮内大臣ト爲サントハ安ガ一己ノ考ニハアラズ、

已ニ王宮内ニ其計畫アリテ日本黨ノ大臣等ハ殺害セント云フ謀計有之コトモ知レ、全ク

昨年日本ガ改革セシメザリシ以前ノ姿ニ戻サントスルモノト認メシ故、自分ニ於テハ其

機ニ乘ジ大院君立テバ昨年日本ガ改革セシメタル當時ノ狀況ニ復スルコトヲ得ベシト考

ヘシナリ。

問 又杉村ハ楠瀬ニ午前四時ニハ大院君入闕スル方ニ爲リシト話セシトノコト如何。

答 夫レモ申シタルナル可シ、岡本ガ龍山ニ着スルハ何時ト云フコトモ分リ居レバ、從ツテ

大院君ノ出ルコトモ推定シ得ラル、故、時刻ハ定マリ居タルナレバナリ。

問 又守備隊ハ鎮撫ノ爲メ入城ノ手續ニ定マリ居ルト話セシトノコト如何。

答 夫レモ談話シタルナラシカト思フ、守備隊ニ於テモ訓練隊ガ出ルト云フコトハ分リ居リ

シニ依リ、其鎮撫ヲ名トシテ出ルモ別ニ夫レヲ制サズト云フ位ノコトハアリシナレバナ

リ。

問 此守備隊ニ付テハ誰ガ重モニ交渉シタルナリヤ。

答 守備隊ノ隊長馬屋原ハ常ニ公使館へ遊ビニ來リ居リシニ付、其際自分ガ談話セシニヨル



ナラント存ズ。外ニ誰モ行キタル者ハアリマスマイ。

問 追々聞ク處ニヨルト大院君自カラ立チタリト云フヨリハ、立タシメタリト云フ方順序ノヤウ思ハル如何。

答 決シテ左様ニ非ラズ。以來ハ強ヒテ同人ヲ引出シタル様子ナリシモ、夫レニテ遣リ損ヒシナレバ、自分ニ於テハ決シテ同人ヲ引出スノ考ヘハナカリシモ、今度ハ大院君ガ非常ニ憤激シテ十分熱度モ昇リ居ル故、愈ヨ自ラ遣ルナラント相考ヘ、面會ヲ求メ來ルモ逢ハザリシナリ。迺モ自ラ遣ル考ヘナクバ前以テ彼ノ人ガ契約書等ヲ認ムル筈ナキナリ。全體大院君ガ憤起スルニ至リタルハ過日來申述べタル事情アルノミナラズ、近來非常ニ窮シ、兼テ宮内府ヨリ老人ニ付キ月二百圓宛送ルコトニ定マリ居リシモ、孔德里ニ引籠リシ以來ハ少シモ其金員ヲ送ラズ、日常ノ用度ニモ困リ居タル由ニテ、之レ皆王妃ノ處置ニヨルナリト深ク憤リ居タル様子ナリ。

問 大院君ハ其志アリテモ兵力ナキヤウ思ハル、其邊ハ如何。

答 夫レハ堀口ヨリモ聞キシガ、國父ノコトナレバ、入闕セント思ヘバ何時ニテモ出來ルガ、唯ダ日本ノ兵ニ妨グラレテハ困ルト云ヒシ由ナリ。

問 併シ兵力ニ倚ラズシテ改革ガ出來ルナラバ時機ヲ計ルノ必要ナキナラズヤ。

答 大院君ハ左様ニ申シテモ王城内ニハ侍衛隊モ居ルコトニ付、到底兵力ナクシテ出來ルコトテナイト考ヘ居タリ。

問 然ラバ其ノ事ニ付キ何か助ケテ爲ス相談ヲ爲シタリヤ。

答 自分ヨリハ其ノ事ハナサズ。

問 安銅壽ガ訓練隊ヲ解除スルト申シ來リシコトハ該隊ヘモ通知シタリヤ。

答 其ノ事ハ自分赴任以前ヨリ已ニ噂ノアリシコトニテ、薄々知り居タルモノナリ。

問 解散ニ爲ルト云フ時機ハ知ラセ遣リシカ。

答 夫レハ知ラセタリ。

問 如何ナル手續ニテ爲シタリヤ。

答 七日ノ十時頃禹範善ト申ス隊長ガ公使館ヘ訪問ニ來リシ故、今朝安ガ來リテノ話ニハ、訓練隊ガ喧嘩ヲスルト云フコトニ依リ解散スル由ナレバ、最早運命モ久シカラザルベシ、承知スルカト問フタルニ、薄々聞イテ居リマスト申シテ憤激シタル顔色デ居リマシタ。同人ハ朴泳孝派隨一ノモノナリ。

問 七日ノ夜訓練隊脱營スルト云フコトニ付何ニカ打合セ置キシコトアリヤ。  
答 打合セタルコトハナキモ、其ノ事ハ守備隊ニ於テ已ニ知り居タル様子デアリタリ。



問 大院君ト訓練隊トノ關係如何。

答 訓練隊ニ於テハ大院君ニ訴ヘントスル模様アリシナレドモ、七日ノ夜大院君ガ出ルト云フコトマデハ知ラザリシナルベク、大院君ニ於テハ訓練隊ヲ解除スルト云フコトヲ知リ居リシナランモ、別段打合セ等有之コトトハ思ハズ。

問 大院君ノ目的ハ要スルニ王宮内ノ改革ヲ爲スト云フニ止マリ居タルカ。

答 左様ナリ。

問 王宮内ノ改革ヲ爲スニ付テハ權勢アルモノヲ殺害スルト云フノ意モアリタルヤ。

答 夫レハ不言ノ間ニアリシナラン。別段誰ニモ打明カシタル者ハ無シ、朝鮮國ノ弊害ヲ知ル者ハ何人モ同様ニテ、改革ト云フモ夫レヨリ外ニハ之レナキコトナリ。

問 其ノ擧ニ日本人ガ手傳タル者モ無論其權勢者ヲ除クト云フ意思ニ出デタルモノナルベキカ。

答 何ウモ夫レハ分ラザレドモ、朝鮮人ガ必ラズ遣ルナラント思フテハ居リシナルベク、今度ノ遣リ方ハ結末ニ至リ少シボロヲ出シタル故、其結果ヲ見テ原因モ斯克アリシナラント思ル、様ナレドモ、初メヨリ然ル計畫ハ之レナキナリ。

問 國友重章其他ノ居留人ニテ其相談ヲ爲セシ者アリヤ。

答 別段彼等ニ告ゲタルコトナキモ、彼等ガ承知セシナレバ、多分七日ノ午後ナルベク、薄薄様子ヲ聞イテ互ニ相傳ヘタル様子ニテ、十時頃ニハ重ナル者ハ大概承知シ居タルヤウ後ニ聞キマシタ。

問 國友ハ常ニ公使館ニ出入シ居タリヤ。

答 左様ナリ。

右讀ミ聞セタル處相違ナキ旨供述セリ。

被告人 三 浦 梧 樓

本人實印不處持ニ付拇印セシム。

明治二十八年十月二十八日

於廣島地方裁判所

豫審判事 吉 岡 美 秀

裁判所書記 田 村 義 治



## 岡本柳之助訊問調書

- 問 六月六日仁川ニ下リシ時ハ孰レニ宿泊セシ乎。
- 答 水澤ト申ス方ヘ泊リタリ。
- 問 其時ハ俄カノ出立ノヤウ見ユルガ何ノ譯ナリヤ。
- 答 京城ヲ出發セシハ別段俄カト申ス譯ニモ無之、前方ヨリ已ニ歸國セント存ジ居タルニ、七日ニ筑後川丸出帆スルトノコトニ付、六日朝出發シタルモノナリ。
- 問 併シ家族、荷物等ヲ未ダ京城ニ殘シ置キタル由ナラズヤ。
- 答 夫レハ家屋修繕代價ヲ朝鮮政府ヨリ受取ルベキモノ五百八十圓程アリ、軍部大臣ニ請求セシモ未ダ下附ナカリシ故、家族ヲ殘シ置キ、夫レヲ受取、跡仕舞等致スベキヤウ申シ置キタルノデス。
- 問 七日ノ出港船ニ乗ラザリシハ何故ナリヤ。

- 答 夫レハ船ノ出港時間ヨリ前、鈴木順見ノ書翰到來致シタル故、直ニ出發歸京致シタルナリ。
- 問 然ラバ別ニ船ニ故障アリシ譯ハナキ乎。
- 答 船モ朝鮮ノ大使ガ參リ、其他鎌田榮吉、西脇長太郎等已ニ乗ルコトトナリテ、上等室ナキトノコトニ付、之レモ少シクイヤダトハ思ヒシモ、夫レガ爲メ乗ラザリシニハアラズ。
- 問 順見ノ書面ハ何時頃到着シタルヤ。
- 答 午後二時カ少シ前カデアリマシタ。
- 問 其書翰ハ誰ノ取次ニテ受取リタリヤ。
- 答 宿ノ者ノ取次ニテ受取リマシタ。
- 問 其時ハ從者モ居リシナラン。
- 答 左様ナリシモ別段取次ハ致サズ。
- 問 宿ノ誰ガ取次タリヤ。
- 答 女デアリマス。
- 問 其書翰ヲ受取リテ直ニ出發シタル譯カ。
- 答 夫レヨリ領事館ニ參リ急ギノ駕籠ヲ頼ミ、午後四時出發致シタリ。



問 順見ヨリ態々人來リシト云フハ事實之レナキコトナラン。實際ヲ申立テヨ、其時ノ報知ハ他ヨリ來リ居ルモノト思ハルレバナリ。

答 相違無シ。

問 併シ其日其方ノ水澤方ヲ出シハ午前十時頃ナル由、故ニ午後二時頃在宿シテ書翰ヲ受取ル筈ナク、又其方ノ京城ニ歸リシハ電報ヲ得タルニ依ルナリトノ聞エアリ、如何。

答 夫レ等ノ事ニ付テハ少シク相違ノ廉モアレドモ、此場合詳細ノ申立ヲ致スハ少シク憚ル廉モアレバ、篤ト勘考ノ上明日申立致シタキナリ。

問 或ハ左様ナ事情モ有之ナラン、併シ已ニ起訴アリタル上ハ飽クマデ事實ハ明瞭ニ取調べザルヲ得ズ。已ニ發覺セシ事柄ハ隠蔽スルモ其効ナキモノナレバ、却テ速カニ事實ヲ申立ツル方宜シカラシ。

答 自分ガ明日マデ勘考致シ度ハ餘ノ義ニアラズ、此度ノ事ハ本邦並ニ朝鮮、露西亞等ニモ關シ、或ハ外交上ノ問題ヲ惹起スルヤモ期シ難キコトニテ、小村政務局長ガ京城着ノ際委數自分ノ意見ヲ述べ置キタルコトアリ、又其時來リシ安藤檢事正ニモ小村ヨリ申シ談ジタル由ナレバ、同人等ノ報告ガ本日頃ハ政府へ達スルコトト存ズレバナリ。  
尤モ安藤ハ已ニ歸リマシタカ。

問 新聞上ノ報道ニ依レバ安藤檢事正ハ先日當廣島ニ歸着シタリトノコトナリ、故ニ同人ノ報告ハ其筋ニ違シタル哉ニ思ハルレドモ、本官ノ取調ニ就テハ別段夫レ等ノ結末ヲ聞クベキ必要ヲ認メズ、故ニ被告ニ於テハ速カニ詳細ノ申立ヲ爲セヨ。

答 然ラバ申立マス。自分ガ仁川ニ着シタル後、杉村書記官ヨリ領事館ニ於テ岡本トシテ至急歸レト云フ電報來リ、續イテ又山野領事宛ニテ杉村ヨリ至急岡本ニ戻ルヤウ達セヨト云フ電報來リ、其ノ二通ヲ同時ニ八坂ト申ス方ニテ自分受取、續イテ杉村ヨリ山野宛ニテ岡本ハ立タカト云フ電報來リシ故、自分出發致シタル譯ナリ。

問 然ラバ鈴木順見ヨリ來リシナリト云フ書翰ノコトハ無根ナリヤ。

答 左様ナリ。

問 仁川出立後ノ始末ヲ聞カン。

答 仁川ヨリハ陸路ヲ取リタルニ、龍山ノ渡船ノ處ニテ順見ニ出逢ヒ、同人ガ國太公ノ旨ヲ傳ヘタルコトハ前回申立タル通りデアリマス。依テ同人ト同道孔德里ニ參リタリ。

問 杉村書記官ヨリ至急歸レトノ電信ニ依リ歸京シタルモノナルニ、順見ノ出迎ニ依リ直ニ孔德里ニ行キタルハ何故ナリヤ。

答 杉村ノ電信ニ依リ歸リタルニハアレドモ、順見ノ傳フル處國太公ノ命ハ急ヲ要スルコト



ト認メタル故直ニ同方へ參リマシタ。

問 順見ノ傳言ト杉村ノ電報ハ關聯シ居ル譯ニアラズヤ。

答 多少關聯アリマス。尤モ順見ハ別段杉村ノ傳言ヲ爲シタルニハアラズ、自分ノ想像マデナリ。

問 杉村ハ國太公ト如何ナル關係アリシナル乎。

答 夫レハ能ク知りマセン。

問 然ラバ多少關係アラウト思フト云フハ如何ナル邊ナリヤ。

答 國太公へノ用事等ハ常ニ自分辨ジ居タルニテ、杉村ノ電報ハ順見ヨリ國太公ノ申越ヲ承リ次第矢張此事ニテアルナト思ヒシ故、直ニ孔德里ニ參リタルナリ。

問 併シ前回陳述セシ通り、國太公ニ於テ内勅ヲ奉ゼラレ入闕ナルナレバ、本邦ノ公使館ニ於テ別ニ關係スル筈ナキナラズヤ。

答 日本ノ公使館ハ親密ナリシ故、右等ノコトハ云フテ來ルコトモアリマシタ。

問 杉村ガ三度マデ急電ヲ發シ歸京ヲ促シ、夫レヨリ歸京シ杉村ニ面會セズ、孔德里へ往キタルニ依レバ、前日杉村ト打合せ置キタルコトアルナラン。

答 平素ヨリ同人トモ諸事打合せ居タルコトアレドモ、別段此ノ事ニ付内談ヲ遂ゲタル等ノ

コトナシ。順見ヨリ傳言ヲ聞キシ故、杉村ノ電報モ其ノ事ニ關スルナラント思ヒタルマデナリ。

問 龍山ニ於テ出逢ヒタリト云フハ順見ニ非ラズシテ公使館吏員ニハアラザル乎。

答 順見ニ相違ナシ。公使館ノ吏員ハ居マセナシ。

問 龍山ニテ多人數出逢ヒタリト云フ中ニ何人カ承知ノ者ヲ認メタルニ違ヒナカラシ。

答 其際ハ何人タリシヤヲ知ラザリシニ違ヒナク、國太公ト談話スルコト等ハ自分ノ長處ナレドモ、一方ノ人達ハ所謂壯士トイフ連中ト存ジ、別ニ何カ趣構ノ在リタルコトト存ジ、關係シタルニハ無之、併シ先方ニハ自分ヲ知リシ者アリシヤモ知レズ。

問 然レドモ同時ニ孔德里ノ邸へ伺ヒ往キタルコトナレバ、其間ニ關聯セザル筈ナシ、何か聞キ居リシナラン。

答 左様ナ事ナシ。自分ハ自分ノミ往キシニテ、彼等トハ關係無シ、尤モ國太公ガ參内セラレ、ト云フ事柄ニハ誰ヨリカ承リ居リシモノト存ズ。

問 要スルニ被告ガ大院君ニ面接シタルハ、順見ノ口頭ニテ傳へタルコト而已ニ就テナリシヤ。

答 左様ナリ、龍山マデ出逢ヒシ節、是非大院君方へ往キ吳レヨト申シ、杉村ノ電報モ其事



ナラント思フタル故、孔德里へ行キシナリ。

問 杉村ノ電報ガ大院君ノ順見ニ傳言セシト云フ事ト同ジ事ナラント思ル、理由頓ト分ラズ如何。

答 自分モ深く考ヘタルニハアラザレドモ、杉村ノ電報ハ順見ノ云フ事ト同ジ事ナランカト思フタルマデナリ。

問 大院君ニ於テ斯ノ如キ重大ナ事ヲ、順見如キ一私人ニ口頭ヲ以テ托セラル、ト云フハ如何。

答 夫レハ昨年大院君ノ出ラレタル時モ自分關係セシコト有之、順見モ同宮ニ出入スル故申シ談ゼラレタルコトト存ズ。

問 杉村ノ電報ガ順見ノ報告セシコトト同一ナラント思考スルニ就テハ、必ラズ其已前何事カ打合セアリタルコトニ相違ナカラシ。

答 別段申合ト云フ様ナコトハ無之、其ノ已前モ斯様ナコトニモ自分ヲ引出サレタルコトアリ、何事カ生ジタル時常ニ自分ハ公使館其他ヨリ引出サレ、誠ニ迷惑致ス次第ナリ。

問 前回申立中、國太公ヨリ受タリト云フ内勅ノ寫シハ之レニ當ル乎。  
此時老石山ヨリ陵山老人宛ノ封筒ニ入レタル三通ノ書面ヲ示ス。

答 左様ナリ、第一ハ大院君へ王陛下ノ内勅ノ寫シニシテ、第二ハ途中訓練隊ニ出逢ヒシ時國太公ヨリ命ゼラレタルコトヲ記シ貫ヒ、第三ハ自分へノ書翰デアリマス。老石生トアルハ國太公ニシテ、陵山ハ自分ノ號ナリ。

問 總テ國太公ノ自筆ナリヤ。

答 左様ナリ。

問 此書面ハ何日ニ落手シタリヤ。

答 自分此度京城出發ノ日ニテ、其日ハ失念セシモ韓曆ニテハ九月三日ニテ、自分暇乞ノ爲メ參殿セシ故、過日拜見シタル勅書ヲ書イテ下サレト申シ貫ヒマシタ。

問 孔德里ノ邸ニ於テ其ノ内勅書ヲ拜見シタリト云フ時他ニ日本人居リシカ。

答 誰モ居リマセナシ、國太公ヨリ其後來イト申サレ往シ時、之レガ在レバ大丈夫ダト云ツテ示サレタルナリ。

問 此度ノ被告人中孔德里ノ邸ニ於テ岡本ヨリ大院君入闕ニ付キ護衛ノ爲メ行ケト申シ聞ケラレタルコトアリト申ス者アリ、如何。

答 自分ハ左様ナコトセシコトナシ、他ノ連中ハ外ヨリ引き纏ヒ來リシ者ト見エ、自分ノ關係無之ナリ。



問 受持品中ニ外務省ノ暗號アリ、如何セシモノ乎。

答 之レハ昨年、イヤ本年二月朝鮮政府ニ三百萬圓借入レルコトニ關シ、井上公使ヨリ申シ談ジニヨリテ自分東京ニ行キシコト有之、其時公使館ヨリ受取リテ參リタルナリ。

問 前ニ示シタル國太公ノ書面ノ外、二個ノ革靴中ニハ數多ノ書類アリ、取調中差押置クガ、惣テ被告ノ處有物ニ相違ナキヤ。

此時二個ノ革靴中ノ書類物件ヲ示シタリ。

答 惣テ自分ノ處有ニ相違ナシ。

問 入城ノ際携ヘ居リシト云フ仕込杖ハ之レナラズヤ。

此時仕込杖ヲ示ス。

答 自分ノ處有品ナレドモ此分ニテハ無之。

於此前示書類物件ハ差押フル旨ヲ告ゲタリ。

右讀ミ聞セタル處相違ナキ旨供述セリ。

被告人 岡本柳之助

本人實印不處持ニ付拇印セシム。

### 追訊問

問 杉村ヨリ山野ニ來リタル二通ノ電報モ被告受取タリヤ。

答 受取リマシタ。

問 然ラバ其方宛ノ分ト三通トモ如何セシヤ。

答 多分取捨テタリト存ズ、克ク覺エマセン。

問 其電報ハ暗號ナリシカ。

答 普通ノ電報ナリ。

右讀ミ聞セタル處相違ナキ旨供述セリ。

被告人 岡本柳之助

本人實印不處持ニ付拇印セシム。

明治二十八年十月二十五日



於廣島地方裁判所

豫審判事 吉岡

秀美

裁判所書記 田村

義治

### 岡本柳之助訊問調書（續）

問 鈴木順見ノ陳述ニ依ルト、其方ガ龍山マデ歸リ公使館ニ到ラズ直ニ孔德里ニ伺ヒタル理

由甚ダ明カナラズ、此點ニ就テハ必ラズ包藏シ居ルモノト思ハル、ニ付詳細申立テヨ。

答 然リ、是レマデハ包藏シ居タルニ違ヒアリマセン、自分ハ素ヨリ事實ヲ曲ゲテ一身ノ爲

メヲ謀ル考ヘハ無之モ、此ノ事件ニ就テハ色々考ヘル處モ有之、別途ノ事ヲ憂慮シテ決

心シ難キ廉モアリシ故、明確ニ顛末ヲ陳述スル能ハズ、夫レガ爲メ色々行違ノ事モ生ジ、

斯ク詰問ヲ受クルニ至リマシタガ、本日ハ其ノ自分ガ憂慮シタル事柄ヨリ申立マス。抑

モ此度〇〇云々等ノ訴ヲ受クルニ至リタル事件ノ被害者ト申スハ、即チ朝鮮國人ニテ、

朝鮮政府ニ於テハ其ノ事件ノ處分ハ已ニ結了シ、素ヨリ日本人ノ幾分ガ關係セシコトニ

違ヒナキモ、彼ノ國政府ニ於テハ都テ之レヲ同國人ノ爲シタル事トシ、日本人ハ大院君

ノ保護ヲ致シタル位ニ心得、好意トシテ居ル程ノ事ナレバ、別段日本人ノ所爲ニ就テ取



調有之等ノ必要ナシト思フモ、之レハ露西亞ヨリ申入レタル事モアリ、其ノ關係ヨリ事  
茲ニ至ルモノト存ズ。然レドモ今ニ至リ日本人ノ取調ヲ爲シテ事ヲ荒立ツルニ於テハ、  
却テ朝鮮政府ト日本トノ衝突ヲ來スノ恐レアリ。然レドモ露西亞ニ對シテ捨テ置カレズ  
等ノ事情アラバ、其ノ關係者ヲ退韓セシメ、若クハ表面顯レタルモノ而已ニ就テ相當ノ  
處分ヲ爲スモ宜シカラン、其事ニ就テハ素ヨリ自分ハ負フベキ責任アルモノト覺悟致シ  
居タリ。依テ昨日モ一應陳述シタル通り、其ノ意見ヲ小村局長ニ陳述致シタル事モアレ  
バ、其報告ニヨリテ政府ノ決心モ定マル可ク、強ヒテ事實ヲ指變セントセバ或ハ三浦公  
使ガ露西亞國公使ヘ云フタル事ト齟齬スル事柄モアリテ、終ニ國際問題等ヲ惹起スルニ  
至ランカト憂慮致シ居タル次第デアリマス。

問 兎ニ角本官ノ取調ニ對シテハ當時ノ事實洩レナク申立ツル方宜シカラン。

答 然ラバ惣テ明確ニ申立マス。尤モ此度ノ事件ヲ陳述致スニハ昨年來ノ經歷ヲ陳述シ置カ  
ザレバ事情ノ明瞭セザルコトモ有之故、先ヅ其ノ概略ヨリ陳述シマスガ、自分ハ昨年二  
十七年五月朝鮮ニ到リ、同國ハ折節東學黨ノ發起ニ依リ騷擾中ニテ、大島公使ノ赴任モ  
アリ、其際陸奧外務大臣ヨリ自分ニ申シ來リタルコト有之、之レハ公使赴任已前、東學  
黨ノ騷擾ニ就テ支那ヨリ兵ヲ送クルト云フ事アリシヲ以テ、同國ガ出兵セバ無論日本ヨ

リモ兵ヲ出ササル可ラズト考ヘ、其事ニ關シ杉村書記官ニ意見ヲ述べタルコトアリ、杉  
村ハ直ニ政府ニ報告シ、度々政府トノ往復モアリシガ、六月三日ニ至リ支那ヨリ出兵ノ  
通知ヲ外務省ニ爲シタルヨリ、政府ハ直ニ大島ヲ赴任セシメタルニテ、同公使ノ乗込タ  
ル八重山艦ハ其ノ五日横須賀ヲ發シ、十日ニハ已ニ京城ニ入り、續イテ大島少將ハ兵ヲ  
率キテ京城ニ入りマシタ。陸奧外務大臣ヨリノ書面ト申スハ右等ノ事情ニ關シ、十分注  
意シテ公使ヲ補助シ吳レヨトノ趣旨ナリシナリ。茲ニ於テ大島公使ハ朝鮮政府又ハ支那  
ノ袁世凱等ニ交渉ノ末、兩國共撤兵スルト云フ議モアリタレドモ、其ノ事ハ兩國トモ行  
ハレズ、依テ閔泳駿ヲシテ内政ノ改革ヲ爲サシムルト云フコトニ爲リタリ。孰レトモ其  
ノ事ハ自分ノ意見ト反シタルヨリ、暫ク大島ト面會セザルコトアリマシタ。夫レト申ス  
ハ其頃朝鮮ノ顯官三百人ニシテ、二百六十人迄ハ閔氏ノ一族郎黨ト申ス程ニテ、東學黨  
ノ發起セシハ時ノ政府ガ關門稅ヲ取立ツルトカ、賄賂ヲ取ルトカ、無辜ノ者ヲ囚獄シテ  
金ヲ取ルト云フ様ナコト殆ンド二十年モ相續クヨリ、夫レヲ改革セント云フ趣旨ニテア  
リシナレバ、閔泳駿ニ内政改革セシムルト云フモ到底行ハレザルコトト思フ。何トナレ  
バ其ノ改革ニ依リテ官吏ヲ免黜セントセバ、皆一族ヲ除クコトトナリ、先ヅ以テ自分ヨ  
リ罷メザレバナラヌコトトナレバナリ。恰モ日本政府ノ藩閥ノ弊ヲ除カントセバ、先ヅ







歸リテ大院君ト談合ノコトヲ大鳥ニ告ゲ、同人へモ福島ニ述ベタル如キ意見ヲ陳述シタリ。之レハ多分七月二日ナリシト存ズ。福島ハ其日直ニ出發歸國シタリ。就テハ其日自分ハ外務大臣ニ向ケテ福島中佐今立ツタ、自分ノ意見ハ同人ニ悉敷下問アレト云フ電報ヲ發シタリ。尤モ其前日外務省ヨリ加藤増雄ガ訓令ヲ帶ビテ來リ居リ、同人ヨリ政府ノ意見ヲ聞クニ、内政ヲ色々改革セシムル等ノ箇條アレドモ、自分ニ於テハ到底右等ノ改革ハ實効ヲ奏セザルベシト考へ、速カニ京城ヲ取込ミ置クガ上策ナリ、朝鮮ハ君主專制ノ國ニテアレバ、王様ヲ取込ミ置カザレバ甚ダ不利益ナリ。夫レニ就テハ大院君ヲ呼起シテ改革セシメ、支那ノ事ニ就テモ攻守同盟ノ定約モ出來ルヤウ爲リテ、開戦ノ曉ニモ頗ル利益ナラント思フ。依テ其ノ事ヲ政府ニ申告シ吳レヨト相頼ミ、加藤ハ自分ノ意見ヲ一々記録シテ福島ト同道シ歸朝セシ本野參事官ニ相託シマシタ。就テハ前ノ如ク陸奥大臣ニ電報ヲ發シアレドモ、再ビ陸奥へ宛本野持參ノ加藤書面ノ事ハ承諾在リタシトノ電報ヲ又發シタリ。併シ兩通ニ對シ陸奥ヨリ返答ハ來ラザリシナリ。元來大鳥ハ改革ノ事ニ付朝鮮政府ト色々交渉シ居タレドモ極リタル事モナク、同月十九日ニ至リ福島、本野ガ再ビ來リテ臨機ノ處置ヲ爲スモ宜シキヤウ訓令ヲ受ケ來リタル趣デアリマシタ。就テハ大鳥ハ二十日ト存ジマスガ、朝鮮政府ニ向ヒ條約違反ノ廉ヲ舉ゲテ三四ヶ條ノ訊問

ヲ爲シ、二十二日ノ午後十二時限り決答ヲ求メタリ。然レドモ此事ニ就テハ必ラズ返事ハ爲サルベクト何人モ思考スル事ナレバ、二十一日ト存ジマスガ、其ノ處置方ニ付公使館へ集リ協議ヲ遂ゲタリ。此時協議セシハ杉村書記官、本野參事官、福島中佐並ニ自分ト、居留地惣代穂積宣九郎、警部萩原、其外ニ中隊長壹人、士官二人デアリマス。其時ノ決議ハ自分ガ大院君說得兼引出シト云フ様ナ役ニ當リ、先ヅ歩兵一中隊、巡查二十人ト自分ノ手ノ者七名ヲ引連レ雲峴宮ニ到リ、大院君ヲ護衛シテ入城シ、外ニ王城ノ左右ニ歩兵二大隊ト背後ニ一大隊ヲ備ヘ置カント云フ事デアリタリ。二十二日ニ至リ果シテ豫期ノ如ク朝鮮政府ヨリハ決答セザル故、前決議ノ通り執行スル事ト爲シ、自分ハ午前三時ニ準備ノ人ヲ伴ヒ雲峴宮ニ到リ、國太公ニ面謁シテ兼テ申上置キタル時機只今到來シタリ、直グ御立チナサイト申シタルニ、「エラク」速カデアアルナー、併シ病氣デ困ルト申サレタレドモ、愈ヨ立タレルコトニ相成リタリ。其際同君ヨリハ「アナタ」ニーツノ頼ミアルガ、閔泳駿ヤ信靈君其他兩三名ノ名ヲ云ツテ、其者等ハ國賊ナレバ此際殺シ吳レヨト申サレタリ。然レドモ自分ハ夫レハ宜敷アリマスマイ、此際ハ一國ノ獨立ヲ保ツト云フ事ナレバ、二人ヤ三人ノ身上ニ就テ彼レ是レ云フ場合ニ非ラズト申シ、終ニ入城致サレタリ。其時ハ日本兵ガ王城ヲ圍ミタルヨリ、彼國ノ兵ヨリ發砲シ、夫レヲ打チテ已



ニ兵力入り込ミ居タル時ニテ、大院君ハ自分等ノ率キ行キシ一中隊ノ歩兵ガ護衛シテ王城ニ入ラル、ト、大君主陛下ハ階ノ下マデ出ラレ、國太公ト共ニ殿ニ昇ラレ、自分等ハ階下ニ居リシモ、王妃ラシキ人出デラレテ何カ泣イテ語り居ラレタリ。其中大島公使ヲ呼ベト云フコトト爲リ、又大院君ハ自分ヲ別殿ヘ招カレタル故行キタルニ、閔泳駿ヲ殺サウト申サレタリ。依テ自分ハ夫レハ宜敷カラズ、是レマデ兎角當國ニ於テハ黨派ニ依リテ人ヲ殺スコトアレドモ、夫レガ爲メ讐敵ニ讐敵ヲ重ネルコトナリ、國ノ治マル時ナシ。閔泳駿ガ金玉均ヲ殺サシタ事ニ就テモ自分ハ甚ダ宜敷ナイト云フ意見ヲ述ベシコト有之、第一此際反對黨ヲ殺害セラル、ハ日本ガ朝鮮ノ獨立ヲ助クルト云フ趣旨ニモ相悖ル次第ナレバ、一人モ殺スコトハ相成リマセヌト申シタリ。其時又同君ハ王妃ヲ廢シ庶人ト爲スカ、又ハ謹慎サル、事ニ爲サント思フト問ハレシ故、夫レモ宜敷無シ、斯ク入闕セラレタル上ハ素ト御親子ノ間ナレバ、王妃陛下ガ「アナタ」ノ命ニ背カル、事ハアリマスマイ、畢竟是レマデ御氣ニ入ラザル如キコトアルハ、「アナタ」ニ政權ナキニ依リシ事ナラン、故ニ其儘ニ爲シ置カレテ然ルベク、又日本ガ獨立ヲ助クルト云フ場合、王妃ヲ廢セラル、様ナコトアリテハ日本ノ體面ニモ關スルヲ以テ、兎ニ角オヨシナサイト諫メタリ。其中大島參内ニ付、自分ハ其場ヲ去リ立チ歸リマシタ。其後大島ニ面會シ

テ朝鮮ノ獨立ヲサスルト云フハ支那ト戰ヒノ後ナリ、政府ハドノ位ノ戰ヒヲ爲ス積リナルカ分ラズ、又朝鮮ノ獨立ヲ扶持スルト云フモ如何ナル程度マデ爲スカ、又改革ヲ爲サシムルト云フモ金ナクテハ出來ヌ、兎ニ角百萬圓位ハ出サズバナルマイ、夫レ等ノ事ヲ慥カニ聞クマデハ自分モ當地ニ居リテ用ナキコトナレバ一先ヅ歸國シ、其意見ヲ聞カント申シ、同月二十六日京城出發歸國致シタリ。東京ニ於テハ伊藤、井上、陸奥等ニ面會シ、右ノ狀況及ビ自分ノ意見等ヲ述ベ、同人等ヨリハ今一度渡韓シ吳レヨトノ事ナリシモ、意見確定セザレバ往ク可キ用モナク、折角命ヲ拾フテ歸ツタコトニ付、最早御斷リスルト云ツテ一先ヅ斷リマシタ。其後十月初メ頃大院君ガ支那ニ通ジタト云フコトヨリ、陸奥ガ自分ヲ招キ今一度渡韓シ吳レヨト相頼ミ、自分モ大院君ガ支那ニ通ジタトアリテハ幾分カ責任有之ヤウ考フレバ參リマセウト云フタレドモ、暫ク待チ吳レヨトノ事ニテ、自分ハ福島ノ母ノ方ヘ往キ居リシニ、陸奥ヨリ電信ヲ以テ呼ビシ故歸京シタルニ、井上ガ全權公使ニ爲リ渡韓スル筈ニ付、他ノ者トハ違ヒ元老ノ事ナレバ、共ニ往キテ助ケテハ如何ト申シ、夫レハ參リテモ宜シキガ、曾テ申シ置キタル金ノ事ハ如何、井上ニテモ金ガナクテハ改革ハ出來ズト申シタルニ、二三百萬圓位ハドウカナラウト申シ、自分ハ井上ハ理財ニモ精シケレバ後藤ヨリハ宜シカルベキモ、如何ナル意見ヲ有スルカト問ヒ



シニ、兎ニ角往キ吳レヨト、強ヒテ陸奥ヨリ頼ミシニ依リ行クコトニ致シマシタ。就テハ東京ヲ發シ廣島、馬關等ニテ井上ニモ面會セシガ、馬關ニ於テ面會ノ際、井上入韓ニ就テハ先ヅ以テ韓人等ニ井上ノ「エラヒ」人デアルト云フ事ヲ知ラスノ必要アリ、即チ同人ハ元老ニテ第一線ノ政治家デアル、此ノ人ノ云フ事ヲ聞カザレバ朝鮮ニ於テモ大ニ損デアルト云フコトヲ吹聴シ、又大院君ガ支那ト通ゼシトノコトハ如何ナル事情カ聞キ糺シ、同君ヘモ井上ノ云フコトヲ聞クヤウ爲シ置カザレバ都合惡イト云フ申シ合セラ爲シ、一日モ早キガ宜キトテ自分ハ先發シ、十月二十四日京城ニ入りマシタ。就テハ直ニ大院君ノ邸ニ到リ、面謁シテ今度赴任致ス公使井上ハ維新ノ功臣ニシテ、政治ノ事ニハ尤モ精シキニ依リ、内政改革上ノ事ハ御委任アリテ然ルベク、着ノ上ハ何か御尋ネニナルガ宜シカラント申シタルニ、同君ヨリハ大鳥ノ不足話アリタリ。其時自分ハ人ハ一長一短アルモノニテ、大鳥モ左程惡ルキ者ニ非ラズト答へ、時ニ「アナタ」ハ支那ニ通ゼラル、ト云フ噂アリ如何ト申シタルニ、夫レハ虚説ダト申サレタリ。其時井上ニ相渡シ吳レヨトテ大院君ト李載冕、李竣鎔ノ名刺ヲ渡サレタリ。之レハ朝鮮ノ習慣ニテ井上ニ對シ丁寧ニ致サレタルナリ。其中井上モ着シタルガ、井上ノ爲スコトハ大院君ノ意ニ適セズ、井上ハ又大院君ガ「ツマラン」ト云ヒ、意見衝突セシ爲メ、何も出來ズ。然レド

モ大院君ハ攝政ノ事ナレバ如何トモスル能ハズ、井上モ非常ニ苦慮シ、大院君ヲ罷メサセ度キモノナリト申シ、東學黨ニ通ジタトカ、政治ガ惡イトカ色々口實ヲ構ヘシモ、大院君ハ頓着セズ、井上ヨリ自分ヘ其事ヲ相談シマシタ。就テハ自分ハ大院君ヲ政治以外ニ置クコトハ無論出來ル事ナリ。夫レハ自分ガ遣リマシヨウ、大院君ノ支那ニ通ジタリトノ事ハ山縣ヨリ電報アリシ事ニ付、同方ニ其證據有之由、夫レヲ取寄セ貰ヘバ一日ニテ政治ヲ罷メルコトヲ納得サセマス。夫レマデ「アナタ」ガ彼レ是レ云フハ互ニ感情ヲ損シテハ後ノ爲メ面白カラズト申シタリ。其頃鳥尾ガ來リ居リ、同人トハ舊ク懇意ニ爲シ、又井上トモ懇意ノ事ナレバ、同人ニ對シ大院君ヲ罷メサセバ其代リヲ要スルガ、扱テ政治ヲ遣ラスト云ヘバ誰ガ宜シカラシ、局ニ當ル者ハ辟見ヲ免レザレバ、局外ヨリ朝鮮ノ人物ヲ見テ吳レヨト申シ、同人ヲ其頃ノ内閣大臣又ハ李載冕、李竣鎔等ニ面會セシメ、又大院君ヘモ面會セシメタル上、人物ハドウカト問ヒタルニ、鳥尾ハ先ヅ見ル處ニテハ金弘集、魚允中、金允植等ハ其様ナリ、又宮内ノ方ハ李載冕ガ宜シカラント申シ、自分ノ意見トモ符合スル故、其事ヲ井上ニ語リタルニ、兎ニ角大院君ハ除ケネバナラン、内閣ニテ政治ヲヤラスガヨカラウト申シ、其人物ハ同人モ同意デアリマシタ。其中鳥尾ガ出發シタル翌日、山縣ヨリ證據物到來シテ井上ヨリ自分受取リマシタ。之レハ大院君



ガ平壤ノ監司ニ遣シタル書翰ナレバ、之レガアレバ大院君ヲ罷メサスコトハ易キコトナリト申シ、其前四五度モ大院君方ヘ往キシモ、只ダ時候ノ挨拶位ニテ歸リシガ、右證據ヲ得タル日同方ヘ到リ、先ヅ以テ右書翰ヲ出シテ之レハ誰レガ書キマシタカト問ヒシニ、斯ノ如キコトハ隠ス様ナ人ニ非ザレバ、私ガ書イタト申サレタリ。依テ自分ハ怪シカラシ事デアアル、此書面ノミナラズ、王様ノ御親翰モアリ、之レハ「アナタ」ガ攝政中ナレバ「アナタ」ヨリ出シタモ同様ナリ、斯様ナ事アリテハ攻守同盟ノ條約ニモ背ク事ニテ、第一「アナタ」ハ支那黨ト云フコトナリシヲ、獨立ニ就テハ十分盡サル、ヤウ申サレタル事モアレバ、自分ガ本國ニ對シテモ保證ノ地位ニ立チタル譯ナリ。然ルニ斯ノ如ク支那ニ通ゼラル、事アリテハ 天皇陛下ヨリ下人民ニ對シテ、又ハ政府ニ對シテ自分ガ相濟マザル譯ナリ。此ノ所爲ハ日本ニ對スル公敵ナリト申シタルニ、大院君ハ暫ク目ヲ閉ヂ熟案シ、之レハ實ニ私ガ惡カツタ、明日晝マデ待チ吳レヨ、何トカ返事セント申サレタル故、其日ハ辭シ去リ、翌日又往キマシタルニ、如何ニモ惡カツタト云ハル、故、唯ダ惡カツタ而已ニテハ分ラズ、政事ハ責任ヲ以テ爲スモノナレバ、其間ニ起リシ事ノ責ニ任ゼネバナラン、故ニ自分ヨリ日本人ニ謝スルト云フコトハ到底出來ザルニ依リ、「アナタ」ガ井上ニ謝罪アルガヨカラシ、併シ井上ニ謝スルト云フモ唯ダ惡ルカツタト而已

ニテハ承諾モ致ス間敷キニ依リ、政治ヲ罷メラレ、總テ内閣大臣ニ取扱ハサレタシ、否ラザレバ如何ナル難題ヲ申シ來ルヤ知レマセヌト云ヒタルニ、如何ニモ其ノ事ニ致サント申サレマシタ。其ノ翌日大院君ハ公使館ニ到リ、井上ニ謝シテ爾後ハ攝政ヲ罷メル故、内政改革ノ事ハ惣テ御任セス、是レマデハ行掛リ上、彼レ是レ申シタルモ、爾後ハ一言モ申サズ、李載冕、李竣鎔ノ事ニ至ルマデ一切御世話ヲ頼ムト申サレ、井上モ快ク御請ケヲセラレタリ。然ルニ其翌々日頃、井上ハ自分ヲ招キ、金弘集來リ申スニ、大院君ハ矢張り何か云フ様子ナレバ、左様ナコト無之ヤウ取計ヒ吳レヨト申シ、自分ハ易キコトナリトテ直ニ雲峴宮ニ參リ、其事ヲ大院君ニ問フタルニ、最早政治ノ事ハ何トモ申サヌト答ヘラレシニ依リ、然ラバ明日各大臣ヲ當宮ニ招カレテ、面前ニ於テ其事ヲ申サル、ガ宜シカラント告ゲ置キ、翌日到リシニ内閣大臣皆雲峴宮ニ參リタリ。其際大院君ガ支那ニ通ジタル故政治ヲ罷メサスコト云フコトハ如何ニモ相明カシ難キ故、自分ニ於テ一ツノ書面ヲ作り、爾來政治ニハ關與セザル事トシ、各大臣モ亦自カラ責任ヲ以テ政治ヲ爲シ、井上ニ相談スルト云フ事ト爲リテ書面ヲ作りマシタ。此ノ二通ノ書面ハ昨日差押ナリシ革靴中ニアリマス。(手紙ノ袋ニ入レアル中自分ト穂積宣九郎連名ノ書面、並ニ甲午十月二十一日會坐談草ト記シタル書面ニ當リマス)處ガ其翌々日王妃陛下ニ於テ内閣ヘモ大



院君へモ相談ナク、法務協辦外數名ヲ任命相成リタルヨリ、井上大ニ怒リ、大院君ヲ罷サセバ又王妃ニ於テ斯様ナ事アリ、改革スルト云ツテモ他ヨリ人ヲ勝手ニ入レテハ出來ル譯ナシ。王妃ノ我儘ニハ甚ダ困マル、之レハ大院君ニ王宮内ノコト而已ハ取締ヲ爲シ貫ハネバナルマイト申ス故、自分ハ然ラバ其事ヲ云ヒマセウト云ヒタルモ、未ダ其事ノ談話ヲ爲サル前、王妃陛下ヨリ謝セラレ、爾後政治ノ事ハ惣テ内閣ノ責任ヲ以テ取扱フト云フ事ニテ、井上ノ示案セシ二十一ヶ條、即チ朝鮮ノ獨立ニ就テハ之レノスルト云フ事柄ヲ採用シ、終ニ大廟ニ誓告セラル、ト云フ事ニ相成リタリ。茲ニ於テ一段落就キタルニ付、自分ハ一先ヅ歸國セント存ジ、井上ニ斷リタルモ、何分此際去リテハ甚ダ困マル、兎ニ角遣ツテ吳レヨト云ハレ、自分ハ是レマデ困難ナコト而已引受ケ、甚ダ心勞シタル故眞ニ歸國ヲ望ミタル譯ナレドモ、自分居ラザレバ大院君トノ關係生ゼシ時處置ニ困マルト云フヨリ、又止マリテ世話ヲ致スコトニ相成リ、實際宮内ノ方ヲ受持チ吳レヨトノ事ニテ、五十萬圓アレバ出來ルカト申ス故、是レマデノ經驗上夫レニテ宜シカラント申シ、又軍務ヲモ引受ケ吳レヨト申ス故、夫レモ承知致シ、夫レニテ宮内兼軍部ノ顧問官ニ相成リタリ。就テハ宮内並ニ軍務等ニ關スル改革案等色々作リタレドモ、結局金ガナクテ實行出來ザル故、井上ニ其ノ事ヲ談ジタルニ、政府ニ掛合中ナリト申シ、

自分ハ伊藤ヤ陸奥ニ於テハ金ノ事ニ就テ「アナタ」程熱心ニアルマイ、故ニ之レハ杉村カ齋藤若クハ自分ヲ歸國セシメラレタシト云ヒシモ、何トカ考ヘ有之ヤウ云ヒ、其際ハ聞キ入レザリシモ、果シテ金ガ調ハザルヨリ、本年二月ニ至リ自分ヘ其ノ事ニ就テ歸國シ吳レルヤウ談ゼラレ、朝鮮ノ歲計豫算表ヲ作り、歸國致シマシタ。然カル處金ハ出來テ末松持參スルト云フコトニ爲リシ故、四月下旬又自分ハ京城ニ往キマシタ。是レヨリ先キ井上ハ兎角王妃ノ我儘ナルヲ案ジ、王妃ト大院君トヲ比較シテ、ドチラニ仕様カト考ヘシコトモアリ、其中朴泳孝内閣ニ入り、同人ニ王妃ヲ籠絡シテ都合宜ク遣ルヤウ云ヒ含メタル趣ナレドモ、朴ハ人ヲ籠絡スルト云フガ如キ人物ニ非ラザル故、終ニハ王妃陛下ニ使役セラル、ト云フヤウニ相成リ、王妃ノ氣ニ入ルヤウ爲サントセバ、王妃ノイヤナル人ヲ除カザルヲ得ズ。而シテ王妃陛下ノイヤナル人ハ、大院君、魚允中、金弘集等ニ有之故、朴ハ魚ヤ金ヲ除カント謀リ、井上ガ改革上ノ事ニ付日々各大臣ヲ八ヶ間敷叱リタル事アルヨリ、朴泳孝ハ其一味ノ除光範等ト王妃陛下ノ意ヲ受ケテ、井上ガ八ヶ間敷云フハ總辭職ヲ爲セト云フ下心デアル、大君主陛下モ御同意ナリト告ゲタル由ニテ、茲ニ内閣總辭職ト云フコト出來、大君主ヨリ井上ヲ召サレ、其事ノ御下問アリタリ。井上ハ素ヨリ左様ナ考ヘアリシニ非ザレバ、夫レハ以テノ外ニテ、此際總辭職等爲ス可キニ



非ラズト裁可ニナラザルコトヲ申上ゲタル由、後ニ至リ朴泳孝ガ左様ニ仕組ミ置キタル事ヲ他ノ大臣等モ知リテ辭職セザルコトニ相成リタルコトアリ。茲ニ於テ朴泳孝ハ王妃ノ機嫌ヲ取ルヤウ井上ガ云ヒ付ケナガラ、折角遣ラントスルコトヲ井上ガ邪魔ヲスル様ニテハ逆モ相談ハ出來ヌト終ニ井上ヲ排撃セントスルニ至リマシタ。其ノ爲メ朴ハ大君主陛下ヘ王權ヲ盛ニセラレ、一面井上ヲ壓ヘネバナラン、夫レニ就テハ谷干城、三浦梧樓ヲ顧問ニ聘セラル、ガ宜シカラント上奏シタルコトモ有之由ナリ。就テハ朴泳孝ハ王妃ニ就イタ露西亞ニ就イタと言フ説起リテ、國ヲ賣ル者ナリ、日本ノ交誼ヲ忘却セリナドト内外ノ日本人ニ攻撃セラル、ニ至レリ。自分ハ四月ニ着京セシガ、其頃宮内ノ事ハ井上公使自ラ遣リ、軍部ノ事ハ楠瀬中佐ガ引受け居リシ故、自分ハ顧問官ノ名稱ハアリシモ格別事務ニ從事致サズ、其中井上ハ歸朝スルト云フコトニナリシガ、其前方ヨリ朴泳孝ト益々相遠カリ居リタル故、井上ハ朴ト喧嘩ヲシテ去ルト云フハ面白カラズト考ヘ、出立前彼ヲ籠絡シ置カネバナラント云フコトニテ、一日朴ト徐光範ヲ招キ意見スル處アリシニ、朴ハ決シテ日本ノ恩義ヲ忘却セズ、又諸君ノ好意ハ忘レヌト申し、井上ヨリモ今ハ王妃ノ寵ヲ受け居レドモ、閔泳駿、閔泳翌等ガ歸國セバ忽チ疎外セラル、コト明カナルニ依リ、其覺悟アレト申し、朴ハ其ノ事モ考ヘ居レバ警察ト兵力トハ自分ガ收メ居

ルヤウ答ヘ、且ツ星、齋藤ノ顧問アレバ朴ニ遣ラスモ宜シカラント井上モ考ヘタル様子デアル。其時井上ハ自分ニ軍部ノ方楠瀬ニテハ出來ヌ事モアレバ、此後ハ君遣ツテ呉ヨト申し、自分ハ斯ク改革スルトテツ、キニツ、キテハ手ノ着ケヤウ無シ、故ニ最早斷ハル、「アナタ」ガ歸國ノ上公使ヲ罷メルコトナラバ電報ヲ下サイ、「アナタ」ノ爲メ自分ハ是レマデ來テ居ルナレバ、其時ハ直チニ辭職シテ歸ヘルト申シタレドモ、是非止マリテ星ヤ齋藤ト共ニ遣ツテ呉レヨト云ヒマシタ。出立ノ時自分仁川マデ見送リタルニ、同處ニテノ話ニ、王妃ト朴泳孝ハ早晚衝突スルナラン、其時ハ朴ヲ助ケテ遣レト申し、之レハ其前ヨリ朴ト王妃ノ間隔離スル事ト爲リ、井上ハ朴ノ爲ニ魚允中、金允植ノ兩人共辭職スルト云フヲ強ヒテ引止メ、王妃陛下跋扈ヲ防グ事ニ至ラシメル様ニ爲シ置キタル趣ニテ、朴ノ方ハ各兩人ノ大臣アリ、警察ト訓練隊ヲ有シ居リ、王妃ノ方ガ李允用、安駟壽其他數名ノ外侍衛隊アレバ、必ラズ此間ニ衝突ノ生ズルモノナラント思ヒシモノナルベク、井上ハドチラガ破レテモ差支ハナキヤウ双方ヘ取做シ置キタル趣キニテアリマス。自分ハ其時井上ニ向ヒ、朴ヲ助クル事ハ甚ダ六カシイ、彼レハ亡命ノ身ニテ今大臣ト爲リ居ルナレドモ、少シモ人望ナク、又日本人ノ歡心ヲモ失ヒ居レバ、彼ハ何ヲ爲スコトモ出來ズ、星、齋藤連モ兵隊ヲ壓ヘテ動ス程ノ人望アルニ非ラズ、自分トテ同様



ナレバ迂濶ナコトハ出来ヌ、必ラズ十七年ノ二ノ舞ヲ遣ルカモ知レヌト申シタリ。處ガ井上ハ是非遣ツテ吳レヨト申シ、自分ハ然ラバ自分ノ意見ヲ記載シテ差出シ、全部御同意ナレバ其時承諾スベク、夫レマデハ承諾セザルコトニ心得吳レヨト申シ別レマシタ。其日歸京シタルニ、齋藤ヨリ招キタル故直ニ行キシ處、佐々友房、柴四郎、仁尾維茂、星亨等集會シ居リテ、朴泳孝ノ爲ニ會議致セル模様アリ、同人等ハ速カニ朴ヲ總理大臣トシテ王妃ノ方ヲ片付ントノ考ヘアルモノト見エ、馬兵工兵ヲ設ケ、又地方制度ノ發布ヲモ爲サン、又訓練隊ヲ以テ侍衛隊ニ替ヘ、宮城ヲ護ラシムルコト、年度ノ豫算上ヨリ二三百萬圓日本ヨリ借入ノコト等協議シ、自分ニモ賛成ヲ求メタレドモ、自分ハ井上ニ約シタルコトモアレバ意見ヲ述ベザリシニ、其翌日地方制度等ハ直ニ發布致シマシタ。又訓練隊ヲ以テ侍衛隊ニ替ヘルコトハ已ニ大君主陛下ノ裁可モアリ、井上モ承諾ナレバ直ニ履行スルト云フ趣キニ承リシ故、自分ハ楠瀬ヲ招キ、昨年支那ト戰爭中ニテモ侍衛隊ヲ廢スルコトハ國王、王妃兩陛下共ニ色々故障モ有之タルコトナレバ、此際朴泳孝ガ夫レヲ替ヘントスルモ容易ニ非ラズ、必ラズ變亂ヲ生ズルニ相違ナイト申シタルニ、楠瀬ハ良キ事ト思フト云フ故、素ヨリ訓練隊ヲ以テ替ヘルハ良キ事ナレドモ、時機ヲ見計ハネバナラズ、朴泳孝ノ安危ニ關スル事ハ成ルベク謹ミテ此際彼ヲ危險ニ陥ラシメザル

ヤウ致サネバナラン、兎ニ角、井上ノ進退定マルマデ待ツガ宜カラント申シ勸メ、又其ノ事ハ星、齋藤ニモ公使館ニテ出會ヒテ述ベ置キマシタ。然レドモ自分ノ意見ハ貫徹セズ、内閣ハ決議シテ王室ニ申出デ、王室ニテハ聞キ入レナシト云フコトヨリ、茲ニ於テ訓練隊ヲ以テ王室ヲ圍マンコト云フ意見ヲ有シタルモノ警務副使ノ李圭完等アツテ、夫レヲ齋藤ニ述べ、齋藤ハ杉村書記官ニ守備兵ヲ借リタイト申シタルコトモアリ、杉村ハ夫レハ出來ント斷リタル由、且ツ同人ヨリ自分ヘ其ノ話アリ、自分モ杉村ト同意見ナルノミナラズ、迪モ朴泳孝ガ勝ツコトハ出來ズ、又十七年ノ轍ヲ履ミテ國威ヲ汚スコトナレバ關係スルコトハ出來ヌト申シタルコト有之、其ノ翌日カ朴ハ〇〇〇〇セントスル隱謀アリトノ事ヨリ俄カニ逮捕セラレントシテ公使館ヘ逃ゲ込ミタルナリ。之レハ素ヨリ王妃陛下ノ方ニ於テ構造ノ説ナレドモ、其實ハ前方日本ノ壯士等ニ於テモ彼レ是レ申シタルコト有之、〇〇ヲ除カネバナラント云フ協議モアリシコトヲ聞キマシタ。朴ガ公使館ニ逃ゲ込ミタル時、杉村ヨリ自分ニ報知セシ故、直チニ行キテ杉村ニ對シ、朴ガ罪アリト云フ事ハ明確ナラズ、故ニ「アナタ」ハ直チニ參内シテ其事ヲ申上ゲ、愈ヨ罪アル證據アラバ引渡スベク、罪ガナイモノナラバ飽クマデ其冤ヲ雪ギ遣ルガ宜シカラント申シタルニ、杉村ハ朴泳孝ハ弱イカラ夫レヨリ日本ニ逃ガシ遣ルガヨカラントノ事ニ付、



然ラバ夫レモ宜シカラシ、平素彼レ是レ云フモ兎ニ角十年間保護シタル譯アレバ、此際モ助ケルガヨロシカラシト二階ニ行キ朴ニ面會シタリ。然ルニ朴ハ王妃ハ露西亞ト通ジ居ラル、コトナレバ、迺モ此地ニテ助ケル事ハ六ヶ敷、何分日本ヘ逃ル、コトニ取扱ヒ吳レヨト頼ミマス故、承諾シテ其前、星、齋藤等ヲ呼ビタレドモ來ラズ、逃ストスルモ一應意見ヲ聞カネバナラシト存ジ、星ノ宅ヘ到リ途中出逢ヒマシタ。然ルニ同人モ異議ナイト申ス故、兵隊ヲ附ケテ龍山マデ送り遣シタルヨリ、同人ハ終ニ日本ヘ遁レマシタ。茲ニ於テ井上ガ再ビ俄カニ赴任スルコト爲リ、京城ニ着シタル上、此度ノ事ハ私ノ一己ニテ處分スル考ヘナリ、他ノ者ハ何トモ云フナトノ談ジアリ。又其時ノ事情等ヲ尋ネ、且ツ星ト岡本ハ今度ノ謀反ニ加ハリ居ルトノ電報アルガ如何ト問ヒマス故、決シテ左様ナコトハナイ、唯ダ何トカシテ朴ヲ助ケ遣ラシト存ジタルマデナリト答ヘタルコト有之、井上ハ自己ノ意見ノミニテ跡ノ處置ヲ爲スト云フモ甚ダ心配ナル故、翌日又面會シテ朝鮮ノ事ハ「アナタ」ノ云フ通りニ今デモ行ル、ケレドモ、「アナタ」ガ當地ヲ去レバ直ニ破レルト云フ様ニテハ困マル、切メテ四五年位ハ繼續スルヤウ考ヘ置キ吳レヨト申シ置キマシタ。其後井上ハ參内シタルニ王妃陛下ノ方モ都合ヨカリシト云フ噂アル故、直ニ井上ニ面會セシニ、如何ニモ都合宜シカリシトカ、自分ドモ夫レ而已案ジ居タルナレバ

安心シマシタ。就テハ自分ハ井上ニ向ヒ「アナタ」ノ歸ヘル事トナレバ其時カ又ハ其前ニ自分ヲ返シ吳レヨ、「アナタ」ノ不在中事起ルト皆難義ガ自分等ニ罹リ甚ダ困マルト相頼ミタレドモ、同人モ幾分カ淋シキ心セシカ、前ニハ辭職スルコトハ許シマセナシタ。此時ノ話ニ、内閣ニテモ協議シテ來タガ、朝鮮ヘハ壬申以來色々日本ヨリ損害モ掛ケ居リ、今後又攻守同盟ヲ爲シテ義州邊マデ兵ヲ駐メタル事モアリテ、損害ヲ掛ケ、獨立セシムルト云フモ其實ガ行ハレネバナラス。旁以テ三百萬圓ヲ賜與スル事ト爲リ、内五十萬圓ハ王室ニ賜ハリ、二百萬圓ニテ仁川、京城間ノ鐵道ヲ敷設シ、五十萬圓ニテ銀行ヲ立ツルト云フ様ナ方法トセリ。今度夫レヲ申シタルニ王室ニモ大ニ悦バレ、内閣大臣モ誠ニ悦ビタリ。之レニ依テ四五年ハ引續ク事出來ルナラシトノ話ニヨリ、自分モ夫レハ宜シキ事ナレドモ、已ニ遣ルト云フ御話ニナリシカト問ヒタレバ、左様ダト申ス故、夫レハ甚ダ困マル、政府ガ遣ルト云ツテモ議會ガ協賛セネバ迺モ行レヌコトニテ、夫レヲ今明言シ置キ、實際遣ルコト出來ザレバ日本ノ體面ヲ汚シ、跡デ來ル公使モ甚ダ困マルナラン、何ントカ取消シ置カレヨト注意シタレドモ、夫レモ出來ズ、金ハ必ラズ遣ル事ト爲ルナランナドト其時ハ申シ居ラレマシタ。夫レヨリ井上ハ再ビ歸國スルコト爲リ、自分同行ヲ求メタレドモ淋シク相成ル故今暫ク滯留セヨ、委細ハ三浦ニ克ク言ヒ聞ケ置



キタレバ、同人ヨリ承リ其上ニテ歸ヘルコトナレバ出立スルガ宜シカラント申シ吳レ相別レマシタ。以上ハ自分ガ朝鮮ニ於ケル略歴ニシテ之レヨリ此度ノ事件ニ及ビタル次第デアリマス。

問 然ラバ是ヨリ此度ノ事件ノ顛末ヲ詳細申立テヨ。

答 右ノ次第ニテ井上公使ハ再ビ歸朝スルコトト爲リ、九月ナレドモ日ヲ覺エズ、京城出發ニ付自分ハ龍山マデ見送り、其翌日公使館ニ至リテ三浦公使ニ面會シ、井上ヨリ何か申送り有之シヤト尋ネシニ、「アナタ」ハ軍務官ニ置クヤウニ云ヒ、又夫レニモ及バザルヤウ云フタレドモ、兎ニ角内外ノ事情ヨリ昨年来ノ始末ハ「アナタ」ガ熟知ノコトナレバ、軍務官ノ方ハ羅メテモ當地ニハ止マリ吳レヨト申シマシタ。依テ止ムヲ得ズ然ラバ非職ノ顧問官ト云フ心得ニテ止マリハ致サンガ、何時ニテモ隨意ニ歸國出來ルト云フコトハ許可ヲ得タイト申込ミ、其事ニテ止マルコトニ致シ、自分ハ歸國ノ上國會議員ニナラウトカ云フ希望モアリシガ、未ダ急ニ歸ヘル必要モナカリシ故、其儘彼ノ地ニ止マリ居リマシタ。其後三浦ニ面會セシ時、同人ヨリ實ニ朝鮮トイフモノハドウシタルモノカ、底拔ケ袋ニ物ヲ入レル様ナモノダトノ相談ニ付、自分ハ是レマデ井上ニ世話ニモ爲リ、同人ノ爲シ置キタルコトハ成ルベク維持シテ、破レバ修復セント思フナレドモ、此方カラ

手ヲ出スコトモ出來ヌト話シタルコト有之、三浦ガ底拔ケ袋云々ト云ヒシハ、露西亞ノ公使「ウエーバー」已ニ十年間王室ニ立チ入り親密ニ致シ、朴泳孝失敗後同人ノ周旋ニテ米人「セネンドル」ヲ顧問ニ入レ、又宮内ノ官吏タル李範臣、金光録、李學均ヲ始メ、李允用等モ露ノ公使館ニ出入シ、同國ヨリ俸給ヲ受ケ居ル者モアリ、就テハ井上ハ仁川ニ下リタル上、誰カニ傳言シテ露西亞ノ公使館ニ立チ入ル宮内官吏ニハ、露ニテ受取ル丈ケノ金ヲ遣リ籠絡スルガ宜シカラント申シ來リタレドモ、此方ヨリ金ヲ遣リ、又露ヨリモ受取り、双方ノ事情ヲ通ズルコトト爲リ、結局露ノ方因縁深キ故當方ノ爲ニハナラヌ。態々傳言ニ來リタレドモ行ヒ難シトノコト、又日本人ニテ王室ニ出入セシハ井上一人ナリ、星、齋藤ハ朴泳孝派トシテ王妃陛下忌マレ、自分ハ大院君ト懇意ナレバ同様ニテ誰モ宮内ニ入ルコトハ出來ザレバ、井上去リタル後ハ自然宮内ト日本公使館ハ疎隔スルコトト相成リ、夫レノミナラズ井上ガ王妃陛下ヲ取り込ミテ安心シタト云フ時ニ、却テ王室ヨリ露國皇帝ニ公使「ウエーバー」ノ「メキシコ」轉任ヲ罷メテ朝鮮ニ止マルコトヲ求メタルコトアリ、其ノ書類ハ昨日差押相成タル中、露公使謀計始末ト記シタル通リニテ、丁度其月日ハ井上ノ在留中ニ當ル。夫レ等ノ事ヨリ三浦公使ハ嘆ジテ底拔ケ袋ダト評シタルコトト存ズ。其日ハ自分モ困ツタモノデアルト云ツテ相別レマシタ。其後



又三浦ニ面會シマシタ、之レハ當十月一日頃ナラント存ズ。其時三浦ハ朴泳孝ガ今度又逃ゲ來リシ時、東京ニテ出逢ヒ、朝鮮ノ人物ハ如何ト問ヒタルニ、私ハ喧嘩ヲセシモ、先ヅ現今ノ人物ハ金弘集、金允植等ナラント云ツタ、當地ニ來リ杉村ニ尋ヌルモ亦同様ノ答ヘナルガ、君ハ如何思フカトノ尋ネニ付、自分モ先ヅ同様ノ事ニ思フト申シ、三浦ハ今ノ有様ニテハ實ニ仕方ナイ、困ツタモノダ、大院君ハドウデアラウトノ尋ネニ依リ、自分モ久敷嫌疑ヲ避ケテ大院君ニハ出逢ハズト答ヘタルニ、金弘集等ガ人物トスルモ、此際如何シタラヨカラウト君ハ思フカトノ事ニ付、自分ノ考ヘニテハ以前鳥尾ニモ談ジタルコトアリ、王妃ハ政治ニ關與セザルコトトシ、大廟ニ宣告セシ時ノ二十一條ノ様ニ遣レバヨカラウト思フガ、井上ハ已ニ王妃ハ賢明ニ在ラセラル、ト云フテ政治ニ關與ノ事ヲ認メテ居タルレバ、今更夫レヲ罷メルモ同人ニ對シテ宜敷アルマイ、ドウモ別段外ニ致シ方モナイ事ナルガ、自分ハ昨年大院君ヲ引キ出スコト、又ハ夫レヲ引キ込マスコト、朴泳孝ノ始末等ニ關係シテ實ニ困ツタ故ニ、最早此後ハドウゾ自分丈ケハ逃レタイト申シマシタ。又自分ハ朝鮮ノ政府ハ今ニ自然ニ崩ル、ナラン、夫レハ此頃頻リニ官ヲ賣リ、地方ニハ一揆ガ起ル、夫レニ金ハナク、兵ヲ出スコトモ出來ヌト云フ有様ナレバ、ドウシテモ崩レル譯ナリ、故ニ其時ハ又自分ニ出テ盡ス考ヘアレドモ、此際ハドウ

モ何モ遣ルコトハ出來マイト申シテ其日ハ相別レマシタ。其前領事官補ノ堀口ハ「黃ケンテツ」ト共ニ大院君ノ邸ヲ訪ヒ面會シタル由、其時大院君ハ不平ノ體ニテ、日本ハ朝鮮ヲ獨立セシムルト色々心配スレドモ、大島モ井上モ皆出來ナイ、サウスルト日本人ヨリハ朝鮮人ガエライノデアラウ扱ト不平ヲ述べ、併シ今度ノ三浦ハ親切ニ爲シ呉ルル趣キニテ、過日參内セシ際李範臣ニ大院君ヲモ訪問スルト申シ呉レタル由、私ノ事モ心ニ掛ケ呉レルナラント語り、三浦ニ逢ヒタキモノナリト同人ニ其ノ事ヲ述べ呉レヨト云フガ如キ口氣アリシ趣ニテ、堀口ガ其事實ヲ三浦ニ語りタル趣、依テ三浦ヨリ自分ヲ招キ、一日カ三日カノ頃自分公使館ニ到リ三浦ニ面會シタルニ、同人ヨリ堀口ガ大院君ニ面會ノ始末ヲ語り、其際杉村書記官ガ來リ書面ヲ出シテ、此事ハ大院君ガ承諾スルデアラウカト自分ニ相談アリ。其書面ニハ昨年大廟ニ警告セシ通り、王妃、大院君トモ政治ニ關與セザルコト、金弘集、金允植、金允中等ヲ内閣大臣ト爲スコト、李竣鎔ヲ三ヶ年間日本ニ留學セシムルコト、李載冕ヲ宮内大臣ニ、金宗漢ヲ同協辦ニ任用スルコトノ四ヶ條記載アリマシタ。依テ自分ハ此頃大院君、非常ニ窮シテ居ル、巡查ヲ以テ護衛セラレ、實ニ危険ノ旦夕ニ迫リ居ルト云フ程デアレバ、承諾セヌコトモアルマイ、彼ノ人ハ窮スルト人ヲ頼ムガ、又得意ノ時ハ夫レヲ破ル癖アレバナリ。併シ今之レヲ同人ニ承諾セシ



メテ如何スルナリヤト問ヒタルニ、三浦ハ此儘ニ捨置ケバ如何ナル有様ニ及ブヤモ知レヌ、依テ萬一ノ時大院君ヲ出シテ改革セシムルト云フ場合ノ準備ナリ、承諾ヲ受ケ置ケバ安心ダト申シ、私ガ往ク譯ニモ行カズ、堀口ヲ遣ルモ面白カラザレバ、宜敷其事ヲ談ジテ突キ止メ置キ吳レヨト頼マレ、自分ハ此時已ニ歸國ノコトニ致シ居リタル故、然ラバ出立ノ暇乞ノ爲メ往キテ其際談ジ、書面ヲ取リテ御回シ致サント申シ、其日ハ歸宅シ、十月五日孔德里ノ邸ニ自分訪問シ、先ヅ久濶ノ挨拶ヲ述ベタル上、今日ハ少シク要談アリテ參リマシタ、之レハ自分ノ申シ上グルコトニ非ラズ、三浦公使ヨリ御相談致ス譯ナルガ、此事ハ如何アルベキヤト右ノ四ヶ條ヲ記シタル書面ヲ相示シタル處、之レハ至極御同意ナレドモ、私モ最早老年ニシテ連モ根氣續カズ、故ニ此儘死スルモ時デアルト諦メ居リマストノ返事ナリシモ、其際李載冕、李竣鎔モ同席シ居リテ、其ノ四ヶ條ニ賛成シ、大院君ニ之ヲ遣ルガ宜シイト頻リニ勸メマスヨリ、終ニ然ラバ遣ルト云フコトニ承諾アリシヲ以テ、其承諾書ニ自筆ニテ認メ貫ヒマシタ。其書面ハ三浦ニ渡シ置キタル故、現存致スナラン。其時自分ハ大院君ニ向ヒ此事ハ何日ニ遣ルト云フ未ダ豫定ハ無之、近頃頻リニ暴徒發起スル様ナレバ、何時其時機來ルヤ知レザレドモ、之レハ三浦ガ遠大ノ考ヘヨリ豫テ御相談シ置クコトナレバ、決シテ洩泄セザルヤウ御慎ミアリテ然ルベク、

尤モ「アナタ」ガ御勸メニナルト云フモ、王命ニ依ラザレバ出來ザルコトニ付、豫ジメ内頼ノ書面ハ受取ラル、ヤウ盡力相成リ置クガ宜シカラント申シマシタ。大院君ハ其頃孔德里ニ隱退中ナレドモ、宮内ノ中ニ素ヨリ其人ノ信ズル者モアレバ、無論勅旨ヲ得ルコトハ出來ル事ト自分モ信ジタレバナリ。其日ハ右要談終リテ後自分モ一度歸國致ス考ヘナレバ、今日ハ御暇乞ヲ申スト述ベタルニ、「アナタ」ガ歸國ナリテハ困マルトノコトニ付、事變ハ何時起ルヤ知レズトスルモ、未ダ至急ニ起ルヤウナコトモアリマスマイ、故ニ一先ヅ歸國致ス積リ、依テ此ノ御相談ハ三浦ヘノ土産、又「アナタ」ヘノ土産ト云フ心持ニテ今日ハ出マシタト云ヒタルニ、夫レハ残念ダガ、若シ事變アラバ必ラズ來テ吳レヨ、「アナタ」ノ外、相談スル人ハナイト云ハレ、其日ハ相別レマシタ。其夜直ニ公使館ニ到リ右書面ヲ三浦ニ渡シ、御望ミノ通り相談ヲ遂ゲテ受取リ歸リタリ。併シ之レハ萬一ノ豫備ニテ、折角井上ノ爲シ置キタルコトハ崩サンガ宜敷、併シ閔族ガ日本ニ背キ露西亞ニ據ル時ハ最早外ニ手段ガナイ、其時ノ準備ニナサレタシ。之レ自分ノ土産ナリト申シ、其夜暇乞ヲ爲シ、翌六日朝仁川ヘ向ケ出發致シタルナリ。尤モ出立前三浦ヨリ「アナタ」ガ歸リテハ甚ダ困マルガ、止ムヲ得ザル事ナレバ此後電報ヲ遣レバ何處ノ地ニ在テモ直ニ來リ吳レヨ、其事ハ杉村ニ打合セ置キ吳レタシトノ事ニテ、自分モ承諾



致シタル爲メ、杉村ガ昨日申立テタル通り仁川へ向ケ電報ヲ差越シタルニテ、其ノ始末ハ昨日陳述ノ通り違ヒ無之。

問 電報ノ文意モ昨日申立テノ通りナリシヤ。  
答 相違無之。

問 然ラバ杉村ノ電報ニテハ唯ダ京城ニ歸レトノコト而已ニテ、其夜事變ノアルコトハ分ラズ、故ニ直ニ孔德里ニ向ヒタルニハ非ザルベシ。

答 然リ、電報ノミニテハ何事トモ分ラザリシモ、龍山ノ渡船場ニ於テ龍山出張所詰ノ巡查ヨリ堀口領事官補ガ來リ居ラレ、面會致シ度トノコトナリト通ジタルヲ以テ堀口ニ面會セシニ、訓練隊ヲ解散スルト云フコトモアリ、時機切迫ナレバ今夜直ニ孔德里ニ到リ、大院君ヲ立タシメ吳レヨト三浦ノ傳言ニテ、至急ナレバ時機切迫ノ理由等ハ今ヤ述ベラレズ、總テハ手筈ハナシテアレバ急ニ出向テ吳レヨトノコトデアリシヲ以テ、直ニ孔德里ニ到リマシタ。同方へ往キタル後ノ始末ハ前回申立テタル通りデアリマス。

問 龍山ニハ他ニ數名ノ人集合シ居リシ由、其者等ニモ面會セシナラズヤ。

答 自分ハ先ヅ藤井ト申ス日本人ノ家ニ堀口ノ居ル場所ニ到リ面會セシナレドモ、木屋ト申ス日本人ノ家ニ多人數來リ居リタル者アリ、ガヤ／＼ト致スハ見受ケタレドモ面會セシ

ハ堀口一人ノミナリ。彼等ハ已ニ手筈ヲ申合セ參リ居タル様子ニテ、自分ニ別段相談ヲ要セザルナルベク、自分モ自己ノ用向ハ告ゲル必要ナキニ依リ、疲レテモ居リ、旁駕籠ニ乗り直ニ出發セシニ依レバナリ。尤モ警部萩原ハ來リ居タリト存ズ。警部、巡查モ素ヨリ官服ヲ着シ居ルニ非ラズ、洋服ノ上ニ單衣ヲ被ブリ、朝鮮帽ヲ着ケ居ルモアリ、日本服又ハ洋服或ハ朝鮮服等勝手ニ着シタルモノト見え、所謂百鬼夜行ノ姿ニテ、鳥渡見タ處ニテハ誰デアルヤ分ラズ、故ニ自分モ誰トモ談話セザリシナリ。夫レニ自分ハ昨年大院君引出シノ時、四名ノ壯士ヲ引連レ行キ非常ニ困リタルコト有之、故ニ壯士體ノ者モ居ルノデ、之レハ困ツタコトデアルト存ジ、旁彼等ニハ言葉ヲ交ヘマセナンド。其多人數中ニハ朝鮮人モ居リテ、之レハ朴泳孝派ノ人ト思ヒシモ、其者ニモ面會セザレバ誰ナリシカ分リマセナンド。

問 孔德里ニテ邸内ニ入リシ始末如何。

答 之レハ前回申立ノ通り、已ニ自分往キシ時ハ門ハ明イテ居タル故、誰ガ明ケシカモ分リマセン。

問 入邸後ノ始末ヲ聞カン。

答 直ニ大院君ニ面會シテ過日ノ事ニ就テ來リタルガ、已ニ御承知ナルカト問ヒタルニ、昵



近ノ者ヨリ三浦ノ傳言トシテ今晚ノ事トナルト聞キハシタトノ事ニ付、然ラバ別段ニ申上ゲザルガ、速カニ御立チナサイト申シ、其時便處ニ到ルト云ツテ立チ、跡ニテ自分ヲ招カレシ故行キシニ、懷ヨリ勅書ヲ出シ、コチラノ方モ斯様ニ都合ヨイト云ヒ示サレタルナリ。

問 何時頃ナリシカ。

答 入邸シテ談話セシハ八日午前二時半頃ヨリ三時半頃マデノ間デアリマス。

問 右談話ノ際他ニ人アリシカ。

答 李峻鎔ガ居リ、外ニ氏名覺エザル朝鮮人四五名出入致シ居リタリ。

問 柳赫魯、鄭蘭敦等モ居リタル由ナラズヤ。

答 居リシト存ズ。兩人ハ朴派ノ者デアリマス。

問 日本人モ其場ニ立合セシカ。

答 日本人ハ來リシ者ナシ。

問 其際同邸ニ集リシ日本人ハ幾人位ナリシカ。

答 同邸ニ集マリシハ日本人ト朝鮮人ニテ三十人位ニテ在リシカト存ジマス。自分ハ其前夜モ熟眠セザリシ事ニテ、ウト／＼致シ居タル故、自分ノ主タル用向ノ外ハ格別意ニ留メ

置カザリシ故ナリ。

問 孔德里ニ集マリシ人数中主タル數名ノ者トハ面談打合セ等モ爲シタルナラン。

答 堀口ニハ面會シタレドモ、他ノ者ニハ別ニ打合セ等致サズ。三浦ハ軍人ノコトナレバ戰ヒノ方法ニ依リ夫々準備モセシナルベク、自分ハ大院君ヲ立タシムルコトノミヲ引受タルナレバ、他人ノ受持ニ付キ相談スルコトモナク、別段誰トモ談話セザリシナリ。

問 出發ノ模様ハ如何。

答 自分ガ御立チナサイト勸メタル時、夫レデハ往カウト云ハレ、輿ニ乗ラレ、自分ハ駕籠ニ乗リテ其跡ニ附キ、龍山街道へ向ツテ出發シ、其前後左右ヲ多人數護衛シテ行ツタノデアリマス。夫レヨリ西門外ニテ訓練隊第二大隊來ルニ會シ、國太公ハ輿ヲ下リテ士官ヲ呼ビ、之レヨリ入闕スルニヨリ附キ來タル可ク、不都合ノ者ガアレバ打攘へヨト申サレ、士官ハ何か申上グルコトアリト云ヒシモ、夫レハ跡ニテ云へト云フ様ナコトニテ、夫レヨリ同處ヲ五時二十分ニ發シ、光化門ニ到リ、其門ヲ入ラントスル時侍衛隊ヨリ發砲シ、輿ノ邊ニ銃丸飛ビ來リタルモ直ニ門へ入リシ故跡ニテ戰ヒト爲リマシタ。

問 其際我が軍隊モ立チ向ヒタル由ナラズヤ。

答 立合ヒマシタ。



問 其模様ハ如何。

答 鳥渡圖ニ書イテ申立マス（此時野紙ヲ與ヘ筆記セシム）。（圖略）初メ大院君ノ與ノ前後ヲ訓練隊護リ居リ、光化門ヲ前驅ノ兵ガ入ラントスル時、門内ノ侍衛隊ヨリ發砲シ、與ガ門ヲ入ラントスル時門ニ向ツテ左方ヨリ洪啓薰ノ率キシ兵ヨリ與ニ向ヒ發砲シ、與ハズツト入りシガ、後備ノ訓練隊ハ夫レガ爲メ少シク崩レテ退却ヲ始メント門ニ向ヒ、右方ニ我ガ守備隊ノ營所アリテ同處ヨリ洪啓薰ノ率ユル軍ヘ發砲致シ、夫レガ爲メ退却ヲ始メシ訓練隊ハ又前進シテ門内ニ其實逃入シタル譯デアリマス。自分ハ少シク大院君ニ後レ居リテ、此時ノ模様ハ立止マリ克ク見マシタ故ニ、前ノ方ノ事ハ能ク存ゼズ。凡十分間モ後レテ入城シ、直ニ大院君ノ居ラル、外殿ニ到リシナリ。

問 我ガ守備隊トハ如何ナル交渉爲リ居リシ乎。

答 自分ハ其事ヲ存ゼズ。已ニ交渉アリテ出掛ケタルモノカ、又ハ其場ニ居リシ番兵ダケ撃チタルモノカ、克ク分ラズ。

問 軍隊トノ交渉調ハザル爲メ、大院君ノ出立遅クナリシト申セシ者有之由、其事ハ如何。

答 左様ナコト無之、自分前申立ノ通り二時半頃ニハ已ニ出タルコトナレバ、別段手間取リタルコトハ無之。

問 孔德里ヨリ堀口、萩原等ガ騎馬軍隊ヘ交渉ニ行キシトノ聞エアリ如何。

答 堀口ガ騎馬デ居リシコトハ見受ケタレドモ、軍隊ニ交渉ニ行キシコトハ知ラズ。

問 我兵ハ凡ソ何程位出向ヒタル様ナリヤ。

答 我ガ守備隊モ出タリトノ事ハ跡ニテ承リシモ、何處ニ如何程如何ニシテ居リシヤハ知ラズ。

問 洪ノ率ユル軍ヲ撃チシ我兵ノ數ハ如何。

答 其時見受ケタルハ四五人デアリマシタ。

問 洪ガ斃レタル模様如何。

答 圖面ノ朱點ノ邊ニテ右ノ胸部ト思フ邊ニ銃丸ヲ受ケ倒レ居ルヲ見テ洪デアルト認メマシタ。

問 洪ハ短銃ニテ撃レタリトノ事ナリ、如何。

答 自分其場ニ行キシ時ハ洪ハ已ニ倒レ居リシナレバ如何ナル丸ナリシカ分カラズ。

問 刀劍ノ疵ヲモ受ケ居リシカ。

答 夫レハ見受ケズ。

問 安駟壽ガ其場ニ居ルモ見受ケタリヤ。







問 併シ其ノ○○○○○○○○○○、何カ協議ニ關與セシナラン。

答 後ニ話ハ承リタレドモ精シキコトハ存ゼズ。

問 初メ此企ヲ爲シタルハ王宮内ノ權勢有之者ヲ倒サントノ計畫アリ、終ニ多衆ノ人侵入シタルナリトノ起訴相來リ居ルガ如何。

答 決シテ左様ナ事ナシ、自分ハ前ニモ申立シ通り、改革ニ際シ○○○○○○○至極不同意ナレバ、左様ナ協議ナレバ應ズル事ナシ、前ニモ大院君ノ殺戮セント云フコトヲ止メタルコト有之程ナレバナリ。

問 供シ洪啓薰ノ死シタルハ抵抗セシニ因ルトモ云ハレ、宮内大臣モ男兒ナレバ何カ往キ掛リ上防禦スルト云フヤウナ事ヨリ其事ニ至リシヤモ知レサレドモ、○○○○○○○○○○○、豫メ申シ合セナクテハ出來ザルコトナラン。○○○○○○○○○○○答ナケレバナリ。

答 左様ナ道理ニ當リマスガ、自分ハ決シテ人ヲ殺スト云フ相談ヲ受ケタルコト無之、唯ダ政治ノ改革ヲ爲スト云フ一議ニハミ同意シ、三浦公使ノ取次ヲ致シタルナリ。

問 其ノ政治ノ改革ヲ爲スニ就テハ是非トモ○○○○○○○○○○○將來ノ爲メ宜シカラズトノ相談受ケシコトアルナラズヤ。

答 左様ナ事アリマセン。高ガ○○○○○○○○○○○如何様ニモ致シ方ハアルニテ、夫レ

ヲ○○○○○○○○○○○自分ノ思ヒ及バザル處デアリマス。朴泳孝ヤ金玉均等ハ反對ノ者ヲ殺ストイフ考ヲ常ニ持チ居リシモノナレドモ、自分ハ斯様ニ双方ガ殺戮ノ主義ニテハ、終ニハ父子相害スルニ至ルモノト存ズル故、獨立ヲ爲スニハ教ヲ以テ本ト爲シ、決シテ人ヲ殺スガ如キコトハ罷メネバ出來ナイト存ジ居レバ、前ニモ大院君ニ閔泳駿ヲ殺スコトヲ止メタル譯デアリマス。

問 初メ三浦、杉村等ト協議ノ時、若クハ其前後ニテモ柴四郎、田中賢造等ガ關與セシコトナキカ。

答 自分が出立後ノ事ハ存ゼザリシモ、夫レマデニ田中、柴等ガ關係シタルコトナシ。又承知セズ。

問 田中ハ仁川ニ於テ或者へ其日ノ計畫ヲ話シタリトノ聞エアリ、故ニ關係シ居ルナラント思ハル、如何。

答 同人ハ誰ヨリ聞キシカ知ラザレドモ、始メ大院君ヲ呼ビ起スト云フコトハ三浦、杉村、自分三人ノ外ハ決シテ知ラザリシコト存ズ。

問 三浦ハ公使トシテ赴任ノ際ヨリ已ニ斯ノ如キ手段ノ計畫アリシヤモ知レズ、然ル時ハ柴、岡本柳之助訊問調書



田中ノ如キハ前方ヨリ此ノ事アルヲ知り居リシニ非ラズヤ。  
答 其ノ事ハドウアリシヤ存ゼズ。自分ガ相談受ケシハ前時來申立シ通りナリ。

問 淺山謙藏ハ如何シテ外殿ノ處ニ到リ居リシ様子ナリヤ。

答 如何ナル順序ニテ來リシカ知ラザレドモ、同人ハ朴泳孝黨ノ者ナレバ其ノ黨ノ者ト共ニ來リシモノト存ズ。

問 昨日押收シタル書類中今度ノ事變ニ關セシ事ヲ記セル書面數通アリ、一々辯解セヨ（示ス）。

答 露國公使謀計始末ト題スル書面ハ、前ニモ陳述セシ通り井上ノ在任中、中宮陛下露公使ノ「ウエーバー」轉任ヲ止メラレタル書類ノ寫シニテ、其前書ハ自分記シタルナレドモ「ウエーバー」ト中宮陛下ガ共謀シ、日本黨ノ重臣ヲ殺戮セント計畫シタルコトハ慥カナル證據アルコトニテ、其證據ハ朝鮮政府現ニ握リ居ル故、警務使等ハ證據ニ依リ取調爲サント主張セシモ、自分ハ此際見合ス方宜シカラント止メ置キタルコトデアリマス。安軍務大臣ノ報告ハ同人ガ遭遇シタル事ニ就テノ手續書ヲ内閣ガ出サシメタリト云フ様ナモノニテ、大院君入闕始末ト記スルモノハ自分ヘモ書面ヲ出シ吳レヨト申ス故認メ出シタルモノ、今一通ノ總テ今回ノ事變云々ト記シアル書面ハ朝鮮政府ニ於テ今度ノ處分ヲ爲シタル簡條書ナリ。即チ其後者ハ書面ニ明瞭デアリマス。通洪ガ死シタルハ大院君ノ入闕ヲ拒ミ、即チ王命ニ抗シタル爲メ死シタルハ命ナリ、李ガ死シタルハ所謂君側ノ姦ヲ除キタルナリ、日本人ハ大院君ニ隨從シテ入闕セシナレドモ、立入ル可カラザル處ニ入リシナレバ、治安ニ妨害アリト認ムト云フガ如キニテ、夫レガ爲メ自分等モ終ニ退韓處分ヲ受クルニ至リタノデアリマス。

問 是等ノ書面ハ皆數通アリテ即寫版ニテ印刷セシモノノ如シ、何ノ用ニ供セシナリヤ。

答 内閣大臣等ガ見ル爲メ一通ニテハ不便ナリトノコトヨリ印刷致シタリ。

問 併シ之レハ日本文ナレバ翻譯書ナル可ク、内閣大臣ノ見タルモノトハ思ハレズ。

答 内閣ノ顧問官石塚ト自分相談ノ上起草致シタルニテ、日本文ニテモ大臣等ガ讀ム譯ナリ。

右讀ミ聞カセタル處相違ナキ旨供述セリ。

被告人 岡本柳之助

本人實印不處持ニ付拇印セシム。

明治二十八年十月二十六日



於廣島地方裁判所

豫審判事 吉岡美秀  
裁判所書記 田村義治

### 佐々正之訊問調書

- 問 其方ノ氏名ハ。  
答 佐々正之。  
問 年齢、身分、職業ハ。  
答 三十三歳一月生、士族、賣藥業。  
問 住所ハ。  
答 熊本縣託摩郡砂取町四百十番地。  
問 原籍及ビ出生地ハ。  
答 同上。  
問 是レマデ刑事ノ處分ヲ受ケタルコトナキヤ。  
答 無之。



問 其方ハ勳章、年金、位記、貴號、恩給等ヲ有スルモノニハアラザルカ。

答 否。

判事ハ謀殺及ビ兇徒聚衆被告事件ノ取調ヲ爲ス旨ヲ告ゲタリ。

問 朝鮮ニハ何時行キタリヤ。

答 始メ十五年五月中渡邊述ニ隨行シテ渡韓シ、十八年ノ變動ノ際ニ井上前文部大臣ト共ニ歸朝シ、一昨年實兄ト再ビ渡韓シタル處、商業上感ズル處アリ一應歸朝シ、昨年ノ戰爭ノ際渡リ今日マデ居マシタ。

問 本月八日ノ京城ノ騷擾ニハ其方モ加ハリタルヤ。

答 左様。

問 如何ナル譯ニテ加ハリタルヤ。

答 本月七日午後六時頃漢口漁業ノ監督ヲ終ヘ歸リ居タル處、韓城新報社ヨリ直ニ來レト申シ來リタル故參リタル處、社主安達謙藏ガ申スニハ、朝鮮政府ハ日本兵ガ仕込ミタル訓練隊ノ兵器ヲ取上ゲ、是レヨリ日本人ヲバ擯斥ストノコトニテ、既ニ國王陛下ヨリ大院君ニ敕諭アリ、大院君ハ其處置ヲ相當ナラズトシ諫言センタメ明朝臺闕ニ登城相成ルトノコトナルガ、大院君ノ入城ニ付途中護衛方ヲ其筋、即チ三浦全權公使ヨリ御沙汰アリ

タリトノコトニテ、私ハ他ニ少々他ノ意見モアリマシタガ、何分唐突ノ際ノコト故、先ヅ護衛ノコトニ決心イタシマシタ。尙ホ申上ゲマスガ、護衛ノコトハ其筋ハ内諭ト聞キタル故、全ク日本政府ノ方針ト考ヘマシタ。元來此事ハ德義上又ハ國家ノ爲メ深ク秘シ置ク考ヘデアリマシタガ、三浦公使モ〇〇ニナリタル今日ニ至リテハ更ニ包藏ナク一伍一什是レヨリ詳細ニ申上グル考ヘデアリマス。

問 護衛ノ決心ヲ致シテヨリ如何シタルヤ。

答 一應私方ニ歸リ、夫レヨリ新聞社員其他ノ者ト同道龍山ニ向ヒタル處、其際午後十時頃ナリシカ、同所ニハ堀口副領事、萩原五郎、岡本柳之助、日本ノ平服巡查(〇〇〇)ヲ持居タルヤニ考フ)五六人、其他熊本人ハ勿論此一行ノ人ニ惣テ會合致シ居リ(國友重章日本兵隊、公使館員等ハ居ラズ)タルヨリ、一日孔德里ニ向フ途中或ル橋ノ處ニテ大院君ヨリ差向ヒタル迎ヒノ者(之レハ朝鮮人ニシテ、就中日本服ヲ着シタルモノアリ)十四五人モ來リタリ。大院君ノ別邸ニ至リタレバ、堀口、萩原、岡本ノ三名ハ大院君ノ室内ニ入り、其他ハ門ノ内外ニテ待チ居リタルニ、聽テ大院君ノ出門アリ、各自護衛シテ臺闕ニ向ヒ、途中中西大門マデ行キタルニ、訓練隊ハ二列ニナリ待チ居リタルモ、日本兵ハ居ラズ。此際傳令使アリテ日本兵ハ道ヲ取違ヘタルカ今ニ來ラズ(訓練隊ノミニテ



ハ事ガ爲セヌト思ヒマシタ) 暫時待チ居レトノコトニテ、三十分間モ待チ居リタレバ、日本兵ガ來リ(豫テ打合セアリタルナラン) 是レヨリ駈足ノ令下リ、臺闕ニ近キ門マデ進ミタルニ、日本兵ヲ引キ居ル第二大隊訓練隊ト王城ニ居ル第一大隊トガ打合ヲ始メマシタガ、私ハ以前足ヲ痛メタルコトアルヨリ、駈足ノ號令アリテヨリ少シ後レ、打合ノアリタル處マデハ十五六間モ後レテ居マシタ。其打合モ暫時ニシテ止ミタルヨリ、日本兵ニ加ハリ、ズツト入り込ミマシタ。

問 夫レヨリ如何。

答 最後ノ門ヨリ第四番目ノ門マデ行キタル處ニテ國友ニ出合ヒタルニ、國友ハ今打合シタル處ナレバ減多ニ進ムハアブナシト申シタルヨリ、暫時止マリ居リタル處へ、三浦公使ノ參内アリタルヲ以テ、公使ニ從ヒ禁闕ノ門外マデ進入シマシタ、其處ニテ何時マデモブラ／＼致シ居リテハナラス、早ク引取レトノ諭シアリ、一同出カケタルニ○○○○○○○○○○アリ(誰ヨリカハ分ラズ) 折節巡查ガ○○○○○○○○○○、私ハ一人ニテ歸リマシタ。○○○○○○○○○○。此事ヲ起スニ當リ協議ヲ致シタルナラン。

答 私ハ最前申上ゲタル通り、突然加ハリシコト故協議ニハ加ハリマセン。

問 然ラバ本件ノ主謀者ハ何人ニシテ如何ナルコトヨリ此事ガ成立チタルカノ始末ハ後ニ聞キタルナラン。

答 何モ包藏致シマセヌガ、其ノ事ハ聞キマセン。

問 龍山ニテ會シタルトキニハ副領事、警部等ノ間ニ何カ協議アリタルナラン。

答 入門ノ時刻等ニ付議論ガアリマシタ。

問 何カ申立アリヤ。

答 アリマス。一言申上度コトハ私方ニ寄留ノ姿ニナリ居ル韓城新報記者平山岩彦ト、同社方ニ寄留イタシ居リタル佐藤敬太ハ此事變ノ翌日ニ私方へ寄留イタシタルモノニテ、其譯ハ新聞社内ニ居リタルモノガ退韓サレタトアリテハ、世間ノ評言ニ關シ新聞ノ名譽ニ係ルコト故、新聞社ノ寄留ヲ解クタメニ一時私方ニ寄留ヲ托サレタモノデアリマス。右ノ事ハ右二名ノ外ニ兼テ私方ニ寄留イタシ居ル片野猛雄ナルモノアリテ、其ノ三名ノ者ハ寄留ノ姿ニナリ居ルニ付テハ、今回ノ事變ニ私ガ連レ行キタルモノニハアラザルヤノ御疑ヒナキニシモアラザルベシト考ヘマスガ、夫レニテハ私ノ不利益ヲ招クコトデアリマスカラ一應申上ゲマス。



右讀ミ聞セタル處相違ナキ旨供述セリ。

被告人 佐々正之

本人實印不處持ニ付拇印セシム。

明治二十八年十月二十六日

於廣島地方裁判所

豫審判事 谷山國信

裁判所書記 大多尙文

### 國友重章訊問調書

問 前回其方ハ十月八日ノ變亂ニ加ハリシハ大院君ヨリ書翰到來ニテ護衛ヲ頼マレタルヤウ云ヒシガ、之レハ間違ナラン。

答 前回ハ累ヲ他人ニ及サンカト恐レ實際ヲ申立テザリシガ、今日ハ已ニ其心配ニモ及バザルヤウ存ズルニ付申立マス。實ハ大院君ヨリ直接ノ依頼ニ非ラズ、〇〇〇〇ノ取次デアリマシタ。

問 三浦ヨリハ如何ナル談示ヲ受ケシカ。

答 七日ノ午後二時頃公使館ヨリ呼ビニ來リ、同三時頃參リタルニ、〇〇〇〇ヨリ愈ヨ事切迫シ、大院君ガ入闕改革ヲ爲ス筈ナレバ、親密ナル者ヲ連レ護衛ヲナシテハ如何、併シツマラン者多人數ハ連レザルガヨイト申サレタリ。依テ自分モ良キ事ト考ヘシヨリ、前回陳述セシ人々へ通知シテ共ニ行キタルノデアリマス。



問 其ノ前方モ三浦又ハ其他ノ人ヨリ改革ノ事ニ付話シアリタリヤ。

答 相談ヲ受ケシ事ハ無之、尤モ朝鮮ノ形勢ニ於テ是非改革セネバナラント云フ時機ニ迫リシ事ハ、ボツ／＼聞イテ居リマシタ。

問 夫レハ如何ナル事カ。

答 先ヅ手近ナ事ヲ申セバ、昨年來日本ガ非常ニ盡力シテ改革セシメタル事柄モ悉ク水泡ニ歸シ、王宮内ノ權力非常ニ強ク、夫レガ爲メ或ル強大ナル隣國ノ助ケニヨリテ日本黨ノ大臣ハ皆殺害シ、日本兵ノ教練ヲ受ケシ訓練隊ヲ解散シ、終ニハ強大國ノ兵ヲ入レテ保護國ト爲スト云フ計畫有之等ニテ、日ナラズ争亂ノ起ルニ違ヒナイト云フ事デアリマシタ。

問 右等ノ場合ナルヨリ先ンジテ王宮内ノ權勢アル者ヲ殛サントノ相談ヲ致セシ事アルナラシ。

答 別段其ノ事ニ就キ相談受ケシコトハ無之、併シ朝鮮ノ形勢ニ於テ大院君ガ出テ改革スルト云ヘバ、或ル一方ノ權勢者ヲ壓スルト云フ事ハ不言ノ間ニ何人モ了得シ居ル事ニテ、其ノ事アルハ當然デアリマス。

問 被告ガ〇〇ヨリ其相談ヲ受シ時他ニ同席者在リタル乎。

答 誰レモ居リマセナシ。

問 〇〇ヨリ斯ノ如キ相談ヲ受ケタルハ其方一人ノミニテハアラザルナラン。

答 然リ、自分モ左様存ジマス。

問 然ラバ他ニ相談受ケシハ誰ト思フカ。

答 克クハ存ゼザレドモ安達謙藏モ相談受ケシナラン。其他ハ承知セズ。

問 其方ヨリ通知シタルハ誰々ナリヤ。

答 前回申立タル五人ノ外、佐々、松村、菊地、廣田ニモ自分ヨリ通知セリ。其他尙ホ失念シ居ル者アルヤモ計リ難シ。

問 同人等ヘハ如何ナル意味ノ相談ヲ爲シタリヤ。

答 大院君入闕ニ就キテハ護衛爲シ吳レヨトノ依頼モ有之候ニ付、行カウト申シタルマデナリ。斯ク申シタルハ〇〇ヨリ大院君ノ依頼アリシト申サレシ故ナリ。

問 〇〇ヨリ談示アリシト告ゲシカ。

答 夫レハ云フタ人モアリ、云ハザリシ人モアリマス。

問 人ハ或ル場處ヘ集メ相談シタルナリヤ。

答 左様ニアラズ、方々ニ駈ケ廻リ其所在ニ付各々ヘ通知シタル次第ナリ。



問 此護衛ニシテ入城スルニ就テハ或ル一方ノ人ハ見當リ次第〇〇スルト云フ申合セナリシカ。

答 左様ナ申合セ無之、却テ成ルベク手ヲ出スマイ、尤モ護衛ニ對シテ妨ゲル者アレバ無論防衛ハセネバナラント申合セ置キタリ。

問 勿論大院君ノ入闕ハ兵力ニ訴フルトノ覺悟アリシカ。

答 初メ左様ナ考ヘ無之、途中ニテ訓練隊ニ出會シ、夫レガ先驅シテ參リタル故、侍衛隊ト衝突ニ爲リマシタ。

問 併シ日本ノ守備隊モ出掛ケルヤウ爲シ居リシ故、無論訓練隊モ出ル事ニ爲リ居リシナラシ。

答 夫レモ初メハ承ハラズ、後ニ守備隊ハ訓練隊ト侍衛隊ハ必ラズ衝突スルナラントノ考ヘヨリ鎮撫ノ爲メ出デタリト聞キマシタ。

問 大院君ノ護衛ヲ爲スニ付テハ如何ナル報酬ヲ受ケル約ナリシカ。

答 別段報酬ヲ受ケル約ナシ。

問 其約ハナカリシトスルモ現ニ後日ニ受取タル事アルナラズヤ。

答 左様ナ事ナシ。

問 併シ金員ヲ受取タリトノ聞ヘ有之ノミナラズ、此度拘留セシ被告人中皆多額ノ金員ヲ處持シ、中ニハ身分不相當ナルモノモ有之、故ニ之レハ必ラズ事變後受取タルモノト思フ。

答 夫レハ功勞ノ爲メ受取タルニハ無之、或ル事情ヨリ退韓ノ處分ヲセネバナナルマイト云フ事ヨリ、其犠牲ニ供セラル、者、旅費ナクテハ困マルト云フヨリ受取タル者ガアリマス。

問 如何程ノ金員ナリシカ。

答 四五十圓程ノ事ナリ。

問 其方ハ兎ニ角或ル一部ノ壯士ノ爲ニハ主トシテ世話ヲセシ者ナルニ付、其金額ヲ確知セザルベキ理由ナシ、見受ケタル處ヲ申立テヨ。

答 自分ノ見受ケタルハ六千圓ナリ。

問 其六千圓ハ誰ヨリ出テ如何ナルヤシ處分セシヤ。

答 三十人ト見做シ平等ニ割リ當ルト云フ話ナリシモ、自分ハ取扱ヲナサズ。

問 誰ガ取扱シカ

答 岡本ナリシ

問 金ハ何處ヨリ出シカ。

答 大院君ヨリト思フ。尤モ大院君ヨリ出タリトスルモ護衛ヲ爲シタルタメノ報酬ニハ無之、







答 自分ハ大院君ノ輿ノ處ニ居リ、後宮杯ニ入りタルコトハアリマセン。

問 大院君ノ昇殿後ハ室内ニモ立入りシナラン。

答 然ラズ、大院君謁見ナシト云フコトヲ聞キシヨリハ直ニ引揚ゲテ歸リタリ。

問 其夜連中ガ龍山ニ集合スルコトハ協議シ居タルナリヤ。

答 別段申合セト申ス程ノコトハナシ、バラ／＼ニ行キテハナラン、龍山ニ集ラント云ヒ、

咄嗟ノ間ニ集マリシナリ。

問 警部荻原ハ巡查ヲ率キ行キ居リシトノコト、如何。

答 存ジマセン。

問 堀口領事官補ハ見受ケタリヤ。

答 見受ケマセン。

問 大院君ノ邸ニテハ壁ヲ乘越ヘ看守セル巡檢ヲ縛シ、開門シタリトノコト、如何。

答 左様ナ事ハ存ゼズ、自分ノ行キタル時ハ已ニ門ハ明イテ居リマシタ。

問 邸内ニテ大院君ニハ面會シタリヤ。

答 左様髪ヲ櫛ラル、居間ト見エ支度ヲサル、際面會シマシタ、自分ノ外兩三名モ居リマシ

タ、尤モ誰ナリシカハ存ゼズ。

問 其夜大院君ハ容易ニ出ラレザルヲ引立タル譯ニハ非ラザル乎。

答 左様ナ事ナシ、大ニ得意ノ體デアリマシタ。

問 我が守備隊トノ交渉行違ヒヲ生ジ、其際心配シタルコト有之トノコト、如何。

答 一向存ジマセン。

右讀ミ聞セタル處相違ナキ旨供述セリ。

被告人 國友重章

本人實印不處持ニ付拇印セシム。

明治二十八年十月二十八日

於廣島地方裁判所

豫審判事 吉岡美秀

裁判所書記 田村義治



## 朝鮮出張仁尾惟茂ヨリ大藏大臣ニ報告

此度ノ事件タル近日宮中ニ於テ往々改革ノ氣運ヲ挫キ種々舊弊ニ復スルノ實アリ、就中王室ハ痛ク訓練隊（去年以來日本士官ノ訓練セシモノ）ヲ嫌ヒ、之ヲ廢止センガ爲ニ先ヅ内々巡檢（巡查）ヲ教唆シテ訓練隊兵士ト爭鬪ヲ爲サシメ、之レヲ口實トシテ訓練隊ノ銃器ヲ取揚ゲ、尋イデ該隊ヲ解散シ、士官ヲ處罰（或ハ云フ死ニ處スル筈ナリシト）スルノ議ヲ決シタリト云フコト洩レタルヨリ、訓練隊士官以下非常ニ激昂シ、遂ニ大院君ヲ奉ジテ王闕ニ迫リ辯疏スル所アラントシ、會々大院君ハ宮中近日ノ事、日ニ益々非ナルヲ嘆ジ、一タビ之ガ弊毒ヲ掃蕩セントスルノ決心アル際ナリシカバ、終ニ相會シテ此舉アルニ至リタル次第ナリト云フ。此ノ事變ニ於テ王妃ハ所在不分明ナリト傳へ、又日本兵ハ宮中ニ砲聲ノ起ルヲ聞クヤ、之ヲ鎮撫スルノ目的ヲ以テ王闕ノ内外ヲ警衛シ、朝鮮兵ノ新舊（新トハ訓練隊、舊トハ侍衛隊）相爭鬪スルヲ制止シタリト、云々。

然ルニ此事變ニ附帶シテ尙ホ傳聞スル所ヲ舉グレバ、或ハ大院君ノ入闕ニ際シテ數十名ノ日本人附隨シ居タリト云ヒ、或ハ日本兵ガ先ヅ進入シテ訓練隊ハ却テ之ニ從ヒ行キタルナリト云ヒ、又或ハ王闕内ニテ働キタルハ日本人ナリ、此實況ハ米人「タイ」外一名ノ西洋人（孰レモ舊兵ニ屬スル雇陸軍教師タリ）現場ヲ目撃シ居タリト云フ等其間事態容易ナラザル點モアルヤニ聞キ及ベリ。尤モ或筋ニ於テ是等ノ諸說ニ對セントスル言ナリト云フヲ聞ケバ、大院君入闕ニ際シ日本人數名附隨シタルハ皆同君トノ私交上ヨリ同行ノ依頼ヲ受ケタルモノナリ、又朝鮮人ニシテ日本服ヲ着ケ居タルモノアリ、是レ朝鮮人ハ日本人ヲ畏ル、ガ故ニ、假ニ日本人ノ服ヲ爲シ居タルモノナリ、其他又此事變ヲ聞イテ見物旁々王闕ニ赴キタルモノモ有ルベク、是レ獨リ日本人ノミナラズ、歐米人モ亦之ニ赴キ居タルヲ見受ケタリト、云々。

事變ノ翌日、即チ去ル九日各國公使ハ我が公使館ニ會シ（我が公使ハ駐在使臣ノ首席ナルヲ以テ使臣會議ハ我が公使館ニテ開クヲ常例トス）日本人ガ此ノ事變ニ與リ、種々ノ働キヲ爲シタルヲ實見セシモノアリト云ヒ、又タ日本兵ハ此種々ノ働キヲ爲セシモノヲ傍觀シ制止セザリシナド、種々ノ質問ヲ爲シタリト云フ、去レバ向後此事ノ如何ニ成行クベキカハ未ダ今日ニ明言シ難キモ、或筋ノ内輪ノ決心ハ近時王室ハ其權ヲ專ラニシ、内閣ヲ壓倒シ、官制ヲ無視シ、財政ヲ紊亂シ、且ツ我が薰陶ニ成ル所ノ訓練隊ヲ廢止セントシ、又訓練隊廢止ノ上ハ金宏集等



ノ閣員ヲ殺害スルノ企テヲナシ、又窃ニ俄國ノ保護ヲ乞フノ密約アリ、若シ此儘ニ經過スルトキハ從來我國ガ盡シタル啓導扶持ノ甲斐ナキニ至ラン、而シテ一面ニハ日本人ノ憤激訓練隊ノ激昂等勢ヒ制ス可ラザルニ至レルヲ以テ止ムヲ得ズ之ヲ默視セシナリト、云々。

又此舉ニ就キ大院君ガ或向ヘ對シテ内約スル所ナリト云フヲ聞クニ、第一、王室ト内閣トノ關係ヲ明カニシ嚴ニ相互ノ權限ヲ守ルコト、第二、大院君ハ一切政務ニ關係セズ政務ハ總テ内閣ニ一任スルコト、第三、内閣ハ金宏集、魚允中、金允植等ヲ中心トシ、其他公正ノ人物ヲ撰任シ且ツ庶政ノ施設ハ總テ顧問官ニ諮ルコト、第四、李載冕ヲ宮内大臣ニ、金宗漢ヲ同協辦ニ任ズルコト、第五、李竣鎔ヲ日本ニ留學セシムルコト等是レナリト云フ。斯クテ事變ノ即日宮内大臣李耕植、軍部大臣安駟壽、學部大臣李完用、農商工部大臣李範晉、警務使李允用等ノ官ヲ免ジ、更ニ李載冕ヲ宮内大臣ニ、金宗漢ヲ宮内協辦ニ、趙義淵ヲ（朴泳孝ノ盛時懲戒免官トナリタルガ、此ニ至リ特旨懲戒ヲ免ゼラレタル上）軍部大臣ニ任ジ、又徐光範ヲシテ學部大臣事務ヲ、趙義淵ヲシテ警務吏事務ヲ臨時署理セシメ、農商工部協辦鄭秉夏ヲ同部大臣署理ニ命ゼリ。尙ホ近日ノ内、内部大臣朴定陽モ免官トナリ、而シテ數日前内部協辦ヨリ義州府觀察使ニ轉ジタル兪吉濬復タ内部協辦ニ任ジテ同大臣署理トナルベク、又彼ノ魚允中モ不日出デ、内部度支ノ内執レカノ地位ヲ占ムベシト云フ。

當日又詔勅アリ、其要ニ曰ク、大小ノ政令皆内閣大臣ニ於テ議決シ、朕ノ裁可ヲ仰請シテ行フベキ新制ヲ定メタルニ、近來宮内府ト内閣ト分別ニ確定スルヲ以テ、政令ノ或ハ宮内府ヨリ發布シタル件モアリタリ、此ハ宮内府ガ其次序ヲ審カニセザルニ由ルト雖モ、其實内閣臣僚ノ責モ無クンバアラズ、今ヨリ以後、内閣及ビ宮内府ハ各官制ノ定メタル權域ヲ格守シテ、凡百ノ政令ハ皆先ツ内閣大臣ヲシテ議セシム云々（總理以下副書）。是レ固ヨリ當然ノコトナリト雖モ亦以テ情勢ノ變化ヲトスベシ。

抑モ當國ノ事ハ百事意思ノ外ニ出デ、殆ンド常識ヲ以テ之ヲ量測シ難キガ故ニ、其將來ノ成果如何ハ固ヨリ之ヲ推斷スル能ハズト雖モ、目下ノ有様ヲ以テ之ヲ言ヘバ、這回ノ事件ハ第一王室ニ存在セル弊毒ノ源ヲ除キ、第二、宮内府ニ平和濃厚ノ人ヲ得、第三、内閣ノ組織ニモ追追其人ヲ得ベキ見込アルヲ以テ、或ハ此一舉ノ爲ニ氣運一轉シテ案外好果ヲ得ベキノ望ミナシトモ限ラレザルガ如シ。元來當國ノ弊政タル、其由來久シト雖モ、去年以來内外ノ刺戟ニ由リテ斯ク刷新ノ氣運ニ向ヒ、本年四月官制實施ノ頃ニ在テハ王室モ虚心改革ノ議ヲ容レ、宮内府ニ在テモ李載冕、金宗漢等極メテ忠實ニ之ヲ補翼シ、又内閣ハ金宏集以下真正ニ國家ヲ思フ人物ニ乏シカラズ、中外一致シテ改革進步ノ方針ヲ採リタルガ故ニ、一時氣運ノ向フ所稍ヤ將來ニ望ミナキニアラザリシナリ。然ルニ爾後一二ノ政變ニ會シ、金宏集先ヅ失意ノ地ニ陥リ、尋



イデ朴泳孝ノ失敗トナリ、終ニ王妃ノ跋扈ヲ復ビセシムルニ至リ、不幸近日ノ非運ヲ致セリ。今回ノ一舉ハ即チ其百弊ノ出ヅル根源ヲ除キ、更ニ聲望アル人物ヲ舉ゲテ要路ニ立タシメントスルニ在レバ、幾分カ前時ノ有望ナル地ニ立戻ルベキ階梯ヲ成シタルモノト謂フベシ。當國一般ノ政況及ビ財政上ノ現状ニ於テ甚ダ憂慮ニ堪ヘザルモノアルノ次第ハ既ニ本月五日付ヲ以テ仔細ニ報告ニ及ビタル處、其後幾日ヲ出デズシテ偶々今回ノ事變ニ遭遇シ、尙ホ熟ラ將來ノ形勢ヲ考フルニ、所謂闇中一道ノ曙光ヲ認メ得ザルニモアラザルガ如シ、蓋シ從來最モ憂慮スベキ事實ハ多クハ宮中ニ存在スル一種ノ勢力ニ因由シ、宮内及ビ内閣トモ之ヲ匡正スル程ノ人物ナキノミカ、却テ之ヲ助長スル有様ナリシニ、此事變ニ於テ其源ヲ清フスルト共ニ、宮中、府中兩ナガラ誠實ニシテ且ツ聲望アル人士ヲ以テ其職ニ當ツルコト、ナリタルガ故ニ、苟クモ前途ニ此方向ヲ誤ラザレバ徐ロニ改革ノ氣勢ヲ恢復シテ漸次財政整理ノ運ニ向フヲ得ベキ歟。若シ幸ニ此ノ如クナラバ我國ノ補導モ其甲斐アリト云フベク、將來ノ扶持ニ就テモ亦聊カ望ミアルコトニ變ズベキカトモ存ゼラル。但シ今回ノ舉ニ就テハ自然列國ノ批判モアルベク、其成行キノ如何ナル點ニマデ及ブベキカ、隨分懸念スベキコトナルモ、這ハ大局ノ事ニ屬シ、固ヨリ小官ノ豫測シ難キ所ナルヲ以テ、單ニ此度變動後ノ狀況ト其概測スル所トノモノヲ具陳スルヲ以テ宜シク前回ノ報告ニ對照シテ其情勢ヲ審ニシ及ビ其變遷ノ歸スル所ヲ察セラレシコトヲ。

明治二十八年十月十一日

朝鮮國ニテ 仁 尾 惟 茂



# 岡本柳之助以下豫審終結決定書

和歌山縣海部郡雜賀村大字宇須居住士族  
朝鮮國軍部兼宮内府顧問官

岡本柳之助

嘉永五年八月生

福島縣北會津郡若松町大字中六日町居住平民  
東京府東京市麴町區有樂町三丁目寄留著述業

正七位 柴 四 郎

嘉永五年十二月生

熊本縣山本郡菱形村大字邊田野居住士族無職業

國友重章

文久元年十一月生

福岡縣福岡市大名町居住平民雜業

月 成 光

文久二年正月生

熊本縣飽田郡城山村大字上代居住士族農業

廣田正善

文久元年三月生

福岡縣福岡市瓦町居住士族無職業

藤勝顯

安政六年十二月生

岩手縣紫波郡見前村大字東見前居住平民吉田長治四男  
東京府東京市麴町區下二番町寄留新聞記者

吉田友吉

明治五年正月生

熊本縣飽田郡黑髮村大字坪井居住士族無職業

平山岩彦

慶應三年八月生

岡本柳之助以下豫審終結決定書



宮城縣桃生郡深谷村大字大窪居住平民無職業

大崎正吉

慶應元年正月生

熊本縣託摩郡出水村大字今居住士族賣藥商

佐々正之

文久二年正月生

熊本縣熊本市上林町居住士族無職業

澤村雅夫

不詳

熊本縣託摩郡大江村大字大江居住士族片野易喜次男無職業

片野猛雄

明治六年十一月生

熊本縣玉名郡大原村大字小原居住平民隈部庄作次男農業

隈部米吉

不詳

千葉縣上殖生郡東村大字豐原居住平民

山田烈盛

東京府東京市下谷區上根岸寄留新聞記者

文久二年五月生

熊本縣八代郡鏡町大字鏡村居住平民

東京府東京市麴町區寄留新聞記者

菊地謙讓

明治三年十月生

熊本縣宇土郡宇土町大字宇土居住士族新聞記者

佐々木正

明治六年二月生

福岡縣山本郡草野町大字草野居住平民無職業

武田範之事 武田範治

文久三年十月生



熊本縣下益城郡海東村大字南海東居住平民農業

前田俊藏

明治七年十二月生

熊本縣阿蘇郡宮地村居住士族無職業

家入喜吉

明治十年四月生

熊本縣熊本市長安寺町居住新聞社員

牛島英雄

明治六年十月生

熊本縣阿蘇郡內牧村大字內牧居住士族

朝鮮國柱洞小學校教員

松村龍起事 松村辰喜

明治元年十二月生

熊本縣熊本市北坪井町居住士族新聞記者

小早川秀雄

明治三年三月生

京都府京都市下京區東枳穀馬場七條上ル三丁目

若松町居住平民無職業

鈴木順見

明治元年九月生

熊本縣託摩郡廣畑村大字保田窪居住士族

中村楯雄

文久三年四月生

神奈川縣愛甲郡荻野村大字下荻野居住

難波惣平弟平民藥品雜貨行商

難波春吉

元治元年四月生

熊本縣山鹿郡中富村大字下分田居住士族農業

佐藤敬太

安政五年十二月生



熊本縣球磨郡岡原村大字岡本居住平民農業

田中賢造

安政三年十一月生

熊本縣山本郡田底村大字米塚居住士族新聞社員

平山勝熊

慶應三年四月生

東京府東京市四谷區四谷須賀町居住平民

公使館一等書記官正六位 杉村濬

嘉永元年正月生

新潟縣古志郡長岡本町大字東神田町居住

領事館補從七位 堀口九萬一

慶應元年正月生

長野縣北佐久郡小諸町居住平民

外務省警部 荻原秀次郎

慶應二年四月生

東京府東京市小石川區中富坂町居住華族

豫備陸軍中將正三位勳一等子爵

三浦梧樓

弘化三年十一月生

東京府東京市淺草區聖天町居住平民

外務省巡查 渡邊鷹次郎

嘉永四年十一月生

鹿兒島縣日置郡日置村居住士族

外務省巡查 成相喜四郎

元治元年七月生

長崎縣長崎市今籠町居住士族

外務省巡查 橫尾勇太郎

慶應二年五月生

鹿兒島縣鹿兒島市鹽屋村居住士族

外務省巡查 小田俊光

文久元年十一月生



鹿兒島縣鹿兒島市西田町居住士族

外務省巡查 木 脇 祐 則

明治五年三月生

長崎縣南高來郡神代村居住士族境勘作長男

外務省巡查 境 益 太 郎

明治元年九月生

鹿兒島縣鹿兒島市冷水通町居住士族

外務省巡查 白 石 由 太 郎

明治四年十月生

神奈川縣橫濱市相生町六丁目居住士族賣藥商

高橋源次事 寺 崎 泰 吉

文久二年二月生

長崎縣下縣郡久田道町居住士族朝鮮國補佐官

勳七等 淺 山 顯 藏

嘉永二年四月生

熊本縣飽田郡力合村大字島新居住士族新聞記者

安 達 謙 藏

元治元年十月生

福島縣河沼郡金上村大字福原居住士族

佐瀬縁藏養嗣子醫業

佐 瀬 熊 鐵

慶應元年十二月生

熊本縣飽田郡奥古閑村居住平民非職營林主事

朝鮮田内部顧問官

澁 谷 加 藤 次

安政二年三月生

長崎縣下縣郡宮谷町居住士族朝鮮國通譯官

大浦滋彦事 大 浦 茂 彦

萬延元年六月生



滋賀縣東淺井郡大郷村大字難波居住平民蓮元憲岳兄  
朝鮮國通譯官

蓮本安丸又蓮元康丸事 蓮 元 泰 丸

慶應二年七月生

新潟縣中頸城郡高城村大字木築居住士族晒業

勳七等 鈴 木 重 元

嘉永六年二月生

熊本縣熊本市小幡町居住士族宮住守男次男新聞社員

宮住勇記事 宮 住 勇 喜

明治六年二月生

右岡本柳之助外四十七名ニ對スル謀殺及ビ兇徒聚衆事件、平山岩彦ニ對スル故殺事件等檢事ノ請求ニ依リ豫審ヲ遂グル處、被告三浦梧樓ハ朝鮮國駐劄特命全權公使ト爲リ、明治二十八年九月一日京城ニ就任セシ處、當時同國ノ形勢漸ク否運ニ傾キ、宮中ノ專横日ニ甚シク、妄ニ國政ニ干涉シ、我政府ノ啓誘ニ因リ、稍ヤ改良ノ緒ニ就キタル政憲ヲ紊リ、遂ニ我ガ陸軍士官ノ盡力ニ成レル訓練隊ヲ解散シ、其士官ヲ黜罰セントスル等、頗ル我國ヲ疎外スルノ形跡アルノ

ミナラズ、國政ノ進歩ヲ圖リ、獨立ノ實ヲ舉グルニ銳意ナル内閣員等ヲ免黜又ハ殺戮シ、以テ政權ヲ宮中ニ收メントスルガ如キ計畫アリト聞キ、憤慨措ク能ハズ、是レ多年我國ノ勞力ト資財トヲ費シ、同國ノ爲メ經營セル好意ニ負キ、内政ノ改良ヲ妨ゲ、國家獨立ノ基礎ヲ危クスルモノニシテ、獨リ同國ノ不利ナルノミナラズ、我ガ帝國モ亦害ヲ受クル尠カラズ。依テ速カニ其弊害ヲ除キ、彼レノ獨立ヲ扶殖シ、併セテ同國ニ於ケル我國ノ威信ヲ保持セザル可カラズト考慮スル折柄、會々大院君時弊ヲ憤慨シ、自ラ起テ宮中ヲ革新シ、輔翼ノ任ヲ盡サント欲スルノ意ヲ致シ、陰ニ助力ヲ求メ來リタルヨリ、同年十月三日被告杉村濬、岡本柳之助ト公使館ニ會シ、三名謀議ノ上常ニ宮中ノ爲ニ忌マレ自ラ危ム所ノ訓練隊ト時勢ヲ慷慨スル壯年輩ヲ利用シ、暗ニ我ガ京城ノ守備隊ヲモ之ニ聲援セシメ、以テ大院君ノ入闕ヲ援ケ、其機ニ乗ジ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。然レドモ大院君他日若シ政治ニ容喙セバ、其弊害却テ前日ヨリ甚ダシキモノアランコトヲ慮リ、豫メ之ヲ防ガザル可ラズト爲シ、被告濬ハ要項四ト題スル約款ヲ起草シ、被告柳之助ノ大院君ト親善ナルヲ以テ、之ヲ携ヘ同月五日孔德里ノ別邸ニ赴キ、方今ノ形勢再ビ大公ヲ煩スモノアラン。而シテ三浦公使ノ要ムル所此ノ如シト該書ヲ相示シタルニ、大院君ハ子孫ト共ニ欣然トシテ之ヲ諾シ、自ラ誓約書ヲ裁シタリ。因テ被告梧樓等ハ其時機ヲ同月中旬ト豫定シ、柳之助ガ孔德里ニ到リタルハ他ノ疑ヒヲ











### 三浦梧樓事實訂正願

自分被告事件就中〇〇云々ノ件ニ付御尋問ノ回数重ヌルニ從ヒ、知ラズ識ラズ最初申立ノ主趣自然薄弱ニ傾キ候恐レアリ、依テ今ココニ前言ニ相違無之事ヲ證明致シ置キ候。抑モ豫想外ニモ此ノ如キ舉動日本人中ニ成セシ者アリトセバ、是レ畢竟其場ノ勢然ラシムルモノニシテ、今般大院君ノ改革ヲ助勢セシ目的ニハ毫頭之レナシ、殺ト不殺ノ事ハ彼ノ國人ノ勝手ノミ、日本人始メヨリ預リ知ル處ニ非ラズ、尙ホ又御尋ネノ答ヘニ衆人常ニ云フ、王妃在テハ朝鮮ノ事ハ無駄ナリ杯ト、此ノ如ク答ヘシ末、或ハ恐ル自分モ云ヒシ如ク感ゼラレザルヤ、自分ハ嘗テ此ノ如キ言ハ口外セシ事決シテナシ。或ハ平常酒席談笑ノ間ニ戯レ半分ニ人ノ云ヒシヤウニ憶ヒ出シ候マデニテ、答辯ノ序ニ申述べ候マデナリ。之ハ要スルニ萬一ニモ〇〇ヲ以テ大目的ト假定センニハ、第一ニ少數ニテモ〇〇擔當ノ適任者ヲ撰定シ、應援保助ノ任務ヲ畫シ、一切ノ手配モ自ラ綿密ニ爲サルヲ得ザルベシ。豈ニ此ノ如キ不規則放縱ノ行爲ヲナサシメンヤ。況

ンヤ自分軍人タルノ習慣ニ於テオヤ。是レ則チ〇〇ニ目的ヲ置カザル一證ナリ。

右二件更ニ念ノ爲メ訂正證明仕候也。

明治二十八年十二月十二日

廣島縣監獄署

刑事被告人 三 浦 梧 樓

廣島地方裁判所

豫審判事 吉 岡 美 秀 殿



## 杉村濬等被告事件陳述書

本年十月八日朝鮮國京城ニ於テ大院君入闕ニ關シ我ガ三浦公使ハ其前被告等ノ意見ヲ聞キ、四箇ノ條件ヲ以テ同君ノ入闕ニ同意シ、之レニ陰助ヲ與ヘタル顛末ハ是レマデ豫審廷ニ於テ追追陳述シタル通りニ有之候處、抑モ事ノ此ニ至リタル次第ハ、本年春夏ノ邊ヨリ、朝鮮ノ形勢漸ク否運ニ傾キ我 天皇陛下ノ御希望遊バサレタル内政改革モ行ハレズ、隨テ其獨立ヲ鞏固ニス可キ見込ナク、殊ニ近來魯國ハ宮中ニ潛勢力ヲ得テ次第ニ政府ヲ壓倒シ、遂ニ朝鮮ニ於ケル我ガ權勢ヲ消滅セシメントスル傾向アルニ付、三浦公使ハ其執ルベキ方針ニ付赴任前政府ニ向テ内訓ヲ請ヒタルニ、政府ハ之レニ答ヘズ、然ルニ就任後形勢日ニ迫リ、實ニ危機一髮ニ際シタレバ、同公使ハ今ハ躊躇スル暇ナク、自己ノ責任ヲ以テ前任公使ガ執リシ事例、然カモ政府ガ之ヲ認メタル事例ニ倣ヒ、且ツハ大院君ノ熱心ナル希望ニ應ジ、同君ヲ入闕セシメ、國王陛下ヲ補佐シテ宮中事務ヲ整理セシメ、以テ我ガ政府當初ノ目的ヲ貫キ、併セテ同國ニ對スル我

國ノ權勢ヲ維持セントシタル臨機ノ處分ニ外ナラズ。其詳情ハ條別シテ左ニ掲グ。

- 第一 朝鮮駐在ノ帝國公使ハ其責務他ノ各國ニ駐在スル帝國公使ヨリ一層重ク、且ツ廣ク、即チ通常外交事務ノ外ニ事實上朝鮮ノ政略ヲ監督シ、其國安ヲ保護スル責務アルコト。朝鮮ハ形式上獨立國ニシテ我ガ帝國ト對等ナリト雖モ、事實ニ於テ我國ハ保護誘導及ビ監督ノ地位ニ立ツコトハ昭然世ニ隱レナキ所ナリ、左ニ其ノ重ナル例證ヲ掲グルトキハ、
- 甲 我國ヨリ守備兵一大隊ヲ京城ニ派駐シテ其治安ヲ維持スルコト。
- 乙 昨年來朝鮮政府ノ依頼ニ應ジ東學黨ヲ鎮壓シタルコト、但シ我ガ好意ニ出デ軍費等ヲ受ケズ。
- 丙 同國兵備ノ整頓ニ至ルマデ駐兵鎮撫ノ依頼ヲ受ケ之ヲ承諾シタルコト、但シ其費用ハ帝國政府ノ自辨ナルコト勿論ナリ。
- 丁 我ガ内閣及ビ大藏省ヨリ帝國政府ノ費用ヲ以テ數名ノ官員ヲ派シ、彼國ノ政務ヲ補助セシムルコト。
- 戊 朝鮮政府ニ聘用セラル可キ日本人ノ顧問官及ビ補佐員ハ必ラズ日本公使ノ紹介ヲ經可キ内約ヲ爲シタルコト。



己 朝鮮内閣大臣及び重ナル官員ノ進退、並ニ重要ノ政務ニ日本公使ハ干涉シタルコト。

庚 朝鮮政府ノ經用ヲ補助シ革政事務ヲ遂行セシメンガ爲メ帝國政府ヨリ特ニ三百萬圓ノ大金ヲ貸與シタル事等ナリ。

右掲ノ事實ニ據テ之ヲ觀ルトキハ、朝鮮ハ事實上我が保護誘導及び監督ノ下ニ立居ルコトハ甚ダ顯著ナルコトナリ。而シテ直接其大責務ヲ擔任スル者ハ誰ゾヤ、即チ京城ニ駐在スル日本公使之ナリ。客年六、七月ノ間、大島公使ハ帝國政府ノ訓令ヲ奉ジ、朝鮮國王及び其政府ニ向ケ内政ノ改革ヲ勸奏告シ、期ヲ刻シテ其實行ヲ促シタル如キハ、名ハ隣邦ノ友誼、東洋ノ保安ニ在リト雖モ、其實ハ我國ハ穩然彼ヲ保護誘導スル責務ヲ有シタルヲ見ル可シ。降テ同年十月下旬井上公使赴任後ハ此責務ヲ十分ニ施行シ、内閣大臣ヲ初メ重ナル官員ノ進退、注令ノ制定並ニ財政ノ要務等ニハ一々干涉シ、只管革政ノ舉効ヲ求メタルハ全ク蔽フ可カラザル事實ナリ。左レバ之ガ後任タル公使ハ前任者ト均シク普通外交事務ノ外ニ保護監督ノ二大責務ヲ擔任ス可キハ昭然トシテ火ヲ睹ルヨリ明カナルハ、新任公使ノ其任ニ赴クニ當リテ此等ノ事ニ關シ政府ハ充分ノ内訓ヲ附與セラルベキハ亦政府ノ責務トシテ當然ノ事ナラント思考セリ。

## 第二

本年夏以來朝鮮ノ形勢ハ殊ニ困難ニ傾キタルニ付キ益々政府ノ注意ノ必要ヲ來シタルコト。

昨冬井上公使赴任後ノ當座ハ其勢力盛ニシテ、充分ニ朝鮮ノ内政ニ干涉シ、保護監督ノ責務ヲ盡スコトヲ得タルモ、右ハ客年十一月十二日ヨリ本年三、四月ニ至ル僅カニ半年未滿ノ短日月ニシテ、四、五月頃ヨリハ其ノ言フ所ハ多ク聽カレズ、該國政府ハ往々事ヲ專斷スル都合ト爲レリ、其ノ原因ハ第一朴泳孝等ハ井上公使干涉ノ強キヲ厭ヒ、窃カニ日本ノ政黨ニ結托シ（佐々友房、柴四郎ヲ招ケリ）外ハ魯、米兩國公使ニ親シム裝ヲ示シ、國王、王妃並ニ政府ノ諸大臣ニ向ヒ、井上公使恐ル、ニ足ラズト公言シタルニ興リ、第二ハ遼東半島ノ還付ハ早クモ露公使ノ手ヨリ國王、王妃ノ耳ニ入リ、兩陛下ヲシテ頓ニ露國ニ向ケ依頼心ヲ増サシメタルコト是レナリ。故ニ同五月中内閣破裂ノ際モ井上公使ノ力ニテハ之ヲ彌縫スル能ハズ、餘儀ナク朴泳孝ト復和シテ僅カニ日韓ノ連絡ヲ繋ギ、之ヲ潮時トシテ同公使ハ歸朝ノ途ニ上リタルハ誠ニ遺憾ノ事ナリキ。然ルニ同公使歸朝後僅カニ二十日程ニシテ朴泳孝ハ不軌罪ノ嫌疑ヲ受ケ逃亡シ、引續キ井上公使再渡セラレタル處（七月十日頃着漢ナリ）對韓ノ方針ハ全ク前ト變リ、政事改良ノ事ハ幾ンド不問ニ付シ去リ、只管宮中ノ歡心ヲ買ハンコトヲ務メ



タル様子ニテ、王妃ノ政事ニ干與スルコトヲ承認シ、並ニ三百萬圓寄贈ノ事等ヲ以テ兩陛下ヲ説カレタルガ爲メ、宮中ニテハ姑ク我ニ傾向スル色ヲ顯シ、且ツ全ク金宏集ヲ總理ニ復任シタリト雖モ、是レ唯ダ一時ノ事ニシテ、其結果ハ金氏ノ復任ハ到底有名無實ナルガ上ニ、韓廷ニテ剛直大臣ト稱セラレタル魚允中ヲ退ケテ、宮中派ノ重鎮ナル沈相薰ヲ入レ、金嘉鎮ヲ退ケテ露黨隨一ノ李範晋ヲ入閣セシムル（金李交遞ノ事ハ時日遅レタルモ其間ニ協議調ヒタリト聞ク）都合トナリタレバ、井上公使ガ二ヶ月間ノ苦心モ其實宮中政治ノ勢ヒヲ強メ、露國ノ潛勢力ヲ高メタルニ過ギザリキ。

前陳ノ情勢ナルニ付キ、能ク之ヲ考慮スルトキハ其後任公使タル者ハ必竟進退維谷ノ困難ニ遭遇シ、一身ヲ犠牲ニスルカ、左ナクバ國家ヲ犠牲ニスルニ途アルニ過ギザルヲ發見ス可シ。誰カ進ンデ其後任タル者アランヤ。側ニ聞ク所ニ據レバ、三浦子爵ハ當初就任ヲ肯ゼザリシ處、山縣（大將）、野村（内務）、田中（光顯子）諸友ノ勸告否ミ難ク、且ツ國家ノ爲メ誰カ此ノ難局ニ當ラズンバアル可カラズトノ觀念ヨリ、遂ニ御請ケシタリト云ヘリ。蓋シ當時同子爵ガ御請ケノ決心ハ取モ直サズ一身ヲ犠牲ニスル決心ナリシコトト推測セラレタリ。形勢已ニ此ノ如クナレバ、政府ノ尤モ注意ヲ要スルハ勿論、新任公使ヲ派遣セラル、場合ニハ其ノ執ル可キ方針ニ付キ充分ノ訓令ヲ與

ヘラル可キ筈ナルニ、政府ハ實ニ之ヲ爲サザリキ。

## 第三

三浦公使ハ赴任前、朝鮮ノ形勢甚ダ困難ナルヲ洞見シ、其ノ執ルベキ方針ニ付キ三ヶ條ノ意見ヲ認メテ内訓ヲ仰ギタルニ、政府ハ終ニ之ニ答訓セザルコト。

前述ノ通り政府ヨリ訓令ヲ與ヘザルニ付、三浦公使ハ三ヶ條ノ意見ヲ政府ニ呈出シ内訓ヲ仰ギタル由ニテ、同公使ヨリ直聞スル所ニ據ルニ、其要旨ハ「目下朝鮮ノ形勢ヲ觀察スルニ、我が昨年來ノ權勢ヲ保續シ、其國政改革ノ目的ヲ達スルコト至難ナルノミナラズ、同國ニ對スル我が權勢ト事業ハ日ニ月ニ縮小シ來レリ。依テ此儘ニ經過スルトキハ我が權勢隨テ地ニ墜チ、昨年前ノ舊狀ニ陥ルハ必然ナラン、去リ乍ラ此際滔滔タル勢ヒニ逆ツテ強ヒテ我が權勢ヲ保續シ當初ノ目的ヲ達セントスル時ハ、或ハ某國ト衝突ヲ興スノ恐レアリ。

依テ本官ハ恰モ佛ト爲リシ心地シテ、大抵ノ事ハ辛抱シテ只管無事ヲ冀フ可キカ、若クハ鬼ト爲リテ何處マデモ我が權勢ヲ維持シ、當初ノ目的ヲ達スルヲ期ス可キカ」ト云フ趣意ナリシガ、其後政府ニ向テ度々催促シタルニ拘ラズ、遂ニ答訓ヲ得兼ネタリト云ヘリ。夫レ朝鮮ニ駐在スル我が公使ハ其責務ノ重キコト已ニ第一條ニ述ベタル如ク、形勢ノ困難ナルコト第二條ニ述ベタル如クナレバ、新任公使ガ其任ニ赴クニ當リ



テ政府ハ何等ノ訓令ヲ與ヘズ、又公使ヨリ内訓ヲ請フニ當リテ之ニモ答訓ヲ與ヘザルハ果シテ何ノ意ゾヤ。實ニ政府ノ怠慢ト云ハザルヲ得ズ。而シテ政府ノ怠慢ハ三浦公使ヲシテ其方向ニ迷ハシメ、危機一髮ニ臨ミ竟ニ前任公使ガ執リシ事例ニ倣ヒ、非常手段ヲ執ルノ不得止ニ陥ラシメタルモノ也。

## 第四

大鳥、井上兩公使在勤中、朝鮮政府ヲ改革スル目的ヲ以テ非常手段ニ依リ大院君ヲ進退セシメタル事例アルコト。

客年七月二十三日ニ於ケル京城ノ事變ハ外交上ノ問題ヨリ日、朝兩政府ノ間ニ衝突ヲ興シ、示威的運動ノ爲メ遂ニ我が兵ヲ城内ニ繰込ミ王宮ニ迫近セシメタル處、端ナク韓兵ト交戦ヲ開キ、我兵遂ニ王宮ニ進入シタルコトナレバ、暫ク含テ、論ゼザルモ、同時ニ我が兵ガ大院君ヲ擁シテ入闕セシメタルハ何ゾヤ、是レ毫モ外交問題ノ衝突ト關係ナキコトナリ。遡ツテ當時ノ事情ヲ考フルニ、外交問題ノ衝突ハ眞ニ表面ノ辭柄ニテ、其實我ニ反對ナル閔黨政府ヲ仆シテ大院君ニ政權ヲ掌握セシメ、同政府ヲ我が味方ニ引キ付ケ、思フ儘ニ我が見込ノ改革ヲ行ハシメントノ希望ニ外ナラザリキ。當時ノ舉ハ前任大鳥公使ガ豫メ我が政府ノ訓令ヲ仰ギタルニアラザルモ、事後ニ至リ政府ハ其報告ヲ得テ敢テ之ヲ咎責セズ、辭ヲ替ヘテ之ヲ言ヘバ政府ハ之ヲ默認シタルモノナリ。其後同年十一月、二月ノ頃、井上公使ハ大院君ノ不都合ヲ舉ゲテ之ヲ面責シ、又國王ノ前諸大臣列席ノ處ニ於テ激論シテ大院君ヲ退ケ、政務ニ干與スルコトヲ差止メタリ。右ハ其前同君ハ窃カニ清將ニ通ジ、東學黨ヲ招キテ日本兵ヲ退ケ、又改革派ノ人々ヲ除キ政權ヲ全握セント企テタレバ、同君ヲ認メテ日本ニ背叛シ改革ヲ妨礙スルモノト見做シ、此舉ニ出デタルモノニテ、其目的ハ大鳥公使ノ舉ト異ナラザリキ。而シテ當時ノ事亦固ヨリ豫メ政府ノ訓令ヲ仰ガザルモ、事後ニ至テ政府ハ之ヲ默認シタリキ。要スルニ朝鮮ハ古來支那ニ服屬シ、之ヲ視ルコト恰モ父子兄弟ノ如キ情アリ、之ニ反シテ多年我邦ヲ仇敵視來リシヲ、昨年俄カニ其ノ軌轍ヲ改メ、西ニ背イテ東ニ向ハシメタルモノナレバ、其ノ政府ヲシテ常ニ我ニ服從シ、我が指揮ニ從テ政事ノ改革ヲ成就セシメントスルニハ、到底尋常ノ手段ノミニテ其目的ヲ達スルコト能ハザレバ、我が政府ニ於テモ素ヨリ洞諒ノ上之ヲ默認セラレタルコトト推測セラレタリ。

左レバ本年十月ノ初メ、朝鮮ノ形勢甚ダ切迫シ、危機一髮ノ際ニ臨ミ、三浦公使ハ其責任ヲ以テ大院君入闕匡濟ノ切望ニ同意シ、之ニ陰助ヲ與ヘタルハ、其ノ目的大鳥、井上兩公使ノ所爲ト同一ニシテ、其ノ手段ハ遙ニ昨年七月ノ舉ヨリ隱和ナリシト信ゼリ。然ルニ政府若シ本年ノ舉ヲ以テ公使ノ過失ト爲シ、若クハ罪戾ト認メバ、政府ハ



何故ニ昨年ノ舉ヲ是認シタルヤ、政府ハ既ニ昨年ノ舉ヲ是認シタル已上ハ、後任公使ガ其例ニ倣ツテ行ヒタル本年ノ舉モ亦之ヲ責ムルヲ得ザルモノト確信セリ。

第五

我ガ公使ハ政略上必要ノ場合ニハ京城駐屯ノ守備隊ヲ使用シ得ルコト。同隊ハ其ノ名義ノ如ク守備ニ相違ナキモ、間接ニ朝鮮政府及ビ人民ヲ威壓シテ我ニ背叛セシメザル用ニ供スルコト勿論ナリ。故ニ同隊派遣ノ際、我ガ政府ヨリ與ヘラレタル内訓中「我ガ公使ノ政略ヲ助ケ其ノ指揮ニ從テ運動ス可キ」旨ノ一項ヲ掲ゲ、而シテ同訓令ハ寫シテ以テ同ジク公使ヘモ達セラレタルコトヲ承知セリ。抑モ政略ノ二字ハ尋常ノ守備ヲ離レテ廣ク其外ニ涉ルコトナレバ、苟クモ公使ニ於テ我ガ國權、國利ヲ保護スルガ爲メ必要ト認ムル運動ハ盡ク政略ノ二字ノ中ニ含蓄セザルナシ。故ニ該隊ハ我ガ公使ノ指揮ニ從ツテ運動スルハ當然ノ任務ナルト均シク、公使モ亦我ガ國權國利ヲ維持スル爲メ必要ト認メタル場合ニハ、該隊ヲ使用スルコトヲ認許セラレタルモノナリ。

前陳ノ事由ナルニ因リ、本年七月初旬大院君ノ入闕ニ關シ、三浦公使ガ執ラレタル臨機處分ハ其ノ政府ノ訓令ヲ得ザルニ因リ、不得已前任公使ノ執リシ事例、即チ政府ノ是認シタル事例ニ倣ヒ之ヲ行ヒタルモノナレバ、毫モ不都合ナキモノト思考ス。若シ此處分ヲ以テ不都合ト爲サバ、政府モ共ニ其責ヲ免ル、コトヲ得ザルモノト本被告ニ於テ確信致シ候。依テ此段意見陳述仕候。

明治二十八年十二月十一日

刑事被告人 杉 村 濬

豫審判事 吉 岡 美 秀 殿







ニ付キ如何ナル證憑ヲ蒐集シ得タルヤヲ審カニセズ、然レドモ豫審判事ハ被告人等ガ  
 ○○○○○○○○○○○、王城内ニ入りタル事實ヲ認メタルモノナレバ、苟クモ○○  
 ○○○ヲ認ムベキ證憑アラバ特ニ其事實ノミヲ認メザルノ理ナシ。然ルニ決意入城ノ  
 事實ヲ認メタルニ拘ラズ、○○○○○○ヲ認メザリシハ全ク之ヲ認ムベキ證憑ナカリ  
 シニ因ルモノト信セザル可ラズ。豫審判事ガ諸般ノ證憑ヲ取調べ認定スベキ事實ハ、  
 之ヲ認定ス可ラザル事實ハ之ヲ認定セザルハ適當ニ其ノ職務ヲ行ヒタルモノニシテ、  
 毫モ非難ス可キ所ナシ。故ニ難者ハ被告人等ガ○○○○○○○○ト認ムベキ證憑  
 ヲ明示スルニ非ザレバ、本件ノ處分ニ付キ事實ノ認定ヲ不相當トスルコトヲ得ザルナ  
 リ。

被告人等ハ○○○○○○○○○○、王城内ニ入りタルノ事實アリ、而シテ一方ニ於  
 テハ○○○○○○○○○○。故ニ普通ノ人情ヨリ云ヘバ、被告人  
 等ガ○○○○○○○○○○ニアラザルヤノ想像ヲ起スモ必ラズシモ怪シムコトニ  
 アラズ。然レドモ決意ハ必ラズ遂行セラル、モノニアラズ。又決意ノミニテ實行ト同  
 一ノ結果ヲ生ズベキ理由ナシ。然レバ假令一方ニ決意アリ、一方ニ結果アルモ、其ノ  
 決意ト結果トヲ聯結セシムル實行ヲ認ムベキ證憑ナキニ於テハ、其ノ結果ヲ以テ直チ

ニ決意者ニ歸スルコトヲ得ザルハ當然ナリ。豫審判事ガ此ノ疑似ノ事件ヲ處分スルニ  
 當リ、普通ノ人情ニ制セラレズ、一ニ證憑ノ指示スル所ニ從ツテ事實ヲ認定シタルハ  
 尤モ適當ノ處分ナリ。加之、朝鮮國裁判所ニ於テ○○○○○○○○朝鮮國  
 人ナリト判定シ、既ニ之ヲ處刑シタル事實アレバ、本件ノ處分ニ付テハ彼我ノ裁判期  
 セズシテ相符合シタルモノニシテ、豫審判事ガ○○○○○○ヲ以テ被告人等ノ所爲  
 ト認メザリシハ眞正ノ事實ヲ發見シ得タルモノナルコト極メテ明瞭ナリ。然ルニ難者  
 ハ豫審判事ガ被告人等ノ決意入城ノ事實ヲ認定スル以上ハ、併セテ○○ノ事實ヲモ認  
 定セザル可カラズト云フハ、畢竟無罪者ト雖モ臆測ヲ以テ之ヲ罰スベシト云フニ歸着  
 スルモノニシテ、復タ其說ノ當否ヲ論ズルニ足ラザルナリ。

二、豫審判事ハ檢事ヨリ豫審ヲ請求セラレタル事件ニ付キ相當ノ處分ヲ爲スベキ義務アル  
 ハ當然ナリ。然レドモ此ノ理由ヲ以テ本件ノ豫審終結ヲ非難セントスルハ誤レリ。豫  
 審判事ガ處分ナサル可ラザルハ檢事ヨリ豫審ヲ請求セラレタル事件ニシテ、檢事ガ  
 其ノ事件ニ付シタル罪名ニアラズ。本件ノ非難ハ畢竟事件ト罪名トヲ區別セザルヨリ  
 出デタルモノナルニ因リ、非難ノ當否ヲ論ズルニハ二個ノ區別ヲ明カニスルヲ必要ト  
 ス。



本件ハ謀殺及ビ兇徒聚集ノ二罪ヲ以テ起訴セラレタレドモ、其ノ實體ニ於テハ二個各別ノ事  
件アルニ非ラズ。檢事ガ兇徒聚集ノ罪名ヲ付シタル點ハ被告人等ガ〇〇ノ爲メ集合シテ王城内  
ニ入りタル事實ヲ指シタルモノニシテ、一個ノ事實ニ二個ノ罪名ヲ付シタルニ過ギズ。故ニ本  
件ニ於テ事件ト稱スベキハ明治二十八年十月八日ノ京城事變ニ關シ、被告人等ガ爲シタル所爲  
即チ檢事ノ所謂謀殺及ビ兇徒聚集ノ事實ナリ。此ノ事實ニ付テハ豫審判事ハ檢事ノ請求ニ因リ  
處分ヲ爲スノ權利ヲ得、義務ヲ負ヒタルモノナレドモ、謀殺、兇徒聚集ナル罪名ハ豫審判事ヨ  
リ之ヲ看レバ、檢事ガ豫審ヲ請求スルニ付キ其ノ事實ヲ指定スル爲メノ表示ニ過ギザルヲ以テ  
豫審判事ハ固ヨリ其ノ罪名ニ拘束セラレベキモノニ非ラズ。

例ヘバ檢事ヨリ窃盜ノ罪名ヲ以テ豫審ヲ請求シタル事件アリトセンニ、豫審判事ハ其ノ事實  
ヲ取調べタル上、被告人ノ所爲ヲ以テ強盜ナリトシ、豫審ヲ終結スベシ。特ニ窃盜罪ニ付キ免  
訴ノ言渡ヲ爲スベキモノニアラザルハ勿論、檢事ガ其ノ所爲ヲ以テ窃盜罪ト爲スノ不當ナルコ  
トニ付テモ亦説明ヲ要スルモノニアラズ。

又一例ヲ擧ゲンニ、人ノ家内ニ入りテ財物ヲ盜取シタル事實ニ付キ、檢事ヨリ家宅侵入及ビ  
窃盜ノ二罪ヲ以テ豫審ヲ請求シ、豫審判事ハ窃盜ノ一罪ヲ以テ罰スベキモノト思料スル場合ニ  
於テハ、特ニ家宅侵入ノ罪ニ付キ免訴ノ言渡ヲ爲スヲ要スルカ、右ノ如キ場合ニ於テハ豫審判

事ハ單ニ窃盜罪ナリトシテ豫審ヲ終結スベキモノニシテ、何人ト雖モ家宅侵入ノ罪ニ付キ免訴  
ノ言渡ヲ要スト主張スルモノナカルベシ。

前二條例ノ場合ニ於ケル決定果シテ前顯ノ如クナル以上ハ、特ニ本件ノ豫審終結ニ付キ非難  
ヲ爲スノ理由ナカルベシ。何トナレバ前二例ハ共ニ豫審判事ガ被告人ヲ有罪ナリトスル場合ニ  
シテ、本件ハ免訴ノ場合ナルニ因リ、其ノ點ニ付テハ差違ヒナキニアラザレドモ、豫審判事ハ  
事件ニ付キ豫審ノ請求ヲ受ケ、事件ニ付キ處分ヲ爲スベキモノニシテ、檢事ノ付シタル罪名ノ  
爲ニ拘束ヲ受クベキモノニ非ラズトノ點ニ至リテハ毫モ異ナル所ナケレバナリ。

試ミニ本件ノ豫審終結決定書ヲ看ヨ、其ノ冒頭ニ右岡本柳之助外四十七名ニ對スル謀殺及ビ  
兇徒聚集事件云々、檢事ノ請求ニ依リ豫審ヲ遂グル所云々トアルニアラズヤ、豫審判事ハ檢事  
ガ謀殺及ビ兇徒聚集ト稱スル所ノ結果ハ決定書ニ記載スル通りニシテ、豫審判事ハ決定書ニ記  
載スル如キ事實アルヲ認ムルト同時ニ、本件ニ付テハ決定書ニ記載スルヨリ以外ノ事實ナキコ  
トヲ認メタルモノナリ。而シテ決定書ニ記載スル所ニテハ兇徒聚集罪トシテ處罰スベキ事實ア  
ルヲ認ムルコトヲ得ズ、又謀殺罪ニ付テハ被告人等ニ於テ〇〇ヲ實行シタリト認ムベキ證據ナ  
キガ爲メ、豫審判事ハ該事件全體ノ處分トシテ被告人等ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲シタルナリ。然  
ルニ難者ガ事件ト檢事ノ付シタル罪名トヲ混同シ、豫審判事ガ兇徒聚集ナル罪名ニ付キ別段ノ



説明ヲ爲サルヲ見テ、事件ノ處分ヲ爲サリシモノトナスハ全ク豫審判事ノ職務ヲ解セザルモノト云ハザルヲ得ズ。

難者或ハ曰ハン、一個ノ事實ニ付キ二個ノ罪名ヲ以テ豫審ヲ請求シタル場合ニ於テ豫審判事ノ被告人ニ甲罪アリトシテ公判ニ付スルトキハ、乙罪ニ付キ免訴ノ言渡ヲ爲スコトヲ要セザレドモ、本件ハ甲罪ニ付キ公判ニ付セザル場合ナルヲ以テ、乙罪ニ付キ處分ヲ爲サルベカラズト、是レ亦非難ノ理由アルモノト認ムルコトヲ得ズ。何トナレバ一罪ニ付キ公判ニ付スル場合ニ於テ、起訴ノ罪名ニ拘ラザル可ラザル理由ナケレバナリ。若シ又難者ノ説ノ如ク檢事起訴ノ罪名ハ即チ一個ノ事件ナリトスルニ於テハ、甲罪ニ付キ公判ニ付シタリトテ乙罪ノ處分ヲ爲サル可ラズト云フニアラザレバ、其ノ論旨ヲ貫徹スルコトヲ得ズ。然ルニ甲罪、乙罪ト云フハ全ク罪名ノ區別ニ止マリ、其ノ實一個ノ事件ナルニ因リ其一部ヲ分割シテ各別ノ處分ヲ爲サントスルハ實際行ハルベキコトニアラズ。例ヘバ竊盜罪ニ付キ公判ニ付スル場合ニ於テ、其ノ手段タル家宅侵入ノ點ノミニ付キ免訴ノ言渡ヲ爲シ得ベシトスルカ、難者ト雖モ決シテ此説ニ同意スルコトヲ得ザルベシ。

之ヲ要スルニ檢事ヨリ二個各別ノ事件ニ付キ豫審ヲ請求シタル場合ニ於テハ、豫審判事ハ各事件ニ付キ處分ヲ爲スベキモノナレドモ、本件ノ如ク一個ノ事件ニ付キ二個ノ罪名ヲ付シタル

場合ニ於テハ、其ノ事件ニ付キ處分ヲ爲スハ當然ニシテ、固ヨリ其ノ罪名ニ拘ハルベキモノニアラザルナリ。



## 朝鮮ニ對スル我が政略宣告ノ件

朝鮮國ノ獨立ハ我が政府屢々之ヲ明言シタリト雖モ、過般京城暴動事件等モ有リタレバ、此際帝國ノ同國ニ對スル意思ト政略ヲ一層明瞭ニスルコト必要ナリト信ズ。依テ拙者ハ米國政府ニ對シ、我ニ野心ナキコトヲ宣言シ、遼東半島ノ占領軍隊ト連絡ヲ維持センガ爲メ、朝鮮ニ駐在スル我兵ハ遼東半島ノ撤兵ヲ待テ同時ニ朝鮮ヲ引拂フベキ旨陳述セント欲シタレドモ、右ハ公文ヲ以テ米國政府ヘ照會センヨリハ、寧ロ國務長官ニ面接シ口頭ニテ親密ニ宣言スル方却テ宜シカルベシト考慮セリ。拙者ハ三十一日國務省ニ到リ同長官ニ面會シ、先ヅ朝鮮國ニ對スル帝國ノ政略ニ付宣言スルヤウ特ニ政府ノ命令ヲ受ケタルコトヲ述べ、別紙ノ如キ書面一通ヲ同長官ニ交付シ、從來朝鮮國トノ關係及ビ交渉ノ模様等ヨリ、今回帝國政府ノ政略ニ付米國政府ニ宣言スルノ得策ヲ認ムルニ至リタル情勢ニ説キ及ボシタリ。其ノ大要左ノ如シ。

朝鮮ハ我國ト一葦帶水唇齒輔車ノ間柄ニシテ、同國ノ興亡ハ小ニシテハ我國ノ利害ニ

不少關係ヲ有シ、大ニシテハ東洋ノ亂階タルニ付、明治政府ハ同國ノ獨立ヲ鞏固ナラシムルノ方針ヲ執リ、去ル明治九年修好條規ノ締結ヲ始メトシ、諸外國ヲ誘ヒテ之ト條約ヲ締結セシムル等、全ク同國獨立ノ實ヲ擧ゲシムルコトヲ務メテ怠ルコトナシ。殊ニ我國ガ同國ニ有スル利益ハ同國外國貿易ノ八分ヲ占メ、航海事業ノ如キハ殆ンド我ノ獨有ニシテ、我ニ次イデ利益ヲ有スルモノ獨リ清國アルノミ。然ルニ朝鮮政府數百年來ノ積弊遂ニ腐敗ノ極點ニ達シ、大小ノ官吏勒索ヲ逞ウシ、民擾諸方ニ起リ、爲ニ我ガ臣民ノ生命財產共ニ數々危殆ノ位地ニ陥リタルコトアリテ、先キニ明治十五年、十七年ノ變アリ、後ニハ防穀事件、東學黨蜂起等ノ事變續發シ、我國ガ朝鮮ニ有スル利益ハ常ニ平穩ノ情態ニ安ンズルコト能ハザルノミナラズ、之ガ爲メ兩國政府ノ間ニハ條約違反等ヨリ生ズル交渉事件日々増加シ、京城駐在ノ帝國公使ハ政府ノ命ヲ奉ジ、正當ノ手段ニヨリ朝鮮政府ト協力シテ平穩ニ諸案件ヲ處分セントシタルモ、同國ノ官吏ハ上大臣ヲ始メ、下地方官ニ至ルマデ、國交ノ何タルヲ知ラズ、條約ノ重ンズベキヲ辨ヘザルニ付、徒ニ處分ヲ遷延シテ満足ノ救濟ヲ與ヘズ、兩國ノ關係ハ屢々切迫ノ情況ヲ呈シ、我が政府ニテモ不得止「リプライザル」ノ手段ヲ執ラザルヲ得ザルガ如キ場合ニ至リタルコトモ少ナカラズ、斯ノ如キ關係ニテハ到底同國ニ有スル利益ヲ充



分保護スルコト能ハザルノミナラズ、延イテハ東洋禍亂ノ原因トモナルベキニ付、帝國政府ハ昨年清國政府ニ提議シテ共ニ朝鮮ノ内政ヲ改革シ、同國ヲシテ獨立ノ實ヲ舉ゲシメ、内ニシテハ半島ノ平和ヲ保チ、外ニシテハ外國ノ侵略ヲ防グ丈ノ力アラシメントシタルニ、清國ハ故ナク之ヲ拒絕シタルニ付、我國ハ不得止單獨ニテ彼ニ内政改革ヲ勸告スルニ至リタリ。是レ全ク我國ノ利益ヲ保護セントシタルニ外ナラザルニ、或ハ我國ノ素志ヲ誤解シ、我國ハ口ヲ内政改革ニ藉テ其實之ヲ併吞シ、或ハ之ヲ己レノ保護國トナサントスルモノナリト云フニ至リテハ、我國ノ遺憾極マリナシ。然ルニ今回計ラズモ京城暴動ノ如キ痛嘆スベキ事件ヲ生ジ、我が官吏ニモ共謀ノ嫌疑アル位ニ付、此際各國ニ對シ我が政府ノ地位ヲ一層明白ニ表示スルコト必要トナリ、我國ハ更ニ朝鮮ニ他意ナキコトヲ宣言スルニ至リタル次第ナリ。

將又朝鮮國ニテハ一昨年來民擾殊ニ多ク發生シタルモ、朝鮮政府ニテハ之ヲ鎮壓スルノ力ナク、我が公使館並ニ人民ノ保護ヲ同國政府ニ委任シテ安ンズルコト能ハザルノミナラズ、亂民ノ鎮撫方サヘ同國政府ヨリ依頼アリタル位ニ付、我が政府ニテハ相當ノ兵ヲ朝鮮ニ派遣シテ、爾來同國ニ滞在セシメタリ。此外昨年我が兵遼東半島ヲ占領セシヨリ以來、本邦ト交通ノ連絡ヲ維持センガ爲メ、朝鮮内地ニ相當ノ兵ヲ駐在セシ

メタルニ、此等ノ兵卒ノ朝鮮ニ駐在スルニ對シ、多少ノ疑念ヲ挾ムモノアル様子ナレドモ、其駐兵ノ目的ハ前陳ノ趣意ニ外ナラザレバ、我が政府ニテハ清國ヨリ償金ヲ得テ遼東ヲ撤回スルノ曉ハ、自然遼東占領軍隊トノ連絡ヲ維持スルニ必要ナルノ兵モ不要ニ屬スルニ付、此ノ目的ニ要スル兵卒ハ遼東ノ撤兵ヲ待テ同ジク朝鮮ヲ撤回スルニ至ルベシ。

國務長官ハ拙者ニ對シ、我が政府ガ此ノ如ク明瞭ニ對韓政略ヲ宣言スルニ至リタルハ、米國政府ノ大ニ満足スル處ナル旨ヲ述べ、早速大統領ニモ通知スベキ旨返答セラレタリ。

又國務長官ヨリ右宣言ノ趣旨ハ帝國政府ノ方針ヲ明示シ、之ヲ公ニスル上ハ公衆一般ノ誤解且ツ疑念ヲモ消滅シ、利益尠カラザルニ付、寧ロ之ヲ公ニシテハ如何トノ問合セモアリタレバ、拙者ハ素ヨリ國務省ヨリ之ヲ公ニセラル、コトニ付テハ異存ナキ旨ヲ答ヘタリ。同長官ハ之ヲ翌金曜日ノ內閣會議ニ於テ報告シタル後、各新聞ニ登載セシメラレタリ。然ルニ右ハ單ニ國務長官ニ交付シタル宣言ノ寫シノミニシテ、充分我が政府ノ本旨ヲ盡サル所アリタレバ、當地 United Press 及 The Associated Press ノ兩新聞通信社ニ談ジ、念ノ爲メ別紙ノ通り當國各新聞ニ掲載セシメ置キタリ。

明治二十八年十一月五日

朝鮮ニ對スル我が政略宣告ノ件



於華津頓

栗野慎一郎

## JAPANESE LEGATION

Washington D. c.

Japanese Government having secured Korean Independence repeatedly in unmistakable language announced their recognition of such independence. But in view of recent deplorable incident in Corea it seems desirable that Japanese Government should state to Powers having treaties with Corea with great precision their intention and attitude respecting Corea. Accordingly you are hereby authorized to declare to the Government to which you are accredited Japanese troops stationed in Corea to maintain indispensable Japanese lines of communication through Corea with 奉天 peninsula now in the possession of Japan and to insure tranquility and protect our Legation, consulates and subjects. Troops employed in Protecting lines of communication comprise larger portion of troops in Corea. Necessity for

those troop will cease with Japanese evacuation of 奉天. They will then be withdrawn Japanese Government hope that work of reform having been set in motion will progress and consequently that Corea will shortly be able to maintain order and protect foreigners in the event troops in Corea for those purpose will be recalled. Japanese Government being absolutely all free of any ulterior designs in Corea have no wish to prolong stay of troops there. On the contrary they will be highly ? on many grounds when relieved of all responsibilities in that direction. In the present situation as far as administrative affairs are concerned policy of Japanese Government is one of non-interference and they will gladly share equally with treaty powers attitude of expectancy. You will understand that this declaration was to define our attitude towards Corea and to remove suspicion of others and that we do not wish to create new complications.

Nissi Re'ed 6.15 p.m, Oct. 30. '95

In regard to our attitude in Corea you are authorized to declare to the following effect to the Government of the United States; Japanese troops are now stationed in Corea to



insure tranquility as well as to protect our Legations, Consulates and subjects, and also to maintain the indispensable lines of communication with our army which are in occupation of Liao Tung Peninsula, the troops intended for the latter purpose are much larger in number. The necessity of keeping such troops will however cease at the same time with the evacuation of Liao Tung Peninsula and so much of the troops with then be withdrawn from Corea. Japanese Government hope that Corea Government having already treated upon the work of reforms they may succeed and be able to maintain order and even protect foreigners though our troops be withdrawn.

Japanese Government, having no other designs, are not desirous to prolong the maintaining of our troops in Corea. Furthermore we should be extremely gratified if we were relieved from such obligation. In our relation with Corea the policy of our Government is one of non-interference and our Government will gladly share equally with other Powers in the Same line of actions.

## 李 竣 鎔 留 學 ノ 件

客歲十月八日ノ事變後、李竣鎔氏ハ直チニ日本へ留學致スベキ筈ニテ、旅裝ヲ整ヘ一時ハ城外ナル孔德里ニ出テ船便待合セ中ナリシモ、各國使臣間ニハ同事變後今ニ人心不穩ノ折柄、宗族ノ臣ニシテ他國ニ出遊スルハ不可ナリトノ異議ヲ容ル、モノ有之哉ニ聞知セシヲ以テ、内々自分ヨリ金外部ニ向ツテ當分中止スル方可然トノ勸告ヲ爲シ、英領事「ヒリヤ」總稅務司「ブラオン」ノ二氏モ李宮内、金外部等ニ同様ノ注意ヲ爲シタル趣ニテ、李氏ハ遽ニ孔德里ヨリ呼ビ還サレ、當分ノ中日本留學ヲ見合スベシトノ事ニテ、當時同氏ハ頗ル不平ヲ唱ヘタル由ナレドモ、事情不得已ト先ヅ中止スルコトニ決セリ。爾後同氏ハ雲峴宮ニ閑居シ、切ニ留學ノ時期ヲ俟チ居リタルニ、十一月二十八日ノ事變後、各國使臣ノ現政府非難運動ハ頓ニ息ミ、隨ツテ十月八日事變ノ感情モ大ニ薄ラギ、内閣ノ地位モ稍ヤ平常ニ歸シタルヨリ、内閣員ノ杞憂ハ又一ニ李竣鎔ノ舉動ニ注目セラル、ニ至レリ。於是自分ハ十二月中旬金外部大臣ニ向ツテ最早



李氏ノ留學ヲ實行スルモ敢テ妨ゲナカルベシト信ゼラルル旨勸告シ置キタルニ、其後政府ハ李宮内大臣ノ希望ヲ容レ、李竣鎔ヲ以テ日本駐劄公使ニ任ズベキ事ニ内議整ヒ居ル由ニテ、金外部ヨリ自分ニ向ツテ意見問合セアリタリ。仍テ自分ハ之ニ對シ未ダ廣島裁判事件モ終結前ト云ヒ、旁タ今日ノ處ニテハ時機尙ホ早キ感アレバ、先ヅ留學トシテ一應日本ニ赴キ、其中時機ヲ見計ヒ、公使ニ引キ直ス方我が政府並ニ一般ノ感情モ宜シカルベシト答ヘ、尙ホ又李宮内大臣ニモ同様ノ勸告ヲ爲シ置キ、一面ニハ大院君執事鄭某ヲシテ直ニ李竣鎔ニ向テ自今ノ行掛リ上駐劄公使ト云フヨリ寧ロ留學トシテ渡航スルコトノ極メテ穩當ナル旨ヲ勸告シタルニ、同氏ハ之ニ同意ヲ表シ、斷然留學ノ事ニ決行スベケレバ、船便等ノ世話ヲ致シ吳ル、様トノ返辭ヲ申送レリ。然ルニ大院君初メ李載冕氏ニハ多少時日ヲ遷延スルモ是非公使トシテ赴カシメ度トノ希望ヲ抱クモノニシテ、容易ニ李竣鎔氏ノ留學ヲ容ルベキ氣色見エザルヨリ、同氏ハ出發ノ期ヲ秘シ置キ、内々諸般ノ準備ヲ整ヘ、出立前晚ニ於テ大院君、李載冕ニハ唯ダ一言ノ別辭ヲ告ゲ直ニ翌朝渡日（十二月二十五日）ノ途ニ上リタル次第ナリ。

右李竣鎔氏ニ對スル現内閣ノ意向ハ廣島裁判事件ノ落着シタル上、我が政府ノ感情如何ヲ考ヘ、都合次第ニテハ駐劄公使ヲ命ズベシトノ事ニ内評議整ヒ居ルモノナレバ、現任金嘉鎮氏モ薄々此ノ事ヲ聞知シ、先頃辭表ヲ提出シタリ。

明治二十九年一月二十二日

於朝鮮

小村 壽太郎



## 伊藤侯爵「ヒトロヴオ」氏ト會談要略

明治二十九年三月四日

千八百九十六年三月五日內閣總理大臣官邸ニ於テ

先ツ互ニ通常ノ挨拶アリタル後、「ヒトロヴオ」氏ハ伊藤侯爵ニ謂テ曰ク、嘗テ閣下ハ朝鮮問題ニ關シテ長時間ノ會談ヲ爲シタリシガ、其後朝鮮ニ於テ遺憾ニ堪ヘザルノ事件發生シタリ。是レ實ニ露國政府ノ大ニ驚駭シタル所ノモノナリ。而シテ其ノ特ニ驚駭シタル所以ノ事情アリ、是レヨリ前、余ハ嘗テ閣下ト會談シタル要旨ヲ露國政府ニ電信ヲ以テ報告シ置キタレバ、同政府ハ固ヨリ絶東ニ於テ新問題ノ醸生スルヲ好マザルガ故ニ、京城駐劄露國公使ニ向テ訓電ヲ發シ、以テ新事件ノ發生ヲ避クベキ旨ヲ命令セリ。然ルニ不幸ニシテ電線ニ故障アリタルガ爲メ、此ノ訓令ノ京城ニ到達スルニ先ンジテ既ニ業ニ今回ノ事變ヲ見ルニ至レリ。

伊藤侯爵ハ之ニ答ヘテ曰ク、余モ亦今回ノ事變ニ關シテ大ニ驚駭シタリ。然レドモ朝鮮ヨリ接到シタル最近ノ報道ニ依レバ、京城ハ已ニ靜謐ニ復シタルガ如シ。是レ余ノ甚ダ喜ブ所ナリ。且ツ又閣下ノ懇篤ナル協力ニ因リ、日露兩國政府ノ間ニ於テ意見ノ融合ヲ見ルノ望ミアルコト余ノ満足スル所ナリ。

「ヒトロヴオ」氏曰ク、兩國政府ガ各其ノ在京城公使ニ向テ發スル訓令ニ關シテ互ニ一致スルコトヲ得タルハ余モ亦幸トスルモノナリ。然レドモ前述ノ訓令ハ單ニ假設的措置ニ止マルガ故ニ、更ニ全體ノ問題ニ關シテ兩國政府ノ間ニ意見ノ融合ヲ試ムルコト最モ緊要ナリ。而シテ此ノ事ニ關シテ余ハ前回ノ會談ニ於テ閣下ノ注意ヲ請ヘリ。余ノ推考スル所ニ依レバ、山縣大將ハ實ニ此ノ件ニ關シテ使命ヲ負ハレルガ如シ。余ハ同大將ノ到着ニ先ツコト少ナクトモ一ヶ月前ニ露國ニ歸着スルノ豫定ナルヲ以テ、其ノ到着前ニ之ニ對スル準備ヲ爲サンコトヲ欲ス。故ニ豫メ其ノ使命ノ要點ヲ教示セラレンコトヲ望ム。

伊藤侯爵曰ク、山縣大將ハ實ニ本件ニ關シテ特ニ使命ヲ帶ブルモノナリ。而シテ同大將露國到着ノ上ハ、其ノ外務大臣ト互ニ意見ヲ交換シ、兩國政府ノ間ニ以テ融合ノ結果ヲ見ルニ至ラント余ノ切望スル所ナリ。嘗テ閣下ガ西園寺侯ト會談セラレタル如ク、余モ亦朝鮮ハ他國ノ援助ヲ得ルニアラザレバ到底獨力ヲ以テ存在スルヲ得ズトノ意見ヲ有スルモノナリ。就テハ此



點ニ關シテ日露兩國ノ間ニ於テ意見ノ融合ヲ計ルコト必要ナリ。閣下若シ此ノ問題ニ關シテ高論ヲ垂示セラルレバ幸甚ナリ。

「ヒトロゾオ」氏曰ク、已ニ西園寺侯爵ニ向テ陳述シタル如ク、卑見ニ依レバ朝鮮ハ自立ノ能力ヲ有セザルガ故ニ、其ノ存立ニ關シテハ露日兩國ノ間ニ於テ協同ノ方策ヲ商定センコト余ノ最モ切望ニ堪ヘザル所、余ハ已ニ閣下ニ對シテ數回斷言シタル如ク、朝鮮ニ關スル露國ノ希望ハ唯ダ同盟國ガ他國ノ爲ニ露國ニ對スル反抗ノ武器トシテ使用セラレザルニ在リ。

伊藤侯爵曰ク、露國ノ目的ヲシテ果シテ貴諭ノ如シトセバ、兩國ノ間ニ意見ノ融合ヲ得ルコト敢テ難キニアラザルベシ。余ハ既ニ閣下ニ向テ陳述シタル如ク、日本ハ嘗ニ朝鮮ニ對シテ何等侵略的意志ヲ懷カザルノミナラズ、同國ニ於テ勢威ヲ壟斷スルノ目的ヲ有セザルナリ。事情已ニ斯ノ如クナルニ於テハ、朝鮮問題ニ關シテ兩國政府ノ間ニ意見融合ノ基礎ヲ發見スルコト決シテ至難ノ業ニアラザルベシ。

「ヒトロゾオ」氏曰ク、余モ亦兩國ノ間ニ意見ノ融合ヲ見ルコト難カラズト思惟セリ。卑見ニ依レバ朝鮮問題ハ全體ノ絶東問題ト密接シテ相離ル、ヲ得ザルモノタリ。而シテ露日兩國ノ利害ハ毫モ相互ニ衝突スルトコロナキガ故ニ、朝鮮問題ニ關シテ兩國ノ間ニ融合ヲ見ルヲ得ザルノ理ナシ。

伊藤侯爵曰ク、此ノ點ニ關シテ余ハ全然閣下ト見解ヲ同ウセリ。朝鮮問題ヲ外ニシテ苟クモ兩國ノ間ニ相衝突スル虞レアル問題ナシ。而シテ此ノ問題ニ關シテモ既ニ其ノ大體ニ於テ意見ノ相異ナルモノナキニ於テハ、兩國ノ間ニ意見ノ融合ヲ得ルコト易々タルノミ。閣下聖彼得斯堡府ニ歸着ノ上ハ、山縣大將ヲシテ其ノ使命ヲ果サシメンガ爲メ高配アランコトヲ望ム。

「ヒトロゾオ」氏曰ク、是レ實ニ余ガ從來執リ來リタル方針ニシテ、今後モ敢テ之ヲ變ズルコトナカルベシ。卑見ニ依レバ露韓兩國政府ハ日本政府ガ某ノ措置ヲ取ランコトヲ切望セルガ如シ。而シテ日本政府ニ於テモ敢テ此ノ措置ヲ取ルコトヲ拒マザルベシト雖モ、如何ニセン此ノ措置ヲ決行スルニ於テ、國民ノ感情ヲ害シ容易ナラザル困難ヲ生起スベシ（氏ノ所謂某ノ措置トハ在韓日本兵ノ引揚ナルコト明瞭ナリ）、故ニ此ノ問題ニ關シテハ用意最モ慎重ナルヲ要セリ。日本政府ガ如何ニ困難ナル位置ニアルカヲ知ラント欲セバ、其ノ國內ノ事情ヲ參酌セザルベカラズ。余ハ此等ノ事情ニ通ズルガ故ニ、聖彼得斯堡府ニ於テ多少ノ益ヲ爲スコトヲ得ベシト信ゼリ。是レ實ニ露國政府ガ余ニ暫時出發ヲ延引スベシト請求シタルニ拘ラズ、強ヒテ今回歸國ノ認許ヲ得タル所以ナリ。若シ「スバイエル」氏ノ到着時期ニ後ル、トキハ、「ド、ヴォルラント」氏ヲ代理公使トシテ止メ置クノ認許ヲ得タリ。然レドモ余ハ「スバイエル」氏ガ明六日ヲ以テ東京ニ着スルノ電報ヲ得タレバ、閣下ハ朝鮮問題ノ細目ニ關シテ氏ト協議セラル、ヲ



得べシ。

伊藤侯爵曰ク、余ハ閣下ノ好意ヲ謝シ、併セテ閣下ガ日本政府ノ真意ノアルトコロヲ貴國政府ニ申告セラレンコトヲ望ム。閣下ガ陳述セラレタル某ノ措置ニ關シテハ、閣下ガ諒知セラルル如ク、目下ノ情態ニ於テハ漸ヲ以テ決行スルノ外ナシ。而シテ朝鮮問題ノ細目ニ關シテ余ハ親シク「スバイエル」氏ヨリ朝鮮ニ於ケル實際ノ形勢ニ付其ノ説ヲ聞キ、以テ利スル所アルヲ疑ハズ。

「ヒトロヴォ」氏曰ク、余ハ兩國政府ノ間ニ意見ノ融合ヲ得ルガ爲メ全力ヲ盡スコトヲ辭セザルナリ。

## 朝鮮新政府ノ現況

曩ニ新内閣ハ廢立ヲ謀ルトノ逆名ヲ前内閣ニ負ハセテ之ヲ顛覆シ、剩サヘ十月八日事變ノ復讐トシテ金總理、鄭農商工部ヲ慘殺シタル上、尙ホ目下逃亡中ノ趙義淵以下親衛隊ノ隊長等ヲ追捕スベキ嚴令ヲ下シタル趣ハ前來詳述セシ通りニシテ、此外金外部、魚度支部等ニ至テハ只ダ其ノ日本黨タルノ故ヲ以テ、縦ヒ公然之ヲ死ニ陥ラシムル様ノ事ハ爲シ得ザルモ、秩序紊亂ノ此際ニ當テ、或ハ暗殺等ノ危険ナシトモ測ラレザルベシト想像セシニ、果セル哉前内閣ノ度支部大臣魚允中氏ハ京城ヲ辭シ郷里報恩（忠清道）ニ歸ヘルノ途次、去ル十九日龍仁ニ於テ遂ニ暴客ノ爲ニ毆殺セラレタルハ實ニ浩嘆スルニ堪ヘタリ。

抑モ李範晉等數輩ニ在テハ謀計成就ノ餘勢、金總理ハ勿論都テ日本黨タル前内閣員ハ一人モ漏ラサズ悉ク刀下ノ鬼ト爲シ、以テ異日恢復ヲ受クルノ禍根ヲ除カンコトハ固ヨリ其希望スル所ニ相違ナカリシモ、一ハ過激ノ舉動或ハ他ノ詰責ヲ受ケンコトヲ恐ル、ト、一ニハ徐載弼、



尹致昊ノ輩内ニ在テ其不可ナルヲ主張シタルトニ因リ、已ムヲ得ズ弒後ニ關スル重ナル人々ノミヲ處刑センコトヲ明示シタルニ過ギズ。而シテ其内心ニ於テハ決シテ之ニ甘ゼザルハ亦掩フベカラザル事實ナリトス。

始メ事變ノ當日ニ在テ金外魚度支部ハ各々決心シテ其邸宅ニ蟄居シ、靜ニ王命ノ下ルヲ待チ居リシモ、爾後別ニ逮捕ノ命ナカリシカバ、魚氏ハ其寧ロ京城ニ在テ轉變ノ状態ヲ眼前ニ見聞スルニ忍ビズ、遂ニ京城ヲ辭シテ故郷ニ閑居セント過日先ヅ廣州（京城南五里）ナル親戚ヲ訪ヒ、逗留五日出テ歸郷ノ行程ニ登リ、此日龍仁ニ宿シタリ。然ルニ此地ノ舊家ナル安、鄭二氏アリテ、魚氏ノ投宿シタルヲ聞クヤ、郡守ニ迫テ國賊タル魚氏ヲ切害スベキ由ヲ以テシタルモ、郡守ハ其未ダ政府ノ令達ニ接セズトテ之ヲ肯ンゼズ、却テ窃カニ魚氏ヲシテ速カニ此地ヲ去ルノ安全ナル旨ヲ通ゼシメタリ。此ニ於テ魚氏ハ翌朝同地ヲ發程スルヤ、途ニ暴徒ニ遇ヒ、遂ニ毒手ノ下ニ毆殺セラレタリト云フ。一説ニハ彼ノ安、鄭二氏ハ即チ李範晋ノ近親ニシテ、曾テ魚氏暗殺ノ意ヲ受ケ居リタレバ、此ニ至テ暴民ヲ語合ヒ途ニ要シテ初志ヲ遂行シタルモノナラント。

然レドモ現内閣ハ大ニ同氏ノ横死ヲ惜ミ、其屍體ヲ取り斂メ、厚ク葬榮ヲ營ムベキヤウ其筋ノ官吏へ命令シタリト、右ハ去ル二十日國分通譯官親シク李完用ヨリ聽キ取りタリト云ヘバ、

或ハ確實ナルベシ。

近日金允植ニ面會シタル人ノ直話ナリト云フヲ聞クニ、同氏ハ金弘集、魚允中氏等ガ前後慘死ヲ遂ゲタルヲ聞キ、慨嘆ノ餘リ茫然トシテ知覺ヲ失シタルガ如キ有様ニテ且ツ曰ク、金氏、魚氏ノ姿宛然目前ニ在リテ少間モ兩氏ヲ忘ル、コト能ハズト、以テ同氏ノ心情ヲ察スルニ足レリ。然カルニ新内閣ハ金氏ヲ推薦シテ外部大臣ニ任セントスルノ意アリト、知ラズ金氏能ク之ニ應ズルヤ否ヤ。

新任總理大臣金炳始氏ガ勅命ヲ辭シタル概略ハ既報ノ通りナルガ、尙ホ其詳細ノ情形ヲ聞クニ、抑モ同氏ハ爲人正廉潔白ニシテ、多年顯職ニ就キ居リテ朝野ノ輿望家タリ、依テ新内閣ハ先ヅ此人ヲ總理大臣ニ舉ゲ、以テ衆望ヲ繫ガンコトヲ希圖シタルニ、詎ゾ料ラン、同氏ハ露館ニ在テ國王ニ拜謁シタル時奏シテ曰ク、陛下ガ前大臣金弘集、鄭秉夏ニ對セラル、御處置ヲ見ルモ實ニ痛嘆ニ勝ヘザルモノアリ、老臣モ他日又金、鄭兩氏ノ轍ヲ蹈マザルコトヲ必スベカラズ、殊ニ此恩命モ大闕内ニアラバ兎ニ角、此館ニ在テハ斷ジテ勅命ヲ奉ズルコト能ハズト涙ヲ拂テ御前ヲ退出シ、控所ニ休憩シタリ。此時李載純入り來テ再ビ勅狀ヲ交付セントスルヤ、同氏詰テ曰ク、君ハ何人ナルヤト、李ハ宮内府大臣ナリト答ヘシニ、同氏曰ク、余ハ陛下ノ面前ニ於テスラ尙ホ且ツ斷然之ヲ辭シタルニ、假令宮内府大臣持チ來リタリトテ何ゾ之ヲ受クルノ



理アランヤト勵聲叱斥セラレ、李ハ悄然トシテ立ち出デ之ヲ國王ニ奉還セリト云フ。

左ナキダニ威信ナク名望ニ乏シキ李範晋等數輩ハ、金氏ニサヘ見放サレ、只ダ失望ノ外ナク、去リトテ國王ヲ奉ジテ宮闕ニ還ランカ、從來王宮ノ守衛タリシ親衛隊ハ頼ミトスルニ足ラズ、又親衛隊モ更ニ新政府ニ歸伏スルモノナク、頃日ハ漸ク脱營スルモノサヘアルニ至リシ位ナレバ、此上更ニ新兵ヲ募集スルモ急ニ熟練ナル軍隊ヲ作り出ス暇モナク、況ンヤ目下差當リ之ヲ引率シテ護衛ノ任務ヲ盡シ得ベキ將校ナキニ於テオヤ。又露兵ノ王宮護衛ヲ依頼センカ、露公使ニ於テハ過日余ガ報告セシ如キ事情モアレバ、勿論之ヲ肯諾スベシトモ思ハレズ。此ノ如キ有様ナルヲ以テ今日ノ處ハ只々國王ヲ奉ジテ露館内ニ立籠リ、以テ目前一日ノ安寧ヲ圖ルニ孜孜トシテ、更ニ善後良策ノ出ヅルトコロヲ知ラズト云フ。

頃日或人適々現學部協辦タル尹致昊氏ト會談セルニ、彼曰ク、嗚呼我國ハ早ヤ亡國ト爲レリ。恐ラクハ救濟挽回ノ道ナカルベシ。蓋シ今回陛下當館ニ移御アルヤ、元ヨリ我國ハ保護ヲ露國ニ依頼シタルト異ナルコトナシ。故ニ露國ハ先ヅ現政府ヲ扶植シテ以テ其志ザストコロヲ達セシコトニ努ムルハ普通一般ノ道理ナルベキニ、露公使ハ乃チ然ラズ、今日ニ至ルマデ少シモ干渉スルトコロナク、又自國ノ利益ニ關スルコトハ一トシテ注文ケ間敷事ヲ提出シタルコトモナク、適々重要事件ニ付其ノ如何ニ處スベキヤヲ諮詢スルモ、曰ク、此レ貴國ノ内政ナリ、吾々

ノ容喙スベキ所ニアラズ、公等熱圖シテ後ニ行ヘト、此ノ如ク不即不離ノ間ニ其目的ヲ達スルノ手段ヲ運ラスニ在ルハ實ニ感ズルニ餘リアリ。此レ即チ我國亡ビタリト云フ所以ノ一ナリ。而シテ我が新内閣員ノ舉動ヲ見ルニ、李範晋ハ今回ノ首謀者トシテ自ラ功臣第一ト稱シ、威權ヲ擅マニシ、殆ンド眼中人ナキガ如キ有様ナリ。(李範晋ハ去年十一月二十八日ノ事變ニ、宮闕ノ高牆ヲ飛び越ヘ逃亡シタル際、一脚ヲ挫キ今ニ拐杖ニ倚テ歩行セリ。又常ニ知人ニ對シテ此度ハ漸ク以前ノ仇ヲ報フルヲ得、斯カル愉快ノコトナシ、此上ハ國亡ビテモ更ニ遺憾トスルトコロナシト云ヒ居ル由)李完用、允李用ノ輩ニ至テハ亦李範晋ト相拮抗シ、互ニ權勢ヲ競ヒ、新内閣組織以來僅カニ一句ニ達セズシテ最早暗ニ讒ヲ君前ニ構ヘ、互ニ相陷擠セントスルノ傾キアリ。此レ我國亡ビタリト云フ所以ノ二ナリト、(李夏榮ノ直話ニ據ルモ殆ンド尹氏ノ言フ所ニ吻合セリ)。

之ヲ要スルニ目下京城内官民多數ノ意嚮ハ望ヲ新政府ニ屬セズ、各々一身ノ安全ヲ謀ルコトノ外更ニ爲ストコロナク、最早國ハ亡ビタリトマデ聲言シ居レリ。加之、各地ニ蜂起セシ暴徒ハ元ト李範晋等ガ春門ニ暴民ヲ煽動シタルニ始マリ、漸々各地ニ蔓延シタルモノニシテ、其ノ唱道スルトコロハ執レモ國母ノ復讐、或ハ斷髮令反抗等ヨリ延イテ日本人排斥ニ及ボシタルニ外ナラズ、而シテ李範晋等ハ此間ニ在テ謀計ヲ運ラシ、遂ニ其ノ目的ヲ達シ得タルモ、其ノ結



果トシテ國王、世子ヲ露館ニ入ラシメタルノ一事ハ、暴徒ニ於テモ最モ憤慨スルトコロタルハ言ヲ俟タズ。故ニ目下新政府ハ、頻リニ暴徒安撫ノ詔勅ヲ發シ、又ハ宣諭使ヲ派遣スル等一日モ速カニ鎮靜ニ歸セシメンコトヲ努ムルモ、今ハ都テ其効ナク、暴徒ハ追々京城ニ迫リ來ルノ情況アルヲ以テ、之ヲ察スルニ但ニ日本人排斥ニ止マラズシテ、或ハ新政府ニ對シテモ其罪ヲ鳴ラシ攻撃ヲ爲スニ至ルハ亦タ免ルベカラズ。所謂飼犬ニ我手ヲ噬マル、ト一般ノ困難ニ陥ルモ亦遠キニアラザルベシ。

目下京城ヲ去ル遠キハ二十里内外、近キハ六七里ノ地、即チ東南ハ驪州一帶、東ハ春門（過日親衛隊引揚後暴徒又々同地ニ聚マリタリト云フ）、此ハ楊州、漣川、鐵原、西南ハ果川、安山等ノ地方ニ蜂起セル賊徒勢ヒ甚ダ猖獗ナリ。依テ新政府ハ鎮壓ノ爲メ楊州、抱川方面ニハ江華兵若干ヲ差向クル筈ナリト云フ。又先般來騷亂地方ノ官吏ニシテ賊ノ爲メ殺害ニ遇ヒタルハ、丹陽郡守權瀟清、風郡守徐相夔、江陵觀察使李暉ノ三氏ニシテ、又難ヲ免カレ京城ニ逃ゲ來リタルハ楊州牧師申泰休、漣川郡守趙某ナリトス。又兩三日前忠清道忠州ニモ暴民蜂起シ、觀察使金奎軾爲ニ殺害セラレタリト云フ。

現ニ過日元山港へ向ケ差立タル日本公使館ノ飛脚ハ途中賊ノ爲ニ捕ハレ、携帯ノ公信ヲ搜索サレタル末、目下鐵原ノ牢獄中ニ繋ガレ居リ、多分殺害ニ遇フベシトノ確報アリ。又其後引繼キ元山へ派遣セル飛脚モ永平ニ於テ賊ノ爲ニ毆打セラレ、携帯ノ書翰ダケハ藏シ終フセタルモ、旅費、携帯品ハ盡ク掠奪サレ、這々ノ體ニテ歸京シ、又第三回ニ派遣シタル飛脚モ途中平江ニ至リ到底通過スルコト能ハザリシトテ昨日歸京セリ。

今般新政府ハ暴民安撫ノ爲メ別紙ノ如キ詔勅ヲ發表シタル外、更ニ内部大臣ヨリモ訓示ヲ發シ、尙ホ正二品崔益鏞ヲ以テ宣諭大員トシテ各府郡へ出張セシメタリ。又去年十一月二十八日事件ニ關シ處刑セラレタル林最洙、李道徹兩人ハ冤死ナリトノ理由ヲ以テ其官爵ヲ復セラレタリ、昨二十三日新内閣ニハ別紙ノ通り交迭アリタリ。惟フニ警務使タリシ安駟壽ハ前内閣員ノ餘黨又ハ大院君一派ノ人々ヲ芟除スルノ餘リニ急ナルハ、現内閣ノ爲メ得策ニアラズトノ意見ヲ抱キ居リタルト、且ツ一方ニハ反激ノ爲メ一身ノ危害ヲ招クノ恐レモアレバ、從來穩和ヲ主張シ來リタルモ、李範晉等ハ到底其餘黨ノ爲メ再ビ顛覆セラレンコトヲ慮カリ、遂ニ今回安ノ警務使ヲ罷メ、本自ラ法部大臣ト警務使ヲ兼ネ、大ニ一網打盡ノ手段ヲ取リタルモノト察セラレ。即チ昨日早朝ヨリ警務廳ノ手ニテ權溧鎮ノ實兄權溶鎮及ビ其妹婿李起鎮（大院君ニ昵近シタル者ノ由）、前宮府内秘書課長鄭萬朝及ビ其弟鄭內朝、宮内司長徐周輔、前法部協辦鄭寅興、（十一月二十八日事變ニ關スル犯罪人ノ審判ニ關シタル故ニ因ルモノ乎）、李台瑣（前訓練隊第一大隊長李斗瑣ノ弟）、禹洛善（同上第二大隊長禹範善ノ弟）等七名ヲ捕縛シ、此外侍從李範疇、



鄭雲鳴、宮内府司長林昌洙、宮内參理官全峻基、並ニ鄭日斌等モ續々逮捕セラレタリト云ヘバ、前内閣員ノ股肱タリシ前外部交渉局長陸鍾允、刑事局長趙重應、内部衛生局長金仁植ノ輩モ恐ラクハ遂ニ免ル、コト能ハザルベシ。

明治二十九年二月二十四日

在京城

小村壽太郎

(參照)

勅諭

嗟呼爾大小民人等ハ朕ガ詔ヲ明聽スベシ、此頃爾等ノ義ヲ起スハ豈他意アラシヤ、亦惟ニ國家ノ爲ニ亂臣賊子ヲ聲討スト曰フナリ、是レ爾等ノ彝情ニ出デ、且ツ我ガ祖宗ノ朝培養作成ノ澤頼ル姿行ノ失ナキニ非ラズト雖モ、顧フニ其心豈嘉尙セザランヤ、然ルニ天道淫ヲ禍シ、亂

臣戮ニ就キ、餘魁奔竄シテ已ニ盡クルハ此レ實ニ在天祖宗ノ默佑ニ憑仗セリ、邦籙ヲ萬億斯年ニ引長シ、神人ノ憤ヲ快雪ス、豈ニ休ニ非ラズヤ、爾民人等外郷ニ在リテ此快報ニ聞知スルニ及バズ、或ハ塗聽ノ信ズルニ足ラザルヲ以テ今尙ホ解歸セズ、故ニ茲ニ内部ニ勅シテ官員ヲ別派シ、詳細ニ爾民人ニ諭知セシム、現今ノ形勢ヲ度リ朕ガ苦衷ヲ察シ、即日相率キテ退イテ舊業ニ安ゼヨ、朝廷仁義ノ道ヲ以テ爾民人ヲ責ム、爾民人想フニ應ニ聞クコトヲ樂ムベシ、若シ爾等遲疑因循シテ義ヲ擧グルノ初心ヲ變ジ、梗化ノ悖習ヲ肆ニセバ是レ爾等ガ命絶ユルノ秋ナリ、王帥ノ向フ所必ラズ饒貸ナシ、爾等恫ノ己ニ在ルガ如キノ心ヲ體シテ憂ヒテ君父ニ貽スルコトナカレ。

建陽元年二月十八日

内閣總理大臣署理内部大臣 朴定陽

内部大臣 朴定陽



(參照)

訓示

嗚呼過境ノ劫運ハ何ゾ言フニ忍ビンヤ、梟獍廷ニ盈チ鬼蜮毒ヲ肆ニス、太陽薄蝕ニシテ大晝  
ナホ晦冥ナリ、凡ソ我環玉東土三千里ニ含生スル倫共ニ誰カ髮指シ眦裂ケテ聲討スルヲ思ハザ  
ランカ、之レ四方風動シ義ヲ舉グルモノ雲興スル所以ノモノナリ、今ヤ天威震懼シ凶逆掃蕩ト  
ナリシニツキ逆ヲ討ツ事更ニ義舉ヲ待タザルナリ、斷髮ノ件ハ其便ニ從フヲ許セシヲ以テ義舉  
ト稱スルモ名ナキナリ。

我 聖上陛下ハ民人ノ情ヲ察セラレ、丹綸十行辭旨懇ニ至ル、民人等ニ在ツテハ豈幸榮ナラ  
ザラン、豈感激ナラザラン、唯ダ勸ム敕使到ルノ日、械ヲ釋キ、隊ヲ解キ、家ニ歸リテ業ニ安  
ゼヨ、若シ別事ニ稱托シテ王命ヲ拒逆セバ、是レ民人等ノ罪戾自ラ速カニスルモノニシテ、其  
ノ懲辦ノ道ハ既ニ聖諭ニ詳カナレバ、本大臣ハ茲ニ贅陳セズ、大抵良莠ノ分ト禍福ノ機一念轉  
移ニアリ、慎旃慎旃スルヲ可トス。

建陽元年二月十八日

內部大臣 朴 定 陽

(參照)

開國五百四年十月十一日ノ事ハ倡義復讐スルコトヲナセシモノナレバ、妄動ノ失ナシトスル  
モ寤原スルコトアルベキニ、凶黨ノ構捏ヲ被リ冤死ニ至リシハ豈慘惻ナラズヤ、流配及ビ懲役  
ニ處セラレタル諸罪人ハ既ニ放釋セラレタリ、林叡洙、李道徹モ並ニ其官爵ヲ復セ。

建陽元年二月二十日

內閣總理大臣署理內部大臣 朴 定 陽  
法 部 大 臣 趙 秉 稷

(參照)

官報號外 建陽元年二月二十三日

叙 任 及 辭 令

法 部 大 臣 趙 秉 稷

任農商工部大臣叙勅任官一等

朝鮮新政府ノ現況



解大臣署理事務

農商工部協辦 高永喜

任法部大臣叙勅任官一等

正二品 李範晉

任中樞院二等議官叙勅任官三等

法部協辦 鄭寅興

任法部協辦叙勅任官二等

內閣總書 權在衡

任中樞院一等議官叙勅任官二等

警務使 安馴壽

兼任警務使法部大臣 李範晉

依願免本官

外部交涉局長兼任外部參書官 陸鍾允

任外部交涉局長叙勅任官四等

從二品 閔商鎬

(以上二月二十二日)

### 公使ノ犯罪ニ對シ國家ノ負擔スベキ責任ノ程度適例

輓今外交ノ技能漸ク巧妙ノ域ニ達シ、談笑ノ間ニ國ヲ滅ボシ、王ヲ廢シ、弱者ノ肉ヲ割イテ強者ノ腹ヲ肥ヤスモノ比々皆然リ、故ニ公使タルモノ外國ニ使ヒシテ犯罪ヲナスガ如キハ極メテ少ナク、其例殆ンド絶エタリト雖モ、少シク外交史ノ往時ニ溯レバ歷々トシテ其例アリ。今其一ニヲ左ニ掲ゲ、兼ネテ公使ノ犯罪ニ對シ公使所屬國ノ政府ガ如何ニ責任ヲ負擔セルヤノ觀察ヲ下サントス。

(イ) 千六百五十四年英國駐劄ノ佛國公使「ド、バツス」氏ハ「クロムウエル」ノ朝ニ公使タリシ時、「クロムウエル」ノ生命ヲ危ウセンコトノ隱謀ニ與ミセリトナシテ告訴サル、ヤ、審問委員會ハ同氏ヲシテ訊問ヲ受ケシメントセルモ、同氏ハ之ヲ拒絕シテ曰ク、「クロムウエル」ヨリ直接ニ訊問セラルレバ答フベシ、裁判官ノ訊問ニ至リテハ之ヲ受クルヲ肯ンゼズ、何トナ



レバ公使ナルヲ以テ、若シ他邦ノ裁判官ノ訊問ヲ受クルガ如キコトアルトキハ、自己ノ代表スル國主ノ威嚴ヲ損傷スレバナリト主唱シ、終ニ審問委員會ハ同氏ニ命ズルニ二十四時間内ニ英國ヨリ出發スベキ旨ヲ命ジタルニ止マリ、其後佛、英二國間ニ如何ニ交渉アリタルヤヲ記載セザルヲ以テ之レガ觀察ヲ下セバ必ラズヤ重大ノ難問ヲ生ゼズシテ終リタルナラン。

(ロ) 千七百十七年英國駐劄ノ瑞典全權公使「ギレンボルグ」ハ「ジョージ」一世ヲ廢スルノ隱謀ヲ企テタルノ故ヲ以テ逮捕セラレ、所有ノ箱類ノ錠前ヲ破毀搜索シ、一切ノ書類ヲ差押ヘタリ。然シテ瑞典ハ復讐的方法トシテ在「ストツクホルム」ノ英國公使ヲ逮捕セリ。佛國ノ攝政、其ノ一方ノ申請ニ依リ仲裁ノ勞ヲ取り、英、瑞双方其ノ逮捕セル公使ヲ互ニ交換スルヲ得タリ。「ギレンボルグ」ノ逮捕ハ英國自衛ノ方策トシテ必要ナリシモ、在瑞典ノ英國公使ヲ瑞典ガ逮捕スルニ至テハ暴ト云フ可キナリ。此ノ例ニ依ルモ佛國ノ攝政ノ仲裁ニ依リ、双方逮捕セル公使ヲ交換スルヲ得テ落着テ告ゲタルガ如クナルヲ以テ、之ヲ推究スレバ又其後瑞典公使ノ犯罪ニ對シ、英、瑞二國間ニ甚ダシキ難問生ゼズシテ止ミタルナラン。

(ハ) 千七百十八年佛國駐劄ノ西班牙公使「セラメール」前例ト同一ノ理由、即チ佛國自衛ノ必要上ヨリ佛國政府ハ同公使ヲ逮捕シ、其ノ書類ヲ差押ヘ、軍兵ヲ付シテ西班牙國境マデ送還セリ、本例又其後何等重大ノ影響ヲ生ジタルヲ聞カズ。

(ニ) 千八百四年合衆國駐劄ノ西班牙公使「イルジョー」金錢ヲ以テ合衆國ノ新聞記者ヲ攬シ、盛ニ己レノ意見ヲ記述シテ大統領及ビ國務大臣ノ不利益ヲ來シ、極メテ困難ヲ感ゼシメタルヲ以テ、合衆國政府ハ斯ノ如キ公使ヲ召喚センコトヲ西班牙政府ニ通牒ス。西班牙ノ王答ヘテ曰ク、何時ニテモ安全ナル航海ヲナシ得ル時期ニ於テ歸リ來ルノ許可ヲ公使ニ與ヘ置ケルト、而シテ「イルジョー」ハ其後數ヶ月ニ渡ルモ歸リ去ラズ、合衆國ノ議會ハ痛ク「イルジョー」ノ行爲ヲ攻撃セリ。「イルジョー」ハ答ヘテ曰ク、余ハ隱謀ヲ企テ反亂ヲ煽動シ、若クハ其他合衆國政府ニ反對スル何等ノ異圖ヲ畫スルモノニアラズ、苟クモ是等ノ事ヲ爲サル以上ハ合衆國議會ノ云フガ如キ攻撃ヲ受クル筈ナシ。余ハ本國政府ノ命令ノ外何等之ヲ奉ズルノ義務ナク、己レノ欲スル所ニ往來シ、己レノ欲スル所ニ住居スベキノミト、合衆國政府ハ敢テ重ネテ批難ノ書狀等ヲ發セズ、「イルジョー」自身ノ良心ニ於テ悔悟スル所アラシメント欲シタルモ其ノ効ナカリシヲ以テ、合衆國政府ハ本件ニ關スル往復文書等ヲ西班牙政府ニ送達セシニ、西班牙ノ國務大臣ハ却テ同國公使「イルジョー」ノ意見ヲ是トスル旨ヲ回答セリ。其後如何ニ本件ノ落着テ告ゲタルヤ明カナラザルヲ以テ考フレバ亦甚ダ難問ヲ生ゼザリシガ如シ。

(ホ) 千八百四十八年西班牙駐劄ノ英國公使「サー、エッチ、バルワー」ハ旅行券ヲ返還シ西班牙ノ土地ヲ退去スルコトヲ同政府ヨリ要求セラレタリ。此時ニ當ツテ西班牙ノ各地ニ一揆



起リ、同國政府ハ英國公使「サー、エツチ、バルワー」氏ガ國內ノ不平黨ニ援助ヲ與ヘタルニ  
ヨルトナセリ。斯ノ如クシテ英、西二國間ノ外交ノ關係二年間中止セラレタルモ「ベルジュー  
ム」王ノ仲裁ニ依リ全ク落着ヲ告グルヲ得タリ。

(一) 千八百八十八年ノ秋、華士頓駐劄ノ英國公使「ロード、サツクビル」ハ「カリフォル  
ニヤ」ニ住スル英國生レノ市民ヨリ書ヲ領收セルニ、次期ノ大統領撰擧ニハ何黨ヨリ撰出スベ  
キヤニ就キ忠告ヲ乞ヒ來レルナリ。該書中時ノ政府ヲ批難スル點モアリテ、「ロード、サツクビ  
ル」モ亦該批難ニ同意スルノ回答ヲ送レリ。合衆國政府國務大臣「ベイヤード」氏ハ此ノ英公  
使ノ所爲ヲ以テ合衆國ノ内政ニ不當ノ干涉ヲナシ、其ノ主權ノ威嚴及ビ獨立ヲ脅カスノ嫌ヒア  
ルモノナリトシテ、英國政府ニ宜シク公使ヲ處分スベキコトヲ申入レタルモ、其ノ効ヲ見ザリ  
シガ爲メ、英公使ノ旅行券ヲ返還シ、本國退去ヲ請求セリ。「ロード、サリスベリー」ハ本件ニ  
關シ英國駐劄ノ亞米利加公使ニ告ゲテ曰ク、公使タルモノハ其ノ駐劄國ニ生ズル事件ニ關シ一  
私人ノ資格ヲ以テスルモ尙ホ意見ヲ表彰スルコト能ハズトノ原則ヲ置カントスルガ如キハ、到  
底出來得ベカラザルコトニアラズヤト、且ツ新聞紙ニ該英國公使ガ新聞記者ト會見セル節云へ  
ル處ノ意見ナリトシテ記載セルコトニ關シテハ、同公使ノ説明書ヲ得テ後ニ回答センコトヲ告  
ゲタリ。而シテ同公使ハ右説明書ノ達スル前ニ退去スルコトトハナレリ。英國公使ハ「ロード、

サリスベリー」ニ復命シテ曰ク、新聞記者ト會見セル節ニ云ヘル所ノ意見ナリトシテ記載セル  
所ノモノハ事實錯誤ニ出デタルモノナルコトヲ合衆國々務大臣ニ通牒シアルニモ拘ラズ、新聞  
ノ記事ヲ以テ自己ノ眞意見トナシテ責ヲ歸セシメントスルガ如キハ不當ナルモノナリト、英國  
政府ハ合衆國ノ大統領及ビ大臣ガ英公使ニ對シテ右ノ所爲アリタルハ畢竟大統領撰擧ノ熱情ヨ  
リ生ジタル一個人的ノ事ニ止マルモノトシ、次期ノ大統領就任式ノアルマデハ英國公使館ノ事  
務ヲ公使館一等書記官ニ委任シ終レリ。

以上ノ數例ニ徴スルニ公使ノ不當行爲若クハ犯罪ニ對シテ、公使ノ君主若クハ國ヲ代表シテ  
中立不可侵タルノ權ハ失フモノタルモ、該公使ノ不當行爲及ビ犯罪ノ結果ニ對シ公使ヲ派出セ  
ル國ニ嚴談ニ及ビ、難問ヲ生ジタルノ例ハ殆ンド之ナキガ如シ。只ダ該公使ヲ派遣セル國ニシ  
テ該公使ノ飽クマデ中立不可侵ヲ主張シ若クハ庇保セントスルトキ始メテ多少ノ難問ヲ生ジ、  
紛争ノ種子トナルナキヲ保セザルノミ。故ニ苟クモ公使ノ所爲反法ノモノナルトキハ公明正大  
該國ノ法ニ從テ處スルニ任シ、若シ治外法權ノ行ハル、國ニアリテハ公使ノ國法ニ從テ處分シ、  
駐劄國ヲ満足セシメ、本國亦顧ミテ疚シキコトナキニ於テハ該駐劄國ト雖モ何等ノ苦情ヲ我ニ  
對シ主張シ得ザルナリ。況ンヤ與國オヤ。然ルヲ況ンヤ該駐劄國政府變ジ、却テ該公使ノ行爲  
ニ對シ満足ノ意ヲ表スルガ如キ時ニ於テオヤ。然レバ公使ノ派遣タル之ヲ派遣セル國ハ外國政



府ニ請ヒ之ニ充分ノ信任ヲ置カレンコトヲ希望シ、一見其ノ公使ノ不法行爲ニ對シテハ責任重大ナルニモ拘ラズ、各國間數百年ノ經驗慣例ニ徵スルニ公使ノ犯罪ニ對シテハ本國政府ニ於テ該公使ヲ庇保セントシ、若クハ中立不可侵等ヲ主張セザル以上ハ、責任ハ公使ノ一身ニ止マリ、敢テ本國ニ係累ヲ及ボサルモノト謂フベキナリ。

## 朝鮮事變ニ付長谷場純孝ヨリ 華族會館長ニ宛テタル書

謹ンデ一書ヲ華族諸公閣下ニ呈ス。某窃カニ案ズルニ當今ノ危機、上ハ皇室ノ榮辱ニ關シ、下ハ國家ノ休戚ニ及ブ、苟クモ生ヲ皇土ニ承ケ、忠君愛國ノ赤心ヲ持スルモノ、實ニ傍觀坐視ス可ラザルノ秋ナリ。況ンヤ諸公ノ如キハ、皇室ノ寵遇ヲ辱ウシ、國家ノ殊遇ヲ專ラニシ、位尊ク爵高ク、皇室ノ藩屏タリ。國家ノ精英タリ。國民ノ軌範タル天職アルニ於テオヤ。故ニ某自ラ揣ラズ敢テ滿腔ノ赤心ヲ披瀝シテ諸公ノ賢慮ヲ仰グ、幸ニ之ヲ裁セヨ。

夫レ十月八日ノ〇〇〇タル事體甚ダ容易ナラズ、今ヤ司法問題ハ既ニ豫審進行中ニ屬スト雖モ、之ヲ以テ司法問題ニノミ放抛スベカラザルナリ。何トナレバ其ノ事ノ聯接スル所遠キハ東洋政略ノ消長ヨリ、近キハ大日本帝國ノ汚隆ニ及ブ、特ニ看過スベカラザルハ我が允文允武ナル 天皇陛下ノ御聖德ニ關スルガ故ナリト爲ス。惟フニ諸公ノ忠厚誠摯ナル必ラズ日夜苦







狎レ、陛下ヲ孤柱トシテ苟クモ自己ノ責任ヲ免レントス。假令其ノ心ニアラザルモ事實ニ於テハ自己ノ罪ヲ陛下ニ稼シ奉ラントスルナリ。其ノ不忠ニシテ不臣ナル、天地神人俱ニ怒ル所、而シテ彼ノ憲法起草者タル伊藤首相ノ如キハ自カラ疚シキ所ナシト爲シ、悠悠大磯ニ閑臥シ、國家危機日一日切迫シ來タルヲ意トセザルニ似タリ。某思フテ此ニ至ル、殆ンド慟天哭地、微衷ノ訴フルニ由ナキヲ憾ミト爲ス。

諸公ノ國事ニ熱心ナル、以上ノ事體ハ諸公ノ夙ニ看破シ給フ所ナラム。某亦タ奚ンゾ呶々ヲ費スヲ要センヤ。唯ダ諸公ハ皇室ノ藩屏ヲ以テ自カラ任ジ給ヒ、國民ハ諸公ニ望ムニ國家ノ精英ヲ以テス。而シテ皇室亦タ厚ク諸公ヲ倚信シ給フ、國家事アレバ諸公身ヲ以テ之ニ先ゼザル可カラズ。況ンヤ事直チニ皇室ノ榮辱ニ關スルニ於テオヤ。直チニ陛下ノ聖德ニ關スルニ於テオヤ。古ハ主辱メラルレバ臣死スト云ヘリ。今ヤ諸公徒手安坐成敗ヲ觀望スルノ時ニアラズ、諸公高明必ラズ能ク之ヲ察セム。

某按ズルニ諸公ハ國家經營ニ大功勳アル賢相名將ノ裔ニシテ、近クハ維新中興ノ偉業ノ如キ諸公主トシテ之ヲ翼賛シ、或ハ勤王ノ主唱トナリ、或ハ封土ヲ返還シ、以テ國家統一ノ大業ヲ成就シ、普天ノ下王土ニアラザルナク、率土ノ濱王臣ニアラザルナキノ盛世ヲ見ルニ至レリ。

諸公ノ功勳亦タ偉ナリト云フ可シ。維新以來殆ンド三十年、諸公皇室ノ特恩ニ浴シ、皇

室ト共ニ千載ニ血食シ、或ハ天顏ニ咫尺シ、或ハ文武ノ要職ニ任ジ、或ハ退イテ教育、慈善殖産等開物成務利用厚生ノ業ニ任ジ、以テ皇室ト休戚ヲ同ウシ、以テ皇室ノ藩屏トナル。諸公ノ報効亦タ少ナキニアラズ。諸公ノ盡瘁亦タ多カラズトセズ。然レドモ世ノ曠々者ハ近年貴族院ニ於ケル二三ノ現象ヲ以テ直ニ諸公ヲ目シテ皇室ノ藩屏ニアラズシテ伊藤内閣ノ藩屏トナシ、甚ダシキハ門地高ク勳位崇キ大日本歴史ノ光榮タル賢相名將ノ裔タル諸公ヲ目シテ伊藤首相ノ奴隸ト爲スニ至ル。某實ニ其ノ妄誣ヲ悲シミ、諸公ノ爲ニ之ヲ怍ヅ、然リト雖モ衆口金ヲ鑠シ、積羽船ヲ沈ム、諸人ノ簧舌得テ縛ス可ラズ、唯ダ諸公ノ勇往敢爲皇室ノ爲ニ身ヲ致シ、國家ノ爲ニ力ヲ竭シ、而シテ後初メテ諸公ガ皇室ノ藩屏タリ、國家ノ精英タリ、國民ノ軌範タルヲ天下ニ憑證ス可キノミ。

某敢テ難キヲ以テ諸公ニ望ムニアラズ、不肖爲スナシト雖モ亦タ皇室ノ恩澤ニ浴シ、國家ノ臣民タリ、豈ニ敢テ犬馬ノ勞ヲ盡サバランヤ。

某自カラ揣ラズ、心身ヲ舉ゲテ捐埃ヲ裨補セント欲ス茲ニ年アリ。唯ダ當今ノ危機既ニ眼前ニ迫リ、霜ヲ履ンデ堅氷臻ラントス。故ニ天下ノ大事ヲ二三同志ノ士ニ私スルヲ欲セズ、謹ンデ肝血ヲ吐イテ諸公ノ下執事ニ告グ、草莽ノ野人禮節ニ嫻ハズ、諸公幸ヒニ其ノ蕪言ヲ略シ、其ノ眞意ヲ酌量セヨ。頓首再拜



明治二十八年十二月十日

衆議院議員

長谷場純孝

華族會館長

伯爵東久世通禧殿閣下

## 柏田盛文意見書

朝鮮事變ニ對シ其ノ事件ノ得失ニ就テハ全ク相異ナル二種ノ觀察アルニモ係ハラズ、其ノ終局スル所内閣ノ責任ニ歸スルニ至ツテハ同一ナリ。(中略)

之ヲ要スルニ非難攻撃ノ點ハ全ク正反對ナルモ、結局責任ヲ免ルベカラザルノ點ニ至ツテハ同一ナリ。此ノ明白直截ナル責任アルニモ係ラズ、之ヲ不問ニ措ク如キアラバ、立憲政ノ精神ハ已ニ亡滅セシモノト云フモ誣言ニアラズ。且ツ遼東問題ハ全ク既往ニ屬セシモ、朝鮮問題ニ至ツテハ現在及ビ將來ニ關聯セシ問題ナリ。見ズヤ昨今又々紛出セシ事變ヲ、露國ハ疑ヒモナク跋扈跳梁縱橫ノ策ヲ用ヒ、權詐ノ略ヲ施シ、之ヲ操縦スル其極ニ至ラザルナシ。而シテ日本ハ其間ニ處シテ指ヲ啣ミ空シク傍觀スル墓ナキ境遇ニ沈淪セリ。曩日清國ガ條約ヲ無視シ、同國ヲ藩屬トシテ勝手ニ取扱フモノト何ノ逕庭アラン。嗚呼殆ンド當年ノ雄圖ヲシテ空シク邯鄲ノ一夢ニ歸セシムルノ憾ミアリ。苟クモ一念茲ニ及ベバ誰レカ血涙ノ潜然タラザルモノアラン